

3. 資料編

朝鮮の水産業開発に関する文献リスト(1887～2014)

原田 環
藤井 賢二

はじめに

このリストは、1887年から2014年までに発表された、朝鮮の水産業の開発に関する文献を整理したもので、先の方原田環「朝鮮半島への日本人の漁業進出史に関する文献リスト(1893～2010)」(『県立広島大学人間文化学部紀要』No.7、2012、Tamaki HARADA, “Bibliography on the History of the Japanese expansion into Korean fisheries < 1893～2010 >”, *Bulletin of the Faculty of Human Culture and Science, Prefectural University of Hiroshima* No.7, 2012) を、大幅に増補したものである。

このたび取り上げた以外にも多数の文献があるが、紙数の関係上、他の機会に譲った。

文献リスト

1887- 1892年	1	筆者不明(1887)、「朝鮮国咸鏡道永興管下柳島塩田の実況」、『大日本水産会報告』63、大日本水産会事務所(東京)
	2	青柳忠一(1887)、「隠岐国水産ノ景況ヲ述ベ併セ改良ノ意見ヲ陳ス」、『大日本水産会報告』65、大日本水産会事務所
	3	黒野元生(1888)、「朝鮮沿岸の地図及海図」、『大日本水産会報告』76、大日本水産会事務所
	4	太田美之(1889)、「佐賀の関に於ける遠洋漁船」、『大日本水産会報告』93、大日本水産会事務所
	5	筆者不明(1890)、「日本朝鮮両国通漁規則」、『大日本水産会報告』95、大日本水産会事務所
	6	元山領事(1890)、「水産局録事 朝鮮産昆布」、『大日本水産会報告』99、大日本水産会事務所
	7	筆者不明(1890)、「露国の捕鯨船」、『大日本水産会報告』102、大日本水産会事務所
	8	筆者不明(1890)、「朝鮮の漁業」、『大日本水産会報告』102、大日本水産会事務所
	9	筆者不明(1890)、「佐賀関人遠海漁業の起原」、『大日本水産会報告』103、大日本水産会事務所
	10	筆者不明(1890)、「日本海に於ける露国人の捕鯨」、『大日本水産会報告』104、大日本水産会事務所
	11	筆者不明(1891)、「朝鮮釜山水産会社」、『大日本水産会報告』106、大日本水産会事務所
	12	筆者不明(1891)、「佐賀関遠洋漁船の遭難」、『大日本水産会報告』106、大日本水産会事務所

1887- 1892年	13	筆者不明(1891)、「朝鮮釜山水産会社」、『大日本水産会報告』108、大日本水産会事務所
	14	筆者不明(1891)、「済州島事件」、『大日本水産会報告』114、大日本水産会事務所
	15	筆者不明(1891)、「朝鮮国出稼漁業」、『大日本水産会報告』114、大日本水産会事務所
	16	田中慶介(1891)、「広島県漁民朝鮮海出漁の概況」、『大日本水産会報告』116、大日本水産会事務所
	17	玉名 清(1891)、「朝鮮海漁業概況」、『大日本水産会報告』116、大日本水産会事務所
	18	筆者不明(1892)、「朝鮮通漁状況通信」、『大日本水産会報告』117、大日本水産会事務所
	19	玉名 清(1892)、「朝鮮海漁業概況(承前)」、『大日本水産会報告』117、大日本水産会事務所
	20	玉名 清(1892)、「朝鮮海漁業概況(承前)」、『大日本水産会報告』118、大日本水産会事務所
	21	筆者不明(1892)、「日本朝鮮両国通漁規則改正の件」、『大日本水産会報告』118、大日本水産会事務所
	22	筆者不明(1892)、「佐賀関水産会の創立」、『大日本水産会報告』118、大日本水産会事務所
	23	筆者不明(1892)、「朝鮮海に於ける本邦漁船数」、『大日本水産会報告』121、大日本水産会事務所
1893年	24	関沢明清述(1893)、『朝鮮近海漁業ニ関スル演説』、熊本小次郎
	25	関沢明清・竹中邦香編(1893)、『朝鮮通漁事情』、団々社書店(東京)
	26	中川恒次郎(1893)、「朝鮮の外国貿易 附漁業の景況」、『朝鮮彙報』、東邦協会(東京)
	27	関沢明清(1893)、「朝鮮海漁業ノ概況」、『大日本水産会報 ☆』130、大日本水産会事務所 ☆№.123(1892)以降、誌名を『大日本水産会報告』から『大日本水産会報』に変更
	28	竹中邦香(1893)、「朝鮮海漁業ノ将来」、『大日本水産会報』130、大日本水産会事務所
	29	筆者不明(1893)、「朝鮮海の捕鯨」、『大日本水産会報』130、大日本水産会事務所
	30	竹中邦香(1893)、「朝鮮海重要水産物」、『大日本水産会報』131、大日本水産会事務所
	31	竹中邦香(1893)、「朝鮮海重要水産物」、『大日本水産会報』132、大日本水産会事務所
	32	竹中邦香(1893)、「朝鮮の水産物及其輸出取締方法」、『大日本水産会報』134、大日本水産会事務所
	33	竹中邦香(1893)、「朝鮮海重要水産物(承前)」、『大日本水産会報』133、大日本水産会事務所
	34	栗山久太郎・竹中邦香(1893)、「(質疑応答) 朝鮮海鱈漁の件」、『大日本水産会報』136、大日本水産会事務所
1894年	35	外務省通商局第二課編(1894)、『朝鮮近海漁業視察概況報告(関沢明清報告)』、外務省通商局第二課(東京)
	36	筆者不明(1894)、「朝鮮沿海漁業ノ景況」、『通商彙纂』2(明治27年1月刊行)、外務省通商局
	37	筆者不明(1894)、「咸鏡江原両道ニ於ケル日本人漁業ノ景況」、『通商彙纂』 ^{ママ} 1 ☆(明治27年2月刊行)、外務省通商局 ☆号数表記の変更

1894年	38	筆者不明(1894)、「釜山港干鯛ノ商況」、『通商彙纂』 ^{ママ} 1(明治27年2月刊行)、外務省通商局
	39	筆者不明(1894)、「朝鮮咸鏡及江原兩道の沿海ニ於ケル本邦人漁業ノ景況」、『通商彙纂』7、外務省通商局
	40	釜山領事館(1894)、「朝鮮沿海漁業の景況 二十六年十二月十三日現在」、『大日本水産会報』139、大日本水産会事務所
	41	筆者不明(1894)、「済州島に於ける鮑海鼠の減少」、『大日本水産会報』140、大日本水産会事務所
	42	鳥取県(1894)、「朝鮮近海出漁報告」、『大日本水産会報』141、大日本水産会事務所
	43	金子堅太郎(1894)、「国際公法上ニ於ケル漁業」、『大日本水産会報』143、大日本水産会事務所
	44	曲木如長(1894)、「漁業法制定ノ必要」、『大日本水産会報』143、大日本水産会事務所
	45	筆者不明(1894)、「咸鏡江原兩道に於ける本邦漁業者の景況」、『大日本水産会報』144、大日本水産会事務所
	46	筆者不明(1894)、「朝鮮海漁業協議会の概況」、『大日本水産会報』147、大日本水産会事務所
	47	筆者不明(1894)、「朝鮮乾鯛及支那油糟の輸入高」、『大日本水産会報』147、大日本水産会事務所
	48	村田 保(1894)、「朝鮮海漁業協議会ニ於テ」、『大日本水産会報』148、大日本水産会事務所
	49	下 啓助(1894)、「朝鮮海漁業協議会ニ望ム」、『大日本水産会報』148、大日本水産会事務所
	50	筆者不明(1894)、「朝鮮国招聘大使の来朝」、『大日本水産会報』149、大日本水産会事務所
	51	筆者不明(1894)、「朝鮮近海の漁利」、『大日本水産会報』150、大日本水産会事務所
52	村田 保(1894)、「村田幹事長大分五県巡回日記」、『大日本水産会報』150、大日本水産会事務所	
1895年	53	外務省通商局編(1895)、『鈴木余三男朝鮮国元山出張復命書』、外務省通商局(東京)
	54	秋田県秋田郡役所編(1895)、『朝鮮近海漁業联合会調査報告』、秋田県秋田郡役所
	55	筆者不明(1895)、「(彙報) 朝鮮沿海出漁奨励(兵庫県)」、『官報』1895年6月3日
	56	筆者不明(1895)、「仁川近海ニ於ケル本邦漁船ノ増加」、『通商彙纂』17、外務省通商局
	57	筆者不明(1895)、「朝鮮国江原道沿海鱈漁状況」、『通商彙纂』24、外務省通商局
	58	筆者不明(1895)、「釜山近海に於ける水産」、『日韓通商協会報告』4、日韓通商協会
	59	筆者不明(1895)、「日韓通漁規則」、『大日本水産会報』151、大日本水産会事務所
	60	鈴木余三男(1895)、「朝鮮国江原咸鏡兩道水産の概況」、『大日本水産会報』152、大日本水産会事務所
	61	筆者不明(1895)、「朝鮮海漁業協議会」、『大日本水産会報』152、大日本水産会事務所
	62	筆者不明(1895)、「朝鮮視察員」、『大日本水産会報』152、大日本水産会事務所

1895年	63	筆者不明(1895)、「朝鮮近海漁業聯合会創立紀要」、『大日本水産会報』153、大日本水産会事務所
	64	筆者不明(1895)、「朝鮮海漁業の意見」、『大日本水産会報』153、大日本水産会事務所
	65	筆者不明(1895)、「村田幹事長の山口県巡回日記」、『大日本水産会報』154、大日本水産会事務所
	66	筆者不明(1895)、「朝鮮近海漁業聯合会臨時大会」、『大日本水産会報』154、大日本水産会事務所
	67	筆者不明(1895)、「朝鮮海漁業補助誓願」、『大日本水産会報』154、大日本水産会事務所
	68	村田 保(1895)、「韓海漁業拡張に就て 村田幹事長の書翰」、『大日本水産会報』154、大日本水産会事務所
	69	筆者不明(1895)、「元山附近潜水器の使用」、『大日本水産会報』154、大日本水産会事務所
	70	筆者不明(1895)、「佐伯郡朝鮮近海出漁組合の規約」、『大日本水産会報』154、大日本水産会事務所
	71	筆者不明(1895)、「朝鮮海漁業免許状下付」、『大日本水産会報』154、大日本水産会事務所
	72	筆者不明(1895)、「釜山貿易景況」、『大日本水産会報』155、大日本水産会事務所
	73	筆者不明(1895)、「朝鮮近海漁業聯合会臨時大集会要録」、『大日本水産会報』156、大日本水産会事務所
	74	筆者不明(1895)、「朝鮮沿海出業奨励」、『大日本水産会報』156、大日本水産会事務所
	75	筆者不明(1895)、「遠洋漁業合資会社」、『大日本水産会報』156、大日本水産会事務所
	76	白石増治(1895)、「広島県漁民韓海出漁の成績」、『大日本水産会報』157、大日本水産会事務所
	77	筆者不明(1895)、「統計 明治二十八年自一月一日至四月三十日 朝鮮沿海出稼漁船一覽表」、『大日本水産会報』157、大日本水産会事務所
	78	筆者不明(1895)、「朝鮮海出漁組合設置の勧誘」、『大日本水産会報』157、大日本水産会事務所
	79	筆者不明(1895)、「私設暴風警報信号標」、『大日本水産会報』157、大日本水産会事務所
80	筆者不明(1895)、「水産集談会談話筆記」、『大日本水産会報』157、大日本水産会事務所	
81	筆者不明(1895)、「朝鮮慶尚道洛東駅食塩の景況」、『大日本水産会報』157、大日本水産会事務所	
82	筆者不明(1895)、「韓海出漁組合の加入」、『大日本水産会報』158、大日本水産会事務所	
83	筆者不明(1895)、「韓海出漁者の通信」、『大日本水産会報』158、大日本水産会事務所	
84	筆者不明(1895)、「朝鮮海出漁の利益」、『大日本水産会報』158、大日本水産会事務所	
85	筆者不明(1895)、「韓海出漁地方組合設置の状況」、『大日本水産会報』158、大日本水産会事務所	
86	筆者不明(1895)、「朝鮮国の漁業」、『大日本水産会報』158、大日本水産会事務所	
87	筆者不明(1895)、「朝鮮咸鏡道漁業一斑」、『大日本水産会報』158、大日本水産会事務所	

1895年	88	筆者不明(1895)、「朝鮮咸鏡道柳島の製塩」、『大日本水産会報』158、大日本水産会、大日本水産会事務所
	89	筆者不明(1895)、「朝鮮忠清道」、『大日本水産会報』158、大日本水産会事務所
	90	筆者不明(1895)、「水産物輸出の概況」、『大日本水産会報』159、大日本水産会事務所
	91	筆者不明(1895)、「韓海出漁地方組合設置の状況」、『大日本水産会報』159、大日本水産会事務所
	92	筆者不明(1895)、「朝鮮出漁景況」、『大日本水産会報』159、大日本水産会事務所
	93	筆者不明(1895)、「朝鮮近海漁業聯合談話筆記」、『大日本水産会報』159、大日本水産会事務所
	94	筆者不明(1895)、「朝鮮国江原道沿海鱈漁の近況」、『大日本水産会報』159、大日本水産会事務所
	95	筆者不明(1895)、「佐賀関鱸縄同盟規約」、『大日本水産会報』160、大日本水産会事務所
	96	筆者不明(1895)、「韓海出漁地方組合設置の状況」、『大日本水産会報』160、大日本水産会事務所
	97	筆者不明(1895)、「朝鮮近海出漁概況」、『大日本水産会報』160、大日本水産会事務所
	98	筆者不明(1895)、「水産物輸出の概況」、『大日本水産会報』161、大日本水産会事務所
	99	筆者不明(1895)、「韓海出漁組合設置の状況」、『大日本水産会報』161、大日本水産会事務所
	100	筆者不明(1895)、「岡山県遠洋漁業組合」、『大日本水産会報』161、大日本水産会事務所
1896年	101	筆者不明(1896)、「釜山港ニ於ケル昆布、乾蝦、魚油等ノ市況」、『通商彙纂』42、外務省通商局
	102	筆者不明(1896)、「元山港干鯛商組合規約」、『通商彙纂』45、外務省通商局
	103	筆者不明(1896)、「元山港ニ於ケル水産物ノ状況」、『通商彙纂』46、外務省通商局
	104	筆者不明(1896)、「釜山近海に於ける水産」、『日韓通商協会報告』5、日韓通商協会
	105	筆者不明(1896)、「釜山近海に於ける水産(承前)」、『日韓通商協会報告』6、日韓通商協会
	106	筆者不明(1896)、「朝鮮海の漁業に就て」、『日韓通商協会報告』9、日韓通商協会
	107	筆者不明(1896)、「朝鮮近海漁事」、『大日本水産会報』163、大日本水産会事務所
	108	筆者不明(1896)、「長崎県韓海出漁者数」、『大日本水産会報』163、大日本水産会事務所
	109	筆者不明(1896)、「明治廿八年度地方水産業の状況」、『大日本水産会報』163、大日本水産会事務所
	110	筆者不明(1896)、「漁業諮問会」、『大日本水産会報』164、大日本水産会事務所
	111	筆者不明(1896)、「釜山水産会社魚類輸出入通関取扱規則」、『大日本水産会報』164、大日本水産会事務所
	112	筆者不明(1896)、「朝鮮鰻を輸入せんとす」、『大日本水産会報』164、大日本水産会事務所

1896年	113	筆者不明(1896)、「朝鮮輸入本邦産食塩需要の景況」、『大日本水産会報』165、大日本水産会事務所
	114	筆者不明(1896)、「朝鮮に於ける我漁民の遭難」、『大日本水産会報』166、大日本水産会事務所
	115	筆者不明(1896)、「韓海漁業者保護の請願」、『大日本水産会報』166、大日本水産会事務所
	116	筆者不明(1896)、「朝鮮海出漁の近況」、『大日本水産会報』167、大日本水産会事務所
	117	筆者不明(1896)、「朝鮮輸入本邦産食塩需要の景況続報」、『大日本水産会報』167、大日本水産会事務所
	118	筆者不明(1896)、「広島県朝鮮近海出漁概況」、『大日本水産会報』169、大日本水産会事務所
	119	筆者不明(1896)、「元山港干鰯輸出景況」、『大日本水産会報』169、大日本水産会事務所
	120	筆者不明(1896)、「釜山港魚油乾蝦等商況」、『大日本水産会報』170、大日本水産会事務所
	121	筆者不明(1896)、「朝鮮海漁業調査」、『大日本水産会報』171、大日本水産会事務所
	122	筆者不明(1896)、「朝鮮海漁業の景況」、『大日本水産会報』171、大日本水産会事務所
1897年	123	筆者不明(1897)、「朝鮮咸鏡道沿岸露国捕鯨船の概況」、『日韓通商協会報告』21、日韓通商協会
	124	筆者不明(1897)、「朝鮮国咸鏡道沿岸露国捕鯨船ノ概況」、『通商彙纂』63、外務省通商局
	125	守本聖一(1897)、「朝鮮沿海漁業調査」、『大日本水産会報』176、大日本水産会事務所
	126	筆者不明(1897)、「朝鮮海出漁者の取締」、『大日本水産会報』177、大日本水産会事務所
	127	筆者不明(1897)、「朝鮮海漁業」、『大日本水産会報』183、大日本水産会事務所
	128	肝付兼行(1897)、「漁業と海軍の関係(大日本水産会第十五回大集会演説)」、『大日本水産会報』186、大日本水産会事務所
1898年	129	福岡県水産試験場編(1898)、『朝鮮海漁業探検復命書』、福岡県水産試験場
	130	筆者不明(1898)、「元山ニ於ケル明大胆油試製報告」、『通商彙纂』93、外務省通商局
	131	筆者不明(1898)、「咸鏡道沿岸ニ於ケル本邦漁船」、『通商彙纂』106、外務省通商局
	132	筆者不明(1898)、「木浦ニ於ケル大麦及干鰯初廻荷ノ状況」、『通商彙纂』107、外務省通商局
	133	筆者不明(1898)、「江原道沿岸鰯漁獲ノ状況」、『通商彙纂』108、外務省通商局
	134	筆者不明(1898)、「木浦ニ於ケル本邦魚油輸入状況」、『通商彙纂』109、外務省通商局
	135	筆者不明(1898)、「自一月至七月釜山港付近漁業情況」、『通商彙纂』111、外務省通商局
	136	筆者不明(1898)、「釜山港海産物の相場」、『日韓通商協会報告』30、日韓通商協会
	137	筆者不明(1898)、「朝鮮海に於ける漁業上の調査」、『日韓通商協会報告』32、日韓通商協会

1898年	138	筆者不明(1898)、「朝鮮海にて二千五百円余の漁獲」、『日韓通商協会報告』34、日韓通商協会
	139	筆者不明(1898)、「江原道沿岸鰯漁獲の状況」、『日韓通商協会報告』37、日韓通商協会
	140	筆者不明(1898)、「朝鮮海出漁者の取締法」、『大日本水産会報』187、大日本水産会事務所
	141	筆者不明(1898)、「朝鮮及支那海出漁実況」、『大日本水産会報』188、大日本水産会事務所
	142	成田 定(1898)、「朝鮮海出漁者保護監督の必要」、『大日本水産会報』188、大日本水産会事務所
	143	藤田守正(1898)、「朝鮮近海漁業帝国臣民取締法発布に就て」『大日本水産会報』188、大日本水産会事務所
	144	筆者不明(1898)、「朝鮮に於ける鰻の産地及価格」、『大日本水産会報』189、大日本水産会事務所
	145	筆者不明(1898)、「朝鮮海鱸漁業」、『大日本水産会報』190、大日本水産会事務所
	146	朝鮮漁業協会(1898)、「朝鮮慶尚全羅沿海巡邏報告」、『大日本水産会報』190、大日本水産会事務所
	147	筆者不明(1898)、「朝鮮漁業協会の拡張」、『大日本水産会報』190、大日本水産会事務所
	148	筆者不明(1898)、「福岡県残島村韓海出漁」、『大日本水産会報』193、大日本水産会事務所
	149	筆者不明(1898)、「広島県朝鮮出漁の景況」、『大日本水産会報』193、大日本水産会事務所
	150	筆者不明(1898)、「朝鮮漁業協会木浦支部の設置」、『大日本水産会報』193、大日本水産会事務所
	151	筆者不明(1898)、「木浦海産合資会社の創立」、『大日本水産会報』193、大日本水産会事務所
	152	筆者不明(1898)、「七山島石首魚漁業」、『大日本水産会報』193、大日本水産会事務所
	153	筆者不明(1898)、「朝鮮海の捕鯨及鯖鰻鯛」、『大日本水産会報』193、大日本水産会事務所
	154	筆者不明(1898)、「朝鮮釜山港に於ける缶詰事業」、『大日本水産会報』194、大日本水産会事務所
	155	筆者不明(1898)、「朝鮮漁業協会第三回巡邏報告」、『大日本水産会報』195、大日本水産会事務所
	156	筆者不明(1898)、「木浦干鰯初回荷状況」、『大日本水産会報』195、大日本水産会事務所
157	筆者不明(1898)、「島根県通信」、『大日本水産会報』196、大日本水産会事務所	
158	筆者不明(1898)、「島根県水産組合聯合会議所臨時会の開設」、『大日本水産会報』196、大日本水産会事務所	
159	筆者不明(1898)、「朝鮮近海鱸漁業」、『大日本水産会報』196、大日本水産会事務所	
160	松宮永吉(1898)、「釜山港通信」、『大日本水産会報』196、大日本水産会事務所	
161	岩田政治(1898)、「朝鮮元山港通信」、『大日本水産会報』196、大日本水産会事務所	
162	筆者不明(1898)、「第二回漁業集談会の状況」、『大日本水産会報』197、大日本水産会事務所	

1898年	163	筆者不明(1898)、「朝鮮忠清道竹島漁業」、『大日本水産会報』198、大日本水産会事務所
1899年	164	宮尾舜治(1899?)、『宮尾税関監視官韓国出張復命書』、出版元不明
	165	筆者不明(1899)、「咸鏡江原両道沿海捕鯨景況」、『通商彙纂』128、外務省通商局
	166	筆者不明(1899)、「木浦海草状況」、『通商彙纂』133、外務省通商局
	167	筆者不明(1899)、「韓国全羅南道七山灘付近漁業情況」、『通商彙纂』138、外務省通商局
	168	筆者不明(1899)、「韓国忠清道沿岸本邦人漁業状況」、『通商彙纂』140、外務省通商局
	169	筆者不明(1899)、「咸鏡道沿岸海鼠獺景況」、『通商彙纂』144、外務省通商局
	170	筆者不明(1899)、「韓国江原道漁農状況」、『通商彙纂』154、外務省通商局
	171	筆者不明(1899)、「鬱陵嶋」、『地学雑誌』11-1、東京地学協会
	172	筆者不明(1899)、「大分県通信」、『大日本水産会報』199、大日本水産会事務所
	173	筆者不明(1899)、「香川県外国出漁漁船の概況」、『大日本水産会報』201、大日本水産会事務所
	174	筆者不明(1899)、「香川県韓海出漁者春季懇親会」、『大日本水産会報』201、大日本水産会事務所
	175	筆者不明(1899)、「鏡江両道沿海捕鯨景況」、『大日本水産会報』201、大日本水産会事務所
	176	筆者不明(1899)、「露韓捕鯨条約の調印」、『大日本水産会報』201、大日本水産会事務所
	177	筆者不明(1899)、「朝鮮木浦の海藻」、『大日本水産会報』204、大日本水産会事務所
	178	岩田政治(1899)、「韓国水産業に就て」、『大日本水産会報』205、大日本水産会事務所
	179	筆者不明(1899)、「朝鮮全羅南道七山灘の漁況」、『大日本水産会報』206、大日本水産会事務所
	180	筆者不明(1899)、「日本海方面聯合府県水産者大会」、『大日本水産会報』207、大日本水産会事務所
	181	筆者不明(1899)、「香川県の韓海探検」、『大日本水産会報』207、大日本水産会事務所
	182	筆者不明(1899)、「咸鏡道沿岸海鼠漁の景況」、『大日本水産会報』207、大日本水産会事務所
183	筆者不明(1899)、「関西府県聯合水産集談会決議の建議」、『大日本水産会報』208、大日本水産会事務所	
184	筆者不明(1899)、「大分県韓海探検」、『大日本水産会報』208、大日本水産会事務所	
185	筆者不明(1899)、「水産業大会」、『大日本水産会報』208、大日本水産会事務所	
186	筆者不明(1899)、「徳島県の韓海漁業」、『大日本水産会報』208、大日本水産会事務所	
187	牧 朴眞 ^{テオマサ} (1899)、「朝鮮の漁業」、『大日本水産会報』209、大日本水産会事務所	
188	在釜山朝鮮漁業協会(1899)、「朝鮮海水産業の実況(第拾回巡邏報告)」、『大日本水産会報』210、大日本水産会事務所	
189	筆者不明(1899)、「朝鮮出漁警戒の訓示」、『大日本水産会報』210、大日本水産会事務所	

1899年	190	筆者不明(1899)、「朝鮮近海の水産業」、『大日本水産会報』210、大日本水産会事務所
1900年	191	農商務省水産局編(1900)、『日本水産史』、農商務省水産局
	192	秋田県内務部第四課編(1900)、『秋田県勸業報文』60、秋田県内務部
	193	大分県内務部第四課編(1900)、『韓海漁業視察復命書』、大分県庁
	194	佐賀県内務部第四課編(1900)、『韓海漁業視察復命書』、佐賀県内務部
	195	筆者不明(1900)、「韓国東海岸漁業」、『通商彙纂』160、外務省通商局
	196	筆者不明(1900)、「韓国明太魚」、『通商彙纂』167、外務省通商局
	197	筆者不明(1900)、「群山沖漁業」、『通商彙纂』173、外務省通商局
	198	筆者不明(1900)、「元山海鼠漁」、『通商彙纂』174、外務省通商局
	199	筆者不明(1900)、「韓国咸鏡沿岸海鼠漁」、『通商彙纂』175、外務省通商局
	200	筆者不明(1900)、「木浦海草」、『通商彙纂』176、外務省通商局
	201	筆者不明(1900)、「韓国慶尚道南岸漁業情況」、『通商彙纂』177、外務省通商局
	202	筆者不明(1900)、「韓国に於ける蔘圃と採漁との交換問題」、『東京経済雑誌』1052、東京経済雑誌社
	203	在釜山朝鮮漁業協会(1900)、「朝鮮海水産業の実況(第拾回巡邏報告の続き)」、『大日本水産会報』211、大日本水産会事務所
	204	韓国釜山朝鮮漁業協会(1900)、「韓海捕鯨業之一班」、『大日本水産会報』212、大日本水産会事務所
	205	朝鮮漁業協会(1900)、「朝鮮海漁業に対する希望」、『大日本水産会報』213、大日本水産会事務所
	206	朝鮮漁業協会(1900)、「朝鮮海水産業の実況(第拾回巡邏報告の続き)」、『大日本水産会報』213、大日本水産会事務所
	207	筆者不明(1900)、「韓海出漁の奨励」、『大日本水産会報』213、大日本水産会事務所
	208	韓国釜山朝鮮漁業協会(1900)、「朝鮮漁業協会第十一回巡邏報告」、『大日本水産会報』214、大日本水産会事務所
209	筆者不明(1900)、「広島県遠洋漁業の奨励」、『大日本水産会報』214、大日本水産会事務所	
210	筆者不明(1900)、「広島県朝鮮海通漁組合」、『大日本水産会報』214、大日本水産会事務所	
211	韓国釜山朝鮮漁業協会(1900)、「朝鮮漁業協会第十一回巡邏報告(承前)」、『大日本水産会報』215、大日本水産会事務所	
212	筆者不明(1900)、「韓海通漁組合聯合大会」、『大日本水産会報』215、大日本水産会事務所	
213	筆者不明(1900)、「清韓遠洋漁業調査」、『大日本水産会報』216、大日本水産会事務所	
214	筆者不明(1900)、「韓海通漁組合聯合会」、『大日本水産会報』216、大日本水産会事務所	
215	韓国釜山朝鮮漁業協会(1900)、「三十二年下半期漁業状況報告」、『大日本水産会報』218、大日本水産会事務所	
216	筆者不明(1900)、「朝鮮海通漁組合聯合会設置」、『大日本水産会報』218、大日本水産会事務所	
217	韓国釜山朝鮮漁業協会(1900)、「朝鮮漁業協会第十二回巡邏報告」、『大日本水産会報』219、大日本水産会事務所	
218	筆者不明(1900)、「元山海鼠漁業状況」、『大日本水産会報』219、大日本水産会事務所	

1900年	219	筆者不明(1900)、「咸鏡道沿岸本邦人海鼠漁業状況」、『大日本水産会報』219、大日本水産会事務所
	220	筆者不明(1900)、「韓国明太子漁業の状況」、『大日本水産会報』219、大日本水産会事務所
	221	朝鮮漁業協会(1900)、「朝鮮漁業協会第十三回巡邏報告」、『大日本水産会報』220、大日本水産会事務所
	222	筆者不明(1900)、「大分県鱸漁報告」、『大日本水産会報』220、大日本水産会事務所
	223	筆者不明(1900)、「山口県鱸取調報告」、『大日本水産会報』220、大日本水産会事務所
	224	筆者不明(1900)、「韓国木浦海草商況」、『大日本水産会報』220、大日本水産会事務所
	225	筆者不明(1900)、「朝鮮海通漁組合聯合会本部最近報告」、『大日本水産会報』220、大日本水産会事務所
	226	林 駒生(1900)、「朝鮮通漁聯合会元山支部第一回巡邏報告」、『大日本水産会報』222、大日本水産会事務所
	227	筆者不明(1900)、「韓国京畿道沿岸付近の漁業」、『大日本水産会報』222、大日本水産会事務所
	228	筆者不明(1900)、「韓国京畿道漁業権」、『大日本水産会報』222、大日本水産会事務所
1901年	229	農商務省水産局編(1901)、『日本帝国水産一斑』、農商務省水産局
	230	筆者不明(1901)、「韓国慶尚道沿岸漁業情況」、『通商彙纂』187、外務省通商局
	231	筆者不明(1901)、「韓国咸鏡道北関沿海明太魚漁況」、『通商彙纂』188、外務省通商局
	232	筆者不明(1901)、「木浦明太魚商況」、『通商彙纂』189、外務省通商局
	233	筆者不明(1901)、「韓国咸鏡道明太魚漁況」、『通商彙纂』189、外務省通商局
	234	筆者不明(1901)、「韓国慶尚道巨済島付近漁業(3月報告)」、『通商彙纂』191、外務省通商局
	235	筆者不明(1901)、「木浦海草商況」、『通商彙纂』191、外務省通商局
	236	筆者不明(1901)、「韓国慶尚道沿岸漁業情況」、『通商彙纂』194、外務省通商局
	237	筆者不明(1901)、「韓国慶尚道沿岸捕鯨状況」、『通商彙纂』194、外務省通商局
	238	筆者不明(1901)、「韓国咸鏡、江原兩道捕鯨情況」、『通商彙纂』196、外務省通商局
	239	筆者不明(1901)、「韓国咸鏡春季海鼠漁獲状況」、『通商彙纂』200、外務省通商局
	240	筆者不明(1901)、「韓国慶尚南道漁業状況」、『通商彙纂』201、外務省通商局
	241	葛生修亮(修吉)(1901)、「韓国沿海事情 (慶尚道)」、『会報』第1集、黒龍会(東京)
	242	筆者不明(1901)、「日本海中の一島嶼(ヤンコ)」、『地学雑誌』13-10、東京地学協会
	243	葛生修亮(1901)、「韓国沿海事情 全羅道」、『会報』第2集、黒龍会(東京)
	244	葛生修吉(1901)、「韓国沿海事情 全羅道(承前)」、『黒龍 ☆』第1巻第1号、黒龍会 ☆黒龍会『会報』を継承
	245	葛生修吉(1901)、「韓国沿海事情 江原道」、『黒龍』第1巻第2号、黒龍会

1901年	246	葛生修吉(1901)、「韓国沿海事情 江原道(承前)」、『黒龍』第1巻第3号、黒龍会
	247	葛生修吉(1901)、「韓国沿海事情 咸鏡道」、『黒龍』第1巻第4号、黒龍会
	248	葛生修亮(1901)、「韓国沿海事情 咸鏡道(承前)」、『黒龍』第1巻第5号、黒龍会
	249	葛生修亮(1901)、「韓海捕鯨業の状態」、『黒龍』第1巻第8号、黒龍会
	250	林 駒生(1901)、「朝鮮通漁聯合会元山支部第一回巡邏報告(承前)」、『大日本水産会報』223、大日本水産会事務所
	251	筆者不明(1901)、「福岡県の水産業」、『大日本水産会報』223、大日本水産会事務所
	252	筆者不明(1901)、「韓海通漁組合聯合会」、『大日本水産会報』223、大日本水産会事務所
	253	林 駒生(1901)、「朝鮮通漁聯合会元山支部第一回巡邏報告(承前)」、『大日本水産会報』224、大日本水産会事務所
	254	筆者不明(1901)、「山口県漁者の朝鮮慶尚道北部に於ける鱈漁」、『大日本水産会報』224、大日本水産会事務所
	255	筆者不明(1901)、「韓国明太魚漁況視察者の書信」、『大日本水産会報』224、大日本水産会事務所
	256	林 駒生(1901)、「朝鮮通漁聯合会元山支部第一回巡邏報告(承前)」、『大日本水産会報』225、大日本水産会事務所
	257	本部出張巡邏視察員(1901)、「朝鮮通漁組合聯合会本部第九回報告(承前)」、『大日本水産会報』225、大日本水産会事務所
	258	筆者不明(1901)、「広島県朝鮮海漁組合明治三十四年二月末組合員数取調」、『大日本水産会報』225、大日本水産会事務所
	259	松牧三郎(1901)、「諾威式捕鯨実験誌」、『大日本水産会報』226、大日本水産会事務所
	260	筆者不明(1901)、「韓海漁業調査出帆」、『大日本水産会報』229、大日本水産会事務所
	261	加藤 洋(1901)「朝鮮の明太魚漁業」、『大日本水産会報』230、大日本水産会事務所
	262	松牧三郎(1901)、「諾威式捕鯨実験誌(承前)」、『大日本水産会報』230、大日本水産会事務所
	263	筆者不明(1901)、「日本海方面府県聯合水産大会」、『大日本水産会報』230、大日本水産会事務所
	264	加藤 洋(1901)、「朝鮮の明太魚漁業(承前)」、『大日本水産会報』231、大日本水産会事務所
	265	鹿島萬兵衛(1901)、「肝付氏の『本邦水産の将来』を読む」、『大日本水産会報』231、大日本水産会事務所
266	筆者不明(1901)、「韓海鯛の好漁」、『大日本水産会報』231、大日本水産会事務所	
267	加藤 洋(1901)、「朝鮮の明太魚漁業(承前)」、『大日本水産会報』232、大日本水産会事務所	
268	郡司成忠(1901)、「明太魚漁業に就て」、『大日本水産会報』232、大日本水産会事務所	
269	筆者不明(1901)、「島根県近信」、『大日本水産会報』233、大日本水産会事務所	
1902年	270	香川県水産試験場編(1902)、『韓国漁業視察復命書』、香川県水産試験場
	271	広島県水産試験場編(1902)、『明治三十五年 水産試験場報告 第二号 朝鮮海漁場調査』、広島県水産試験場
	272	大分県庁内第九回西南区実業大会編(1902)、『大分県案内』、菁莪堂書店

1902年	273	筆者不明(1902)、「韓国欲知島付近漁業情況」、『通商彙纂』212、外務省通商局	
	274	筆者不明(1902)、「韓国咸鏡道ニ於ケル明太魚漁獲狀況」、『通商彙纂』213、外務省通商局	
	275	筆者不明(1902)、「韓国咸鏡道遮湖沖合ニ於ケル膾膾捕獲狀況」、『通商彙纂』213、外務省通商局	
	276	筆者不明(1902)、「韓国咸鏡道沿岸膾膾捕獲情況」、『通商彙纂』218、外務省通商局	
	277	筆者不明(1902)、「韓国群山沖竹島漁業情況」、『通商彙纂』219、外務省通商局	
	278	筆者不明(1902)、「韓国全羅南道七山灘付近漁況」、『通商彙纂』224、外務省通商局	
	279	筆者不明(1902)、「木浦海草商況」、『通商彙纂』225、外務省通商局	
	280	筆者不明(1902)、「木浦海草類商況」、『通商彙纂』227、外務省通商局	
	281	筆者不明(1902)、「韓国慶尚道南岸漁業情況」、『通商彙纂』231、外務省通商局	
	282	筆者不明(1902)、「韓国鬱陵島事情」、『通商彙纂』234、外務省通商局	
	283	筆者不明(1902)、「韓国江原、咸鏡兩道本邦人漁業情況」、『通商彙纂』235、外務省通商局	
	284	筆者不明(1902)、「韓国慶尚道南岸本邦人漁業近況」、『通商彙纂』235、外務省通商局	
	285	筆者不明(1902)、「韓国江原道沿海ニ於ケル本邦人捕鯨情況」、『通商彙纂』243、外務省通商局	
	286	筆者不明(1902)、「韓国慶尚道南部沿岸漁業情況」、『通商彙纂』245、外務省通商局	
	287	葛生修亮(1902)、「韓海に於ける捕鯨会社の成蹟」、『黒龍』第1巻第9号、黒龍会	
	288	筆者不明(1902)、「韓海に於ける膾膾の新獵場」、『黒龍』第11号、黒龍会	
	289	王 星(1902)、「鬱陵島と日本との関係」、『黒龍』第19号、黒龍会	
	290	筆者不明(1902)、「朝鮮咸鏡道の漁業」、『水産』2-1、水産同窓会(東京)	
	291	宮崎賢一(1902)、「韓国全羅道ノいしもち漁業」、『水産』2-2、水産同窓会	
	292	朝鮮海通漁組合聯合会(1902)、「朝鮮海の捕鯨業(朝鮮海通漁聯合會調査)」、『大日本水産会報』234、大日本水産会事務所	
	293	朝鮮海通漁組合聯合会(1902)、「朝鮮海の捕鯨業(承前)」、『大日本水産会報』235、大日本水産会事務所	
	294	筆者不明(1902)、「韓海漁業探検船」、『大日本水産会報』236、大日本水産会事務所	
	295	筆者不明(1902)、「本邦人の明太漁業」、『大日本水産会報』239、大日本水産会事務所	
	296	筆者不明(1902)、「明太魚と膾膾」、『大日本水産会報』239、大日本水産会事務所	
	297	三浦覚一(1902)、「大分県の遠洋漁業」、『大日本水産会報告』241、大日本水産会事務所	
	1903年	298	農商務省水産局編(1903)、『遠洋漁業奨励事業報告』、農商務省水産局
		299	広島県水産試験場編(1903)、『明治三十六年 水産試験場報告 第三号 朝鮮海漁場調査』、広島県水産試験場
300		葛生修吉(修亮、能久)(1903)、『韓海通漁指針』、黒龍会出版部(東京)	
301		岡 庸一(1903)、『最新韓国事情 一名 韓国經濟指針』、青木嵩山堂	

1903年	302	筆者不明(1903)、「韓国江原道沿海漁業状況」、『通商彙纂』248、外務省通商局
	303	筆者不明(1903)、「韓国全羅道濟州島漁業近況」、『通商彙纂』251、外務省通商局
	304	筆者不明(1903)、「元山港近海ニ於ケル鯨漁ノ情況」、『通商彙纂』改2☆、外務省通商局 ☆号数表記の変更:明治36年4月3日付刊行分を、「改第 ^マ 号」と表記
	305	筆者不明(1903)、「韓国元山港明太魚漁獲概況」、『通商彙纂』改3、外務省通商局
	306	筆者不明(1903)、「元山三十五年海鼠漁獲状況」、『通商彙纂』改12、外務省通商局
	307	筆者不明(1903)、「群山沖竹島漁業情況」、『通商彙纂』改21、外務省通商局
	308	筆者不明(1903)、「韓国全羅南道七山灘及竹島漁況」、『通商彙纂』改24、外務省通商局
	309	筆者不明(1903)、「木浦外港月島ノ苗鰓」、『通商彙纂』改24、外務省通商局
	310	筆者不明(1903)、「韓国江原道沿海本年春漁業情況」、『通商彙纂』改42、外務省通商局
	311	筆者不明(1903)、「韓国咸鏡、江原、慶尚三道沿海ニ於ケル日露人捕鯨情況」、『通商彙纂』改28、外務省通商局
	312	筆者不明(1903)、「韓国江原道秋季鱈漁情況(11月報告)」、『通商彙纂』改55、外務省通商局
	313	筆者不明(1903)、「鮓に関する調査」、『朝鮮協会会報』6、朝鮮協会
	314	林 駒生(1903)、「韓国江景に於ける魚市場設置に関する調査」、『黒龍』第20号、黒龍会
	315	宮崎賢一(1903)、「韓国全羅道ノいしもち漁業(承前)」、『水産』3-1、水産同窓会
	316	筆者不明(1903)、「韓国馬山附近の鱈釣」、『大日本水産会報』246、大日本水産会事務所
	317	筆者不明(1903)、「朝鮮海日本海臘肭獣猟報告」、『大日本水産会報』247、大日本水産会事務所
	318	筆者不明(1903)、「元山付近明太魚の盛漁」、『大日本水産会報』249、大日本水産会事務所
	319	筆者不明(1903)、「朝鮮海の新漁業」、『大日本水産会報』251、大日本水産会事務所
	320	筆者不明(1903)、「元山附近海參漁況」、『大日本水産会報』251、大日本水産会事務所
	321	筆者不明(1903)、「韓国落月島の小蝦」、『大日本水産会報』252、大日本水産会事務所
	322	筆者不明(1903)、「水産大会速記録」、『大日本水産会報』252、大日本水産会事務所
	323	筆者不明(1903)、「韓国七山灘及竹島漁業状況」、『大日本水産会報』252、大日本水産会事務所
	324	筆者不明(1903)、「大分県の模範漁船新造計画」、『大日本水産会報』253、大日本水産会事務所
	325	筆者不明(1903)、「韓国江原道鱈漁況」、『大日本水産会報』255、大日本水産会事務所
	1904年	326
327		農商務省水産局編(1904)、『府県水産奨励事業成績』、農商務省水産局

1904年	328	普賢寺達雄述(1904)、『普賢寺監視韓国出張調査報告書』、横浜税関
	329	逋信省管船局編(1904)、『北清及韓国海事取調書』、逋信省管船局
	330	佐藤政次郎(1904)、『韓半島の新日本 一名 韓国起業案内』、佐藤政次郎
	331	岩永重華編(1904)、『最近韓国実業指針 附渡航案内』、宝文館
	332	矢津昌永著(1904)、『韓国地理』、丸善
	333	筆者不明(1904)、「韓国咸鏡、江原兩道沿海ニ於ケル日露兩国人捕鯨情況(2月報告)」、『逋商彙纂』15☆、外務省逋商局 ☆号数表記の変更：明治37年1月8日付刊行分を「第一号」と表記
	334	筆者不明(1904)、「濟州島情況」、『逋商彙纂』15、外務省逋商局
	335	筆者不明(1904)、「濟州島情況」、『逋商彙纂』22、外務省逋商局
	336	筆者不明(1904)、「韓国咸鏡、江原兩道沿岸三十六年中海鼠漁獲概況」、『逋商彙纂』23、外務省逋商局
	337	筆者不明(1904)、「釜山ニ於ケル海産物需要狀況」、『逋商彙纂』29、外務省逋商局
	338	筆者不明(1904)、「群山沖竹島漁業情況」、『逋商彙纂』43、外務省逋商局
	339	筆者不明(1904)、「仁川ニ於ケル海産物需要狀況」、『逋商彙纂』43、外務省逋商局
	340	筆者不明(1904)、「韓国平安黄海兩道沿岸漁業狀況」、『逋商彙纂』48、外務省逋商局
	341	筆者不明(1904)、「韓国全羅道沿岸春季漁業狀況」、『逋商彙纂』48、外務省逋商局
	342	筆者不明(1904)、「韓国に於ける我漁權の拡張」、『地学雑誌』16-8、東京地学協会
	343	筆者不明(1904)、「韓国在留本邦人数」、『地学雑誌』16-11、東京地学協会
	344	松原新之助(1904)、「韓国の漁業に就て」、『東洋經濟新報』311、東洋經濟新報社
	345	筆者不明(1904)、「日韓漁業權の拡張と韓地拓殖の要求」、『東京經濟雑誌』1241、經濟雑誌社
	346	筆者不明(1904)、「韓海の明太魚好況」、『大日本水産会報』257、大日本水産会事務所
	347	筆者不明(1904)、「韓海江原道沿海の鱈漁況」、『大日本水産会報』257、大日本水産会事務所
	348	筆者不明(1904)、「朝鮮海水産組合の總會」、『大日本水産会報』258、大日本水産会事務所
	349	筆者不明(1904)、「府県の遠洋漁業奨励」、『大日本水産会報』260、大日本水産会事務所
	350	筆者不明(1904)、「濟州島の漁況」、『大日本水産会報』260、大日本水産会事務所
	351	筆者不明(1904)、「韓国元山港海産物輸出額」、『大日本水産会報』260、大日本水産会事務所
	352	筆者不明(1904)、「濟州島漁業近況」、『大日本水産会報』261、大日本水産会事務所
	353	矢野駒藏君報(1904)、「韓海漁業視察員派遣」、『大日本水産会報』262、大日本水産会事務所
	354	筆者不明(1904)、「日韓漁業權交換」、『大日本水産会報』263、大日本水産会事務所
355	筆者不明(1904)、「朝鮮移住漁業に就て」、『大日本水産会報』263、大日本水産会事務所	

1904年	356	筆者不明(1904)、「群山沖竹島の漁業状況」、『大日本水産会報』264、大日本水産会事務所
	357	筆者不明(1904)、「韓国の鯰漁業」、『大日本水産会報』265、大日本水産会事務所
	358	筆者不明(1904)、「韓国全羅道の漁業」、『大日本水産会報』265、大日本水産会事務所
	359	筆者不明(1904)、「(新刊紹介) 朝鮮海水産組合報 第一号 朝鮮水産組合発行」、『大日本水産会報』265、大日本水産会事務所
	360	筆者不明(1904)、「韓国の鯰漁業(承前)」、『大日本水産会報』266、大日本水産会事務所
	361	筆者不明(1904)、「千葉県水産組合聯合会の決議」、『大日本水産会報』267、大日本水産会事務所
	362	筆者不明(1904)、「山口県の韓国漁業試験」、『大日本水産会報』267、大日本水産会事務所
	363	筆者不明(1904)、「山口県水産奨励費下付規則改正」、『大日本水産会報』267、大日本水産会事務所
	364	筆者不明(1904)、「兵庫県水産水産奨励要綱」、『大日本水産会報』268、大日本水産会事務所
	365	筆者不明(1904)、「朝鮮海水産組合」、『大日本水産会報』268、大日本水産会事務所
	366	筆者不明(1904)、「韓国馬山領事の漁業告示」、『大日本水産会報』268、大日本水産会事務所
1905年	367	農商務省山林局編(1905)、『韓国誌』、東京書院(東京)
	368	農商務省水産局編(1905)、『韓国水産業調査報告(下 啓助、山脇宗次郎報告)』、農商務省水産局(東京)
	369	農商務省編(1905)、『韓国事情調査資料』、三田印刷所
	370	岡山県水産試験場編(1905)、『岡山県水産試験場臨時報告 韓海視察報告(樋口邦彦報告)』、岡山県水産試験場
	371	満井武平(1905)、『韓国漁業視察報告』、出版元不明
	372	広島県水産試験場編(1905)、『明治参拾八年度 韓海鯰網試験概況』、広島県水産試験場
	373	高知県第三部編(1905)、『韓海漁業調査書(広松楠蔵報告)』、高知県第三部
	374	東亜同文會編(1905)、『東亜關係特種條約彙纂』、丸善
	375	下 啓助・山脇宗次(1905)、『韓國水産業調査報告』、農商務省水産局
	376	宮崎勇熊(1905)、『北韓の実業 富源開発』、輝文館
	377	田淵友彦(1905)、『韓国新地理』、博文館
	378	青柳鋼太郎(1905)、『済州島案内 朝鮮之宝庫』、隆文館
	379	相沢仁助(1905)、『釜山港勢一斑』、日韓昌文社
	380	筆者不明(1905)、「韓海ニ於ケル捕鯨業状況」、『通商彙纂』9☆、外務省通商局 ☆号数表記の変更：明治38年1月8日付け刊行分を「第一号」と表記
	381	筆者不明(1905)、「元山付近明太魚漁業状況」、『通商彙纂』11、外務省通商局
	382	筆者不明(1905)、「韓国法聖浦及蟬島近海ニ於ケル石首漁業情況」、『通商彙纂』38、外務省通商局
	383	筆者不明(1905)、「元山近海ニ於ケル海參漁獲概況」、『通商彙纂』45、外務省通商局
	384	筆者不明(1905)、「鬱陵島現況」、『通商彙纂』50、外務省通商局
	385	筆者不明(1905)、「韓国全羅道竹島漁業状況」、『通商彙纂』51、外務省通商局

1905年	386	筆者不明(1905)、「韓国沿岸島嶼に関する調査依頼」、『朝鮮協会会報』10、朝鮮協会
	387	筆者不明(1905)、「鱗片録」、『大日本水産会報』269、大日本水産会事務所
	388	筆者不明(1905)、「遠洋漁業奨励に関する新潟県会の決議」、『大日本水産会報』269、大日本水産会事務所
	389	筆者不明(1905)、「千葉県水産組合聯合總會と韓国漁業経営」、『大日本水産会報』269、大日本水産会事務所
	390	筆者不明(1905)、「韓国鬱陵島現況」、『地学雑誌』17-10、東京地学協会
	391	筆者不明(1905)、「時局と兵庫県の水産業」、『大日本水産会報』269、大日本水産会事務所
	392	筆者不明(1905)、「韓国沿海捕鯨契約」、『大日本水産会報』269、大日本水産会事務所
	393	筆者不明(1905)、「韓国の鱈漁業」、『大日本水産会報』271、大日本水産会事務所
	394	筆者不明(1905)、「韓国竹島漁場の状況」、『大日本水産会報』271、大日本水産会事務所
	395	筆者不明(1905)、「韓国元山付近に漁業地設定」、『大日本水産会報』271、大日本水産会事務所
	396	下 啓助(1905)、「韓国漁業雑談」、『大日本水産会報』272、大日本水産会事務所
	397	筆者不明(1905)、「韓国明太漁業情況」、『大日本水産会報』272、大日本水産会事務所
	398	筆者不明(1905)、「韓国捕鯨業の情況」、『大日本水産会報』272、大日本水産会事務所
	399	筆者不明(1905)、「山口県の朝鮮漁業奨励」、『大日本水産会報』273、大日本水産会事務所
	400	筆者不明(1905)、「朝鮮海水産組合にては漁業根拠地移住規則及遭難救済規程左の通り議決したり」、『大日本水産会報』274、大日本水産会事務所
	401	筆者不明(1905)、「宮崎県の韓海出漁奨励」、『大日本水産会報』275、大日本水産会事務所
	402	筆者不明(1905)、「我邦人の漁場拡張に就て」、『大日本水産会報』278、大日本水産会事務所
	403	筆者不明(1905)、「韓国沿岸の任意捕鯨権」、『大日本水産会報』278、大日本水産会事務所
	404	筆者不明(1905)、「農相の訓令」、『大日本水産会報』279、大日本水産会事務所
	405	筆者不明(1905)、「千葉県水産組合聯合会の請願」、『大日本水産会報』279、大日本水産会事務所
	406	筆者不明(1905)、「朝鮮海水産組合總會」、『大日本水産会報』280、大日本水産会事務所
1906年	407	統監府編(1906)、『韓国ニ関スル条約及法令』、統監府(京城)
	408	統監府総務部編(1906)、『韓国事情要覧 第一輯 明治三十九年』、統監府総務部
	409	筆者不明(1906?)、『韓国水産業調査報告』、農商務省水産局
	410	福岡県水産試験場編(1906)、『韓国西南沿海漁業視察書』、福岡県水産試験場
	411	島根県第三部編(1906)、『韓海出漁調査報告書(和田義雄、永井寅二郎報告)』、島根県第三部
	412	徳島県第三部編(1906)、『清韓実業視察報告書』、徳島県
	413	荒川五郎(1906)、『最近朝鮮事情』、清水書店(東京)

1906年	414	古田隆一編(1906)、『福岡県全誌 上編』、安河内喜佐吉	
	415	西村駿次・山崎寛猛(1906)、『最近調査 満韓之富源』、内外興業社	
	416	筆者不明(1906)、「韓国鬱陵島事情」、『通商彙纂』2☆、外務省通商局 ☆号 数表記の変更：明治39年1月8日付け刊行分を「第壹号」と表記	
	417	筆者不明(1906)、「鎮南浦領事館内平安黄海両道漁業状況」、『通商彙纂』6、 外務省通商局	
	418	筆者不明(1906)、「全羅南道に於ける布海苔等海草買収独占権取消」、『通商彙 纂』50、外務省通商局	
	419	筆者不明(1906)、「鬱陵島本邦人状況」、『地学雑誌』18-6、東京地学協会	
	420	筆者不明(1906)、「韓国の水産業」、『韓半島』2-1、韓半島社	
	421	筆者不明(1906)、「韓国昨年の漁業」、『韓半島』2-1、韓半島社	
	422	筆者不明(1906)、「韓海の捕鯨業」、『韓半島』2-2、韓半島社	
	423	筆者不明(1906)、「韓海の漁業」、『東邦協会会報』140、東邦協会	
	424	筆者不明(1906)、「朝鮮海に於ける漁業政策」、『極東時論』1-7、極東時論社	
	425	筆者不明(1906)、「韓国鬱陵島の水産」、『大日本水産会報』282、大日本水産 会事務所	
	426	筆者不明(1906)、「韓国鱈漁業」、『大日本水産会報』283、大日本水産会事 務所	
	427	筆者不明(1906)、「島根県の遠洋漁業補助」、『大日本水産会報』285、大日本 水産会事務所	
	428	岸上謙吉(1906)、「日本近海に於ける水産生物の分布」、『大日本水産会報』2 86、大日本水産会事務所	
	429	筆者不明(1906)、「韓海捕鯨業の近況」、『大日本水産会報』287、大日本水産 会事務所	
	430	筆者不明(1906)、「韓国鎮南浦地方の漁期と魚族」、『大日本水産会報』290、 大日本水産会事務所	
	431	筆者不明(1906)、「千葉漁業団の総会」、『大日本水産会報』291、大日本水産 会事務所	
	1907年	432	統監官房文書課編(1907)、『第一次統監府統計年報』、統監官房文書課(京城)
		433	統監府総務部編(1907)、『韓国事情要覧 第二輯 明治四十年』、統監府総務 部
434		山口県水産組合編(1907)、『韓国水産業調査報告』、山口県水産組合	
435		青柳綱太郎(南冥)(1907)、『韓国殖民策 一名 韓国殖民案内』、輝文館	
436		徳永勲美(1907)、『韓国総攬』、博文館	
437		奥原碧雲(1907)、『竹島及鬱陵島』、報光社(松江)	
438		庵原文一(1907)、「韓国の水産業」、『経済評論』7-7、経済評論社	
439		塚本道遠(1907)、「北韓の水産業」、『経済評論』7-18、経済評論社	
440		小松原英太郎(1907)、「韓海の漁業」、『東洋時報』109、東洋協会	
441		筆者不明(1907)、「香川県に於ける韓国漁業経営」、『東洋時報』109、東洋協 会	
442		筆者不明(1907)、「香川県水産組合漁業根拠地移住規程・香川県水産組合明治 四十年年度経常部予算」、『東洋時報』109、東洋協会	
443		葛生修亮(1907)、「韓国明太魚」、『黒龍』第7年第4号、黒龍会	
444		筆者不明(1907)、「韓国定置漁場制定の急務」、『黒龍』第7年第5号、黒龍会	
445		北海漁夫(1907)、「日本の漁業習慣と韓国」、『黒龍』第7年第5号、黒龍会	
446		筆者不明(1907)、「韓国迎日湾」、『地学雑誌』19-11、東京地学協会	

1907年	447	筆者不明(1907)、「釜山漁港の整備」、『大日本水産会報』292、大日本水産会事務所	
	448	筆者不明(1907)、「三十九年山口県水産事務景況」、『大日本水産会報』293、大日本水産会事務所	
	449	筆者不明(1907)、「隠岐水産組合の事業」、『大日本水産会報』293、大日本水産会事務所	
	450	筆者不明(1907)、「水産試験場長及府県水産主任会議」、『大日本水産会報』294、大日本水産会事務所	
	451	筆者不明(1907)、「全国水産業大会」、『大日本水産会報』294、大日本水産会事務所	
	452	筆者不明(1907)、「鹿児島県遠洋出漁組合」、『大日本水産会報』295、大日本水産会事務所	
	453	庵原文一(1907)、「朝鮮海水産組合改革の趣旨」、『大日本水産会報』297、大日本水産会事務所	
	454	筆者不明(1907)、「朝鮮海水産組合定款変更」、『大日本水産会報』297、大日本水産会事務所	
	455	統監府農商工部(1907)、「韓海漁業及其経済状況」、『大日本水産会報』299、大日本水産会事務所	
	456	筆者不明(1907)、「韓海に於ける本邦水産業の成績」、『大日本水産会報』299、大日本水産会事務所	
	457	下 啓助(1907)、「大日本水産会報第三百号発刊を祝す」、『大日本水産会報』300、大日本水産会事務所	
	458	村田 保(1907)、「韓海の漁業に就て」、『大日本水産会報』300、大日本水産会事務所	
	459	筆者不明(1907)、「嗚呼快鷹丸」、『大日本水産会報』301、大日本水産会事務所	
	460	村田 保(1907)、「韓海の漁業に就て(完)」、『大日本水産会報』301、大日本水産会事務所	
	461	筆者不明(1907)、「快鷹丸遭難詳報」、『大日本水産会報』301、大日本水産会事務所	
	462	筆者不明(1907)、「全国捕鯨者大会」、『大日本水産会報』301、大日本水産会事務所	
	463	筆者不明(1907)、「松原塚本石塚三氏の帰朝歓迎会」、『大日本水産会報』302、大日本水産会事務所	
	464	筆者不明(1907)、「朝鮮海出漁注意」、『大日本水産会報』302、大日本水産会事務所	
	1908年	465	農商工部水産局編(1908)、『韓国水産誌』第一輯、日韓印刷株式会社印刷・発行(京城)
		466	農商工部水産局編(1908)、『韓国水産分布図』、農商工部水産局(京城)
467		統監府編(1908)、『韓国条約類纂』、統監府	
468		統監官房編(1908)、『(第一次)韓国施政年報 明治三十九年・明治四十年』、統監官房	
469		統監府(1908)、『韓国最近事情一覽☆ 明治四十一年』、統監府 ☆『韓国事情要覽』の改題	
470		岡山県水産試験場編(1908)、『明治三十九年度朝鮮海漁業試験調査報告』、岡山県水産試験場	
471		大分県水産試験場編(1908)、『大分県水産試験場漁撈報告』、大分県水産試験場	
472		青柳南冥(1908)、『韓国植民策』、輝文館(大阪)、日韓書房(京城)	
473		筆者不明(1908)、「韓国移住漁業経営の実蹟」、『東洋時報』118、東洋協会	

1908年	474	筆者不明(1908)、「巨済島付近の漁業現況」、『東洋時報』118、東洋協会
	475	庵原文一(1908)、「韓国水産業と漁業法」、『韓国中央農会報』2-11、韓国中央農会
	476	筆者不明(1908)、「日韓漁業協定」、『国際法雑誌』7-4、国際法学会事務所
	477	須佐嘉橘(1908)、「江原道沿岸漁獵地の状態」、『黒龍』第8巻第1号、黒龍会
	478	筆者不明(1908)、「韓海の捕鯨業管理法」、『大日本水産会報』304、大日本水産会事務所
	479	筆者不明(1908)、「釜山水産株式会社営業状況」、『大日本水産会報』305、大日本水産会事務所
	480	筆者不明(1908)、「宋(宋秉峻)韓国農商工大臣歓迎会における牧朴眞氏の談話」、『大日本水産会報』306、大日本水産会事務所
	481	筆者不明(1908)、「韓国農商工部大臣宋秉峻氏の談話」、『大日本水産会報』306、大日本水産会事務所
	482	筆者不明(1908)、「熊本県の韓海出漁」、『大日本水産会報』307、大日本水産会事務所
	483	筆者不明(1908)、「韓国市場魚類売揚高表」、『大日本水産会報』308、大日本水産会事務所
	484	筆者不明(1908)、「漁村の維持法(丸一組の事跡)」、『大日本水産会報』311、大日本水産会事務所
	485	筆者不明(1908)、「韓国元山方面漁況」、『大日本水産会報』311、大日本水産会事務所
	486	筆者不明(1908)、「韓海出漁」及其漁獲高、『大日本水産会報』311、大日本水産会事務所
	487	筆者不明(1908)、「釜山水産株式会社営業概況」、『大日本水産会報』312、大日本水産会事務所
	488	筆者不明(1908)、「韓国水産の近況」、『大日本水産会報』312、大日本水産会事務所
	489	庵原文一(1908)、「韓国漁業法制定の要旨」、『大日本水産会報』314、大日本水産会事務所
	490	筆者不明(1908)、「福岡県遠洋漁業講習情報」、『大日本水産会報』314、大日本水産会事務所
	491	筆者不明(1908)、「(英文) 新日韓漁業協定」、『大日本水産会報』314、大日本水産会事務所
	492	筆者不明(1908)、「韓国漁業法」、『大日本水産会報』315、大日本水産会事務所
	1909年	493
494		統監府編(1909)、『最近韓国事情要覧☆ 第一版 明治四十二年』、統監府 ☆ 『韓国最近事情一覧』の改題
495		東京水産学会編(1909)、『韓国漁業法規集』、水産書院
496		小松悦二編(1909)、『新撰韓国事情 附・韓国紳士録』、東亜研究会
497		鳥取県水産組合編(1909)、『明治四十二年度 鳥取県水産組合韓海漁場調査報告』、鳥取県水産組合
498		山口県水産試験場編(1909)、『韓海漁業試験報告 明治41年度』、山口県水産試験場
499		山口県水産試験場編(1909)、『韓海漁業試験報告 明治42年度』、山口県水産試験場
500		財源調査局(1909)、「通漁料報告(1月)」、『財務彙報』11、度支部
501		元山関税(1909)、「輸出重要品干鱸に関する調査」、『財務彙報』17、度支部
502		筆者不明(1909)、「通漁料報告(3月)同累計表」、『財務彙報』18、度支部

1909年	503	第一銀行(1909)、「韓国各地の農業及び漁業」、『朝鮮』4-1、朝鮮雑誌社
	504	筆者不明(1909)、「韓海出漁船及漁獲高」、『朝鮮』4-2、朝鮮雑誌社
	505	済州島出張所(1909)、「済州島漁況報告(水産組合)」、『朝鮮』4-3、朝鮮雑誌社
	506	山本生(1909)、「大同江の投網」、『朝鮮』4-3、朝鮮雑誌社
	507	元山支部(1909)、「最近漁況報告(水産組合)」、『朝鮮』4-3、朝鮮雑誌社
	508	庵原文一(1909)、「水産と山林の関係、韓国沿海に魚附林を設くべし」、『朝鮮』4-4、朝鮮雑誌社
	509	庵原文一(1909)、「西朝鮮湾の漁利」、『大日本水産会報』316、大日本水産会事務所
	510	庵原文一(1909)、「西朝鮮湾の漁利(承前)」、『大日本水産会報』317、大日本水産会事務所
	511	筆者不明(1909)、「九州四県聯合韓海漁業研究会(第一回)」、『大日本水産会報』317、大日本水産会事務所
	512	筆者不明(1909)、「鱈網漁の試験」、『大日本水産会報』317、大日本水産会事務所
	513	筆者不明(1909)、「将来有望なる南韓の漁村」、『大日本水産会報』317、大日本水産会事務所
	514	庵原文一(1909)、「西朝鮮湾の漁利(完)」、『大日本水産会報』318、大日本水産会事務所
	515	筆者不明(1909)、「韓国漁業出願者に注意す」、『大日本水産会報』318、大日本水産会事務所
	516	筆者不明(1909)、「韓国漁業法規 上」、『大日本水産会報』318、大日本水産会事務所
	517	筆者不明(1909)、「韓国漁業法規 中」、『大日本水産会報』319、大日本水産会事務所
	518	筆者不明(1909)、「韓国漁業者に注意す」、『大日本水産会報』319、大日本水産会事務所
	519	筆者不明(1909)、「トロール漁業問題と帝国議会」、『大日本水産会報』319、大日本水産会事務所
	520	筆者不明(1909)、「韓国の移住漁業地」、『大日本水産会報』319、大日本水産会事務所
	521	筆者不明(1909)、「韓国漁業法規 下」、『大日本水産会報』320、大日本水産会事務所
	522	筆者不明(1909)、「韓国南岸の海苔」、『大日本水産会報』320、大日本水産会事務所
	523	筆者不明(1909)、「韓国沿岸漁業監視」、『大日本水産会報』320、大日本水産会事務所
	524	筆者不明(1909)、「東洋捕鯨創立総会」、『大日本水産会報』320、大日本水産会事務所
	525	筆者不明(1909)、「朝鮮会水産組合」、『大日本水産会報』320、大日本水産会事務所
	526	筆者不明(1909)、「東洋捕鯨の営業組織」、『大日本水産会報』321、大日本水産会事務所
	527	筆者不明(1909)、「韓国漁業許可願書添申書」、『大日本水産会報』322、大日本水産会事務所
	528	筆者不明(1909)、「免許漁業出願の期限」、『大日本水産会報』322、大日本水産会事務所
	529	筆者不明(1909)、「第十二回関西九州府県聯合水産集談会」、『大日本水産会報』327、大日本水産会事務所

1910年	530	韓国度支部大臣官房編(1910)、『現行韓国法典』、日韓書房(京城)
	531	農商工部編(1910)、『韓国通覽』、農商工部(京城)
	532	農商工部水産局編(1910)、『韓国水産誌』第二輯、龍山印刷局印刷(京城)
	533	朝鮮総督府農商工部編(1910)、『韓国水産誌』第三輯、朝鮮総督府印刷局印刷(京城)
	534	統監府編(1910)、『統監府法規提要』、統監府
	535	統監府編(1910)、『第三次統監府統計年報』、統監府
	536	統監府編(1910)、『第二次韓国施政年報 明治四十一年』、統監府
	537	統監府編(1910)、『最近韓国事情要覽 第二版 明治四十三年』、統監府
	538	香川県編(1910)、『香川県勸業七年計画』、香川県
	539	熊本県内務部編(1910)、『熊本県産業要覽』、熊本県内務部
	540	山口県編(1910)、『韓国実業要報 第二編』、山口県
	541	広島県内務部編(1910)、『韓海漁業調査報告』、広島県内務部
	542	丸川久俊等(1910)、『通俗最新水産全書』、大日本農業奨励会
	543	足立栗園(1910)、『朝鮮新地誌』、積善館
	544	山口 精(1910)、『朝鮮産業誌 中』、宝文館
	545	司税局(1910)、「漁業に関する分類及例示」、『財務彙報』30、度支部
	546	農商工部水産局(1910)、「最近に於ける韓海漁業状況」、『朝鮮』30、朝鮮雑誌社
	547	庵原文一(1910)、「朝鮮海水産業今後の奨励」、『朝鮮』31、朝鮮雑誌社
	548	筆者不明(1910)、「朝鮮の三大漁業 明太魚・鱈及び鯡」、『朝鮮』34、朝鮮雑誌社
	549	筆者不明(1910)、「竹辺蟹の漁業」、『朝鮮』34、朝鮮雑誌社
	550	筆者不明(1910)、「朝鮮の水産概況(一)」、『日本経済新誌』8-5、日本経済新誌社
	551	筆者不明(1910)、「朝鮮の水産概況(二)」、『日本経済新誌』8-6、日本経済新誌社
	552	筆者不明(1910)、「朝鮮近海の海流」、『地学雑誌』22、東京地学協会
	553	北韓風浪子(1910)、「北韓に於ける臺網類漁業の将来」、『大日本水産会報』328、大日本水産会事務所
	554	筆者不明(1910)、「朝鮮海水産組合議員会」、『大日本水産会報』329、大日本水産会事務所
	555	筆者不明(1910)、「第三回韓海水産研究会」、『大日本水産会報』329、大日本水産会事務所
	556	筆者不明(1910)、「韓国各漁業出願總数」、『大日本水産会報』329、大日本水産会事務所
	557	筆者不明(1910)、「韓国漁業税法施行細則中改正」、『大日本水産会報』329、大日本水産会事務所
	558	筆者不明(1910)、「(新刊紹介) 『韓国水産誌 第一輯』」、『大日本水産会報』329、大日本水産会事務所
	559	筆者不明(1910)、「全国水産大会の経過」、『大日本水産会報』330、大日本水産会事務所
	560	筆者不明(1910)、「韓海捕鯨成績」、『大日本水産会報』330、大日本水産会事務所
561	筆者不明(1910)、「朝鮮海水産組合会議」、『大日本水産会報』332、大日本水産会事務所	

1910年	562	筆者不明(1910)、「韓海出漁四県協議会と東拓」、『大日本水産会報』332、大日本水産会事務所
	563	筆者不明(1910)、「韓海の漁業」、『大日本水産会報』333、大日本水産会事務所
	564	筆者不明(1910)、「韓国漁業件数累計」、『大日本水産会報』335、大日本水産会事務所
	565	筆者不明(1910)、「須らく北朝鮮海に発展せよ」、『大日本水産会報』336、大日本水産会事務所
	566	篠原睦造(1910)、「南朝鮮に於ける漁業用水の受容と釜山製氷所」、『大日本水産会報』338、大日本水産会事務所
	567	筆者不明(1910)、「朝鮮と蟹の調査」、『大日本水産会報』338、大日本水産会事務所
1911年	568	朝鮮総督府農商工部編(1911)、『韓国水産誌』第四輯、朝鮮総督府印刷局印刷(京城)
	569	朝鮮総督府編(1911)、『第四次朝鮮総督府統計年報』、朝鮮総督府(京城)
	570	朝鮮総督府編(1911)、『第三次韓国施政年報 明治四十二年』、朝鮮総督府
	571	朝鮮総督府編(1911)、『第一次朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	572	朝鮮総督府編(1911)、『最近朝鮮事情要覧☆ 第一版 明治四十四年』、朝鮮総督府 ☆『最近韓国事情要覧』を改題
	573	北海道水産試験場編(1911)、『清国及び朝鮮ニ於ケル海産物販路調査報告』、北海道水産試験場
	574	千葉県編(1911)、『産業要覧』、多田屋支店
	575	山口豊正(1911)、『朝鮮の研究』、巖松堂(東京)
	576	福田東作(1911)、『韓国併合紀念史』、大日本実業協会(東京)
	577	岡崎遠光(1911)、『朝鮮金融及産業政策』、同文館
	578	吉田英三郎(1911)、『朝鮮誌』、町田文林堂
	579	筆者不明(1911)、「水産業」、『朝鮮総督府月報』1-1、朝鮮総督府
	580	筆者不明(1911)、「水産業近況」、『朝鮮総督府月報』1-2、朝鮮総督府
	581	筆者不明(1911)、「水産事業」、『朝鮮総督府月報』1-3、朝鮮総督府
	582	筆者不明(1911)、「全羅北道水産ノ概況(明治四十四年六月調)」、『朝鮮総督府月報』1-3、朝鮮総督府
	583	筆者不明(1911)、「咸鏡南道水産ノ概況」、『朝鮮総督府月報』1-3、朝鮮総督府
	584	筆者不明(1911)、「水産業奨励ト地方漁業状況」、『朝鮮総督府月報』1-4、朝鮮総督府
	585	筆者不明(1911)、「水産費奨励補助」、『朝鮮総督府月報』1-7、朝鮮総督府
	586	筆者不明(1911)、「朝鮮の水産概況(三)」、『日本経済新誌』8-7、日本経済新誌社
	587	筆者不明(1911)、「朝鮮の水産概況(四)」、『日本経済新誌』8-9、日本経済新誌社
	588	坂下帰去来(1911)、「朝鮮漁業の現在及将来」、『東洋時報』149、東洋協会
	589	水棹子(1911)、「南朝鮮の「たら」に就て」、『朝鮮』36、朝鮮雑誌社
	590	水棹子(1911)、「北朝鮮の「かに」に就て」、『朝鮮』38、朝鮮雑誌社
591	水棹子(1911)、「朝鮮の「さば」に就て」、『朝鮮』39、朝鮮雑誌社	
592	水棹子(1911)、「朝鮮の「ゑび」に就て」、『朝鮮』40、朝鮮雑誌社	
593	水棹子(1911)、「朝鮮の「たひ」に就て」、『朝鮮』41、朝鮮雑誌社	

1911年	594	庵原文一(1911)、「東海岸の鯨漁業と迎日湾」、『朝鮮』41、朝鮮雑誌社
	595	水棹子(1911)、「朝鮮の「いわし」に就て」、『朝鮮』44、朝鮮雑誌社
	596	筆者不明(1911)、「現在朝鮮人戸口」、『地学雑誌』23-8、東京地学協会
	597	庵原文一(1911)、「朝鮮海に於ける日鮮漁民の関係」、『大日本水産会報』340、大日本水産会事務所
	598	筆者不明(1911)、「九州聯合漁業協議会」、『大日本水産会報』341、大日本水産会事務所
	599	筆者不明(1911)、「九州各県聯合朝鮮海水産研究会」、『大日本水産会報』341、大日本水産会事務所
	600	森川萬蔵(1911)、「朝鮮巨済島通信」、『大日本水産会報』342、大日本水産会事務所
	601	筆者不明(1911)、「全国水産大会の経緯」、『大日本水産会報』342、大日本水産会事務所
	602	室伏治郎兵衛(1911)、「朝鮮のムソオとは何ぞ」、『大日本水産会報』343、大日本水産会事務所
	603	筆者不明(1911)、「朝鮮海水産組合の請願」、『大日本水産会報』343、大日本水産会事務所
	604	筆者不明(1911)、「KOREAN MACKEREL ☆」、『大日本水産会報』344、大日本水産会事務所 ☆目次では「朝鮮鯖」
	605	不明(1911)、「福、長、佐、熊四県と朝鮮漁権協議会」、『大日本水産会報』345、大日本水産会事務所
	606	筆者不明(1911)、「朝鮮南海漁業近況」、『大日本水産会報』345、大日本水産会事務所
	607	森川萬蔵(1911)、「朝鮮巨済郡巨済島鯖漁業に就て」、『大日本水産会報』346、大日本水産会事務所
	608	筆者不明(1911)、「第六回瀬戸内海関係府県水産協議会」、『大日本水産会報』346、大日本水産会事務所
	609	筆者不明(1911)、「朝鮮漁業令」、『大日本水産会報』346、大日本水産会事務所
	610	筆者不明(1911)、「朝鮮漁業令施行規則」、『大日本水産会報』346、大日本水産会事務所
	611	筆者不明(1911)、「朝鮮漁業取締規則」、『大日本水産会報』346、大日本水産会事務所
612	森川萬蔵(1911)、「朝鮮巨済郡巨済島鯖漁業に就て(二)」、『大日本水産会報』347、大日本水産会事務所	
613	筆者不明(1911)、「トロール業と下関港」、『大日本水産会報』347、大日本水産会事務所	
614	筆者不明(1911)、「南鮮漁業根拠地」、『大日本水産会報』347、大日本水産会事務所	
615	筆者不明(1911)、「朝鮮航行船舶標示規定」、『大日本水産会報』347、大日本水産会事務所	
616	筆者不明(1911)、「朝鮮官有財産管理規則」、『大日本水産会報』347、大日本水産会事務所	
617	筆者不明(1911)、「朝鮮水産成績」、『大日本水産会報』348、大日本水産会事務所	
618	庵原文一(1911)、「朝鮮の水産に就て」、『大日本水産会報』351、大日本水産会事務所	
1912年	619	朝鮮総督府編(1912)、『朝鮮総督府統計年報 明治四十三年』、朝鮮総督府
	620	朝鮮総督府編(1912)、『朝鮮総督府施政年報 明治四十三年』、朝鮮総督府

1912年	621	朝鮮総督府編(1912)、『大正元年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	622	朝鮮総督府編(1912)、『最近朝鮮事情要覧 第二版 明治四十五年』、朝鮮総督府
	623	朝鮮総督府編(1912)、『最近朝鮮事情要覧 第四版 大正元年』、朝鮮総督府
	624	高知県内務部編(1912)、『朝鮮漁業視察報告書』、高知県
	625	釜山商業会議所編(1912)、『釜山要覧』、釜山商業会議所
	626	全国新聞東京聯合社編(1912)、『日本植民地要覧』、日本経済新誌社
	627	全国新聞東京聯合社編(1912)、『日本植民地要覧』、日本経済新誌社
	628	日韓書房編集部(1912)、『最新朝鮮地誌』、日韓書房(京城)
	629	筆者不明(1912)、「全羅南道第一回水産講習会成績」、『朝鮮総督府月報』2-1、朝鮮総督府
	630	筆者不明(1912)、「四十四年自一月至六月京畿、黄海各道漁業概況」、『朝鮮総督府月報』2-1、朝鮮総督府
	631	筆者不明(1912)、「全羅南道水産伝習事業成績」、『朝鮮総督府月報』2-2、朝鮮総督府
	632	筆者不明(1912)、「全羅南道光陽郡海苔製造伝習事業ノ開始」、『朝鮮総督府月報』2-2、朝鮮総督府
	633	筆者不明(1912)、「明治四十四年十二月分咸鏡南道漁況」、『朝鮮総督府月報』2-2、朝鮮総督府
	634	筆者不明(1912)、「明治四十四年十二月分釜山近海漁況」、『朝鮮総督府月報』2-2、朝鮮総督府
	635	筆者不明(1912)、「咸鏡南道元山外二郡農水産品評会生成績」、『朝鮮総督府月報』2-2、朝鮮総督府
	636	筆者不明(1912)、「京畿道養煙事業成績 ☆」、『朝鮮総督府月報』2-3、朝鮮総督府 ☆目次では「養」が「食」となっている
	637	筆者不明(1912)、「忠清南道延繩漁業伝習成績 ☆」、『朝鮮総督府月報』2-3、朝鮮総督府 ☆目次では「忠清南道」が「忠南」となっている
	638	筆者不明(1912)、「慶尚北道模範漁業成績 ☆」、『朝鮮総督府月報』2-3、朝鮮総督府 ☆目次では「慶尚北道」が「慶北」となっている
	639	筆者不明(1912)、「二月中漁業免許数」、『朝鮮総督府月報』2-3、朝鮮総督府
	640	筆者不明(1912)、「釜山近海漁況」、『朝鮮総督府月報』2-4、朝鮮総督府
	641	筆者不明(1912)、「慶尚南道巨濟島付近鱈及鯨漁業調査(巨濟島漁基毛蕾田組合調査)」、『朝鮮総督府月報』2-4、朝鮮総督府
	642	筆者不明(1912)、「三月中漁業出願処分数」、『朝鮮総督府月報』2-4、朝鮮総督府
	643	筆者不明(1912)、「全羅北道水産事業成績(明治四十四年度)」、『朝鮮総督府月報』2-5、朝鮮総督府
	644	筆者不明(1912)、「全羅南道水産講習成績」、『朝鮮総督府月報』2-5、朝鮮総督府
	645	筆者不明(1912)、「平安南道水産事業成績(明治四十四年度)」、『朝鮮総督府月報』2-5、朝鮮総督府
	646	筆者不明(1912)、「元山地方漁況(三月分)」、『朝鮮総督府月報』2-5、朝鮮総督府
	647	筆者不明(1912)、「四月中漁業出願処分数」、『朝鮮総督府月報』2-5、朝鮮総督府
	648	筆者不明(1912)、「全羅南道海苔製造改良伝習概要」、『朝鮮総督府月報』2-6、朝鮮総督府
	649	筆者不明(1912)、「水産物缶詰製造業調査(四十四年十一月末)」、『朝鮮総督府月報』2-6、朝鮮総督府

1912年	650	筆者不明(1912)、「咸鏡南道漁況(四月分)」、『朝鮮総督府月報』2-6、朝鮮総督府
	651	筆者不明(1912)、「釜山港海苔販路状況」、『朝鮮総督府月報』2-6、朝鮮総督府
	652	筆者不明(1912)、「たらば蟹ニ関スル調査」、『朝鮮総督府月報』2-7、朝鮮総督府
	653	筆者不明(1912)、「咸鏡南道漁況(五月分)」、『朝鮮総督府月報』2-7、朝鮮総督府
	654	筆者不明(1912)、「全羅南道地方費事業海苔佃煮缶詰製造講習成績(四十四年度)」、『朝鮮総督府月報』2-7、朝鮮総督府
	655	筆者不明(1912)、「五月中漁業出願処分数」、『朝鮮総督府月報』2-7、朝鮮総督府
	656	筆者不明(1912)、「平安南道平安式細目鮫鱈網実験成績」、『朝鮮総督府月報』2-8、朝鮮総督府
	657	筆者不明(1912)、「六月中漁業出願処分数」、『朝鮮総督府月報』2-8、朝鮮総督府
	658	筆者不明(1912)、「たらば蟹ニ関スル調査(江原道)」、『朝鮮総督府月報』2-10、朝鮮総督府
	659	筆者不明(1912)、「恩賜授産費水産伝習事業成績 明治四十五年自四月至七月(全羅南道) ☆」、『朝鮮総督府月報』2-10、朝鮮総督府 ☆目次では、「明治四十五年自四月至七月(全羅南道)」の部分に欠けている
	660	筆者不明(1912)、「東海岸ニ於ケル水産状況(明治四十五年一月至六月)」、『朝鮮総督府月報』2-11、朝鮮総督府
	661	筆者不明(1912)、「南海岸ニ於ケル水産状況(明治四十五年一月至六月)」、『朝鮮総督府月報』2-12、朝鮮総督府
	662	筆者不明(1912)、「江原道ニ於ケル矛魚釣漁業」、『朝鮮総督府月報』2-12、朝鮮総督府
	663	丸山文夫(1912)、「朝鮮に於ける水産業の将来」、『親潮』6、オコック会(東北帝国大学札幌農科大学水産学科内)
	664	星 慶(1912)、「朝鮮海漁獲鮮魚分布論」、『親潮』7、オコック会(東北帝国大学札幌農科大学水産学科内)
	665	松原新之助(1912)、「山口県の漁業に就て」、『大日本水産会報』355、大日本水産会事務所
	666	筆者不明(1912)、「朝鮮鎮海湾及群山の漁業」、『大日本水産会報』356、大日本水産会事務所
	667	筆者不明(1912)、「朝鮮関税定率令中水産に関するもの」、『大日本水産会報』356、大日本水産会事務所
	668	筆者不明(1912)、「第十五回関西九州府県聯合水産集談会」、『大日本水産会報』357、大日本水産会事務所
	669	筆者不明(1912)、「水産組合の朝鮮集会」、『大日本水産会報』357、大日本水産会事務所
	670	筆者不明(1912)、「トロール漁業区限定」、『大日本水産会報』357、大日本水産会事務所
	671	筆者不明(1912)、「朝鮮海苔の販出」、『大日本水産会報』357、大日本水産会事務所
	672	筆者不明(1912)、「朝鮮漁浦協議会」、『大日本水産会報』358、大日本水産会事務所
	673	筆者不明(1912)、「鮮海漁業の現状」、『大日本水産会報』360、大日本水産会事務所

1912年	674	筆者不明(1912)、「トロール業朝鮮禁区域」、『大日本水産会報』362、大日本水産会事務所
1913年	675	朝鮮総督府編(1913)、『朝鮮総督府統計年報 明治四十四年』、朝鮮総督府
	676	朝鮮総督府編(1913)、『朝鮮総督府施政年報 明治四十四年』、朝鮮総督府
	677	朝鮮総督府編(1913)、『最近朝鮮事情要覧 第五版 大正二年』、朝鮮総督府
	678	農商務省水産局編(1913)、『漁業基本調査報告 第三冊』、農商務省水産局
	679	高知県水産試験場編(1913)、『高知県水産試験場事業報告 第拾巻』、高知県水産試験場
	680	愛知県水産試験場編(1913)、『明治四十四年度 愛知県水産試験場事業報告』、愛知県水産試験場
	681	香川県水産試験場編(1913)、『香川県水産試験場事業報告 調査船讃岐丸建造報告』、香川県水産試験場
	682	三重県内務部農商課編(1913)、『朝鮮漁業案内』、三重県内務部農商課
	683	筆者不明(1913)、「朝鮮西海岸ニ於ケル水産状況(自明治四十五年一月至同年六月)其ノ一 ☆」、『朝鮮総督府月報』3-1、朝鮮総督府 ☆目次では、「朝鮮西海岸ニ於ケル漁業」となっている
	684	筆者不明(1913)、「海苔養殖試験状況」、『朝鮮総督府月報』3-1、朝鮮総督府
	685	筆者不明(1913)、「咸鏡南道ニ於ケル銀魚(和名 ^{わめいハタハタ(ママ)} 鱒)ノ豊漁 大正元年十一月 ☆」、『朝鮮総督府月報』3-1、朝鮮総督府 ☆目次では、「大正元年十一月」を欠いている
	686	筆者不明(1913)、「養蠶事業施設並其ノ成績」、『朝鮮総督府月報』3-1、朝鮮総督府
	687	筆者不明(1913)、「朝鮮西海岸ニ於ケル水産状況(自明治四十五年一月至同年六月)其ノ二」、『朝鮮総督府月報』3-3、朝鮮総督府
	688	筆者不明(1913)、「大正元年各地たひ平均相場」、『朝鮮総督府月報』3-3、朝鮮総督府
	689	筆者不明(1913)、「馬山近海漁況(客年十二月末調査) ☆」、『朝鮮総督府月報』3-4、朝鮮総督府 ☆目次では「(客年十二月末調査)」を欠いている
	690	筆者不明(1913)、「鎮海湾内ノ鱈漁況(客年十二月中) ☆」、『朝鮮総督府月報』3-4、朝鮮総督府 ☆目次では「(客年十二月中)」を欠いている
	691	筆者不明(1913)、「江原道漁業実習場状況」、『朝鮮総督府月報』3-5、朝鮮総督府
	692	筆者不明(1913)、「朝鮮ニ於ケル海苔其ノ他海藻養殖調査」、『朝鮮総督府月報』3-6、朝鮮総督府
	693	筆者不明(1913)、「全羅南道光陽郡恩賜授産事業海苔製造伝習状況」、『朝鮮総督府月報』3-6、朝鮮総督府
	694	筆者不明(1913)、「大正元年度咸鏡南道明太魚漁況」、『朝鮮総督府月報』3-6、朝鮮総督府
695	筆者不明(1913)、「平安南道水産状況 自大正元年六月至同二年三月 ☆」、『朝鮮総督府月報』3-7、朝鮮総督府 ☆目次では、「自大正元年六月至同二年三月」を欠いている	
696	筆者不明(1913)、「京畿道養蠶事業調査」、『朝鮮総督府月報』3-9、朝鮮総督府	
697	筆者不明(1913)、「釜山ニ於ケル鮮魚需給状況」、『朝鮮総督府月報』3-11、朝鮮総督府	
698	筆者不明(1913)、「朝鮮ニ於ケル水産缶詰業ノ状況」、『朝鮮総督府月報』3-11、朝鮮総督府	
699	河合弘民(1913)、「水産及び水産業」、『経済大辞書』5、同文館出版	

1913年	700	田子勝彌(1913)、「朝鮮の漁業論」、『朝鮮公論』1-3、朝鮮公論社
	701	庵原文一(1913)、「朝鮮漁業の概況」、『朝鮮及満洲 ☆』66、朝鮮雑誌社 ☆№47 (1912)以降、誌名が『朝鮮』から『朝鮮及満洲』に変更
	702	庵原文一(1913)、「朝鮮水産の発達と将来」、『朝鮮及満洲』69、朝鮮雑誌社
	703	水棹子(1913)、「有望なる朝鮮の水産業」、『朝鮮及満洲』70、朝鮮雑誌社
	704	水棹子(1913)、「朝鮮の牡蠣について」、『朝鮮及満洲』71、朝鮮雑誌社
	705	水棹子(1913)、「朝鮮の『さんま』と『かに』」、『朝鮮及満洲』72、朝鮮雑誌社
	706	庵原文一(1913)、「水産奨励施行成績の一斑」、『朝鮮及満洲』75、朝鮮雑誌社
	707	青木戒三(1913)、「朝鮮に於ける最近漁業の発展」、『朝鮮及満洲』77、朝鮮雑誌社
	708	熊木治平(1913)、「朝鮮出漁者の注意」、『水産』1-8、水産書院(東京)
	709	熊木治平(1913)、「朝鮮出漁者の注意(続)」、『水産』1-9、水産書院
	710	筆者不明(1913)、「朝鮮沿岸出漁者数」、『大日本水産会報』364、大日本水産会事務所
	711	岡村金太郎(1913)、「朝鮮全羅南北道養殖調査」、『大日本水産会報』365、大日本水産会事務所
	712	岡村金太郎(1913)、「朝鮮全羅南北道養殖調査(承前)」、『大日本水産会報』366、大日本水産会事務所
	713	岡村金太郎(1913)、「朝鮮全羅南北道養殖調査(承前)」、『大日本水産会報』367、大日本水産会事務所
	714	筆者不明(1913)、「朝鮮南海漁況」、『大日本水産会報』369、大日本水産会事務所
	715	筆者不明(1913)、「トロール業救済策」、『大日本水産会報』369、大日本水産会事務所
	716	筆者不明(1913)、「朝鮮の海苔検査規則」、『大日本水産会報』369、大日本水産会事務所
	717	筆者不明(1913)、「朝鮮の海苔検査を行う税関」、『大日本水産会報』369、大日本水産会事務所
	718	筆者不明(1913)、「鮮海トロール禁漁区縮小問題解決」、『大日本水産会報』372、大日本水産会事務所
	719	筆者不明(1913)、「汽船『トロール』漁業と許可証中諸項書換」、『大日本水産会報』372、大日本水産会事務所
	720	筆者不明(1913)、「北朝鮮の漁業」、『大日本水産会報』373、大日本水産会事務所
	721	筆者不明(1913)、「朝鮮の漁業免許件数と漁獲高」、『大日本水産会報』373、大日本水産会事務所
	722	筆者不明(1913)、「トロール漁業の近況」、『大日本水産会報』373、大日本水産会事務所
	723	筆者不明(1913)、「朝鮮のトロール漁業取締規則中改正」、『大日本水産会報』373、大日本水産会事務所
	724	筆者不明(1913)、「朝鮮沿岸漁業貿易戎克船規定」、『大日本水産会報』373、大日本水産会事務所
	725	筆者不明(1913)、「朝鮮全北道の牡蠣養殖」、『大日本水産会報』374、大日本水産会事務所
726	筆者不明(1913)、「朝鮮水産展覧会開催」、『大日本水産会報』375、大日本水産会事務所	
1914年	727	朝鮮総督府編(1914)、『朝鮮総督府統計年報 明治四十五年・大正元年』、朝鮮総督府

1914年	728	朝鮮総督府編(1914)、『朝鮮総督府施政年報 明治四十五年・大正元年』、朝鮮総督府
	729	朝鮮総督府編(1914)、『大正二年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	730	朝鮮総督府編(1914)、『最近朝鮮事情要覧 第六版 大正三年』、朝鮮総督府
	731	農商務省水産局編(1914)、『水産統計要覧』、農商務省水産局
	732	高知県水産試験場編(1914)、『高知県水産試験場事業報告 第拾壹巻』、高知県水産試験場
	733	水産新報社出版部編(1914)、『大日本水産暦』、水産新報社出版部
	734	愛知県水産試験場編(1914)、『明治四十五年度・大正元年度 愛知県水産試験場事業報告』、愛知県水産試験場
	735	帝国通信社編(1914)、『大正三年 日本経済年鑑』、帝国通信社
	736	山口豊正(1914)、『朝鮮之研究(増訂版)』、巖松堂書店(東京)
	737	筆者不明(1914)、「京畿道養蠶及養蠶事業施設並成績」、『朝鮮総督府月報』4-1、朝鮮総督府
	738	筆者不明(1914)、「大正元年度咸鏡北道明太魚漁業試験成績」、『朝鮮総督府月報』4-2、朝鮮総督府
	739	筆者不明(1914)、「大正二年度平安南道鯖漁業試験成績」、『朝鮮総督府月報』4-2、朝鮮総督府
	740	筆者不明(1914)、「大正二年度慶尚南道太刀魚延縄伝習状況」、『朝鮮総督府月報』4-4、朝鮮総督府
	741	筆者不明(1914)、「慶尚南道大正二年度恩賜授産事業依託海苔製造伝習状況」、『朝鮮総督府月報』4-6、朝鮮総督府
	742	菖蒲治太郎(1914)、「朝鮮沿岸に於て捕獲さるる冬期の魚類に就いて」、『朝鮮及満洲』78、朝鮮雑誌社
	743	水棹子(1914)、「朝鮮西海岸に饒産する海月を如何に利用すべきか」、『朝鮮及満洲』79、朝鮮雑誌社
	744	青木戒三(1914)、「朝鮮に於ける漁業の保護及奨励」、『朝鮮及満洲』81、朝鮮雑誌社
	745	水棹子(1914)、「明太魚漁業」、『朝鮮及満洲』89、朝鮮雑誌社
	746	朝鮮水産組合(1914)、「鎮海湾漁獲物の処理」、『水産』第2年11号、水産書院
	747	朝鮮凍雲子(1914)、「朝鮮の寒天製造業」、『水産』第2年11号、水産書院
	748	筆者不明(1914)、「朝鮮の水産試験成績」、『大日本水産会報』377、大日本水産会事務所
	749	筆者不明(1914)、「朝鮮と寒天製造」、『大日本水産会報』378、大日本水産会事務所
	750	筆者不明(1914)、「朝鮮のトロール漁獲物加工場許可」、『大日本水産会報』378、大日本水産会事務所
	751	筆者不明(1914)、「朝鮮漁業令施行規則中改正」、『大日本水産会報』378、大日本水産会事務所
	752	筆者不明(1914)、「朝鮮漁業取締規則中改正」、『大日本水産会報』378、大日本水産会事務所
	753	筆者不明(1914)、「朝鮮の水産雑報」、『大日本水産会報』381、大日本水産会事務所
754	筆者不明(1914)、「朝鮮海鱧縄漁況」、『大日本水産会報』382、大日本水産会事務所	
755	筆者不明(1914)、「朝鮮漁業令中改正」、『大日本水産会報』386、大日本水産会事務所	

1914年	756	筆者不明(1914)、「朝鮮漁業取締規則中改正」、『大日本水産会報』386、大日本水産会事務所
	757	筆者不明(1914)、「朝鮮海の漁況」、『大日本水産会報』387、大日本水産会事務所
1915年	758	朝鮮総督府編(1915)、『朝鮮総督府統計年報 大正二年』、朝鮮総督府
	759	朝鮮総督府編(1915)、『朝鮮総督府施政年報 大正二年』、朝鮮総督府
	760	朝鮮総督府編(1915)、『最近朝鮮事情要覧 大正四年』、朝鮮総督府
	761	朝鮮総督府編(1915)、『大正二度 朝鮮総督府統計年報』、朝鮮総督府
	762	朝鮮総督府編(1915)、『朝鮮施政ノ方針及実績』、朝鮮総督府
	763	朝鮮総督府編(1915)、『水産調査及試験報告(調査之部)』、朝鮮総督府
	764	高知県水産試験場編(1915)、『高知県水産試験場事業報告 第拾貳巻』、高知県水産試験場
	765	長崎県編(1915)、『大正四年 長崎県事業要覧』、長崎県
	766	志田勝信・北原定正編(1915)、『釜山案内記 欧亜大陸之連絡港』、拓殖新報社
	767	筆者不明(1915)、「朝鮮水産製造物調査」、『朝鮮彙報』大正4年3月号、朝鮮総督府
	768	筆者不明(1915)、「慶尚北道鬱島水産状況(慶尚北道報告)」、『朝鮮彙報』大正4年3月号、朝鮮総督府
	769	許斐兵治(1915)、「間島に於ける水産物販路調査(大正三年七月)」、『朝鮮彙報』大正4年3月号、朝鮮総督府
	770	元山税関長(1915)、「明太魚の生産並取引状況」、『朝鮮彙報』大正4年5月号、朝鮮総督府
	771	筆者不明(1915)、「慶尚南道地方費事業海苔養殖試験状況」、『朝鮮彙報』大正4年5月号、朝鮮総督府
	772	江口保孝(1915)、「済州島出稼海女」、『朝鮮彙報』大正4年5月号、朝鮮総督府
	773	遠藤千尋(1915)、「江原道三陟郡の水産」、『朝鮮彙報』大正4年5月号、朝鮮総督府
	774	筆者不明(1915)、「咸北造山湾の水産業」、『朝鮮彙報』大正4年7月号、朝鮮総督府
	775	曾根東吾(1915)、「咸北城津と水産」、『朝鮮彙報』大正4年8月号、朝鮮総督府
	776	筆者不明(1915)、「第三章 行政 第十四 水産行政」、『朝鮮彙報』大正4年9月号(始政5年共進会記念号)、朝鮮総督府
	777	筆者不明(1915)、「第三章 行政 第十五 水産業の発展」、『朝鮮彙報』大正4年9月号(始政5年共進会記念号)、朝鮮総督府
	778	筆者不明(1915)、「第三章 行政 第十六 内地漁民の移住」、『朝鮮彙報』大正4年9月号(始政5年共進会記念号)、朝鮮総督府
	779	朝鮮水産組合江原道支部(1915)、「江原道に於ける漁業状況」、『朝鮮彙報』大正4年10月号、朝鮮総督府
	780	山崎信行(1915)、「大黒山島」、『朝鮮彙報』大正4年10月号、朝鮮総督府
	781	筆者不明(1915)、「各種大会 十二水産大会」、『朝鮮彙報』大正4年11月号(始政5年共進会記念号 <第2>)、朝鮮総督府
	782	菖蒲治太郎(1915)、「朝鮮の水産業」、『朝鮮及満洲』90、朝鮮雑誌社
	783	香椎源太郎(1915)、「水産より観たる南鮮の富源」、『朝鮮及満洲』100、朝鮮雑誌社
784	朝鮮海水産組合(1915)、「朝鮮に於ける壺網漁業」、『水産』第3年12号、水産書院	

1915年	785	筆者不明(1915)、「福岡県の朝鮮海漁業」、『水産』第3年12号、水産書院
	786	筆者不明(1915)、「朝鮮水産技術者会議諮問事項」、『大日本水産会報』388、大日本水産会事務所
	787	筆者不明(1915)、「朝鮮京城の明太魚市況」、『大日本水産会報』388、大日本水産会事務所
	788	筆者不明(1915)、「朝鮮漁獲一千万圓」、『大日本水産会報』389、大日本水産会事務所
	789	筆者不明(1915)、「大日本水産会大会の経緯と決議」、『大日本水産会報』390、大日本水産会事務所
	790	いわさ(1915)、「江原道三陟郡海藻採収の沿革」、『大日本水産会報』393、大日本水産会事務所
	791	筆者不明(1915)、「北鮮の明太魚」、『大日本水産会報』393、大日本水産会事務所
	792	筆者不明(1915)、「朝鮮免許漁業令規中改正」、『大日本水産会報』393、大日本水産会事務所
	793	筆者不明(1915)、「台湾と朝鮮の製塩高」、『水産界☆』398、大日本水産会☆№398(1915)以降、誌名を『大日本水産会報』から『水産界』に、出版元を「大日本水産会事務所」から「大日本水産会」にそれぞれ変更
	794	筆者不明(1915)、「朝鮮水産講話会概況」、『水産界』398、大日本水産会
	795	慶南・島の人(1915)、「朝鮮漁業者の二大苦痛」、『水産界』399、大日本水産会
	796	筆者不明(1915)、「朝鮮に於ける各種漁報」、『水産界』399、大日本水産会
	797	筆者不明(1915)、「朝鮮海に於ける内地人漁船府県別」、『水産界』399、大日本水産会
	1916年	798
799		朝鮮総督府編(1916)、『朝鮮総督府施政年報 大正三年』、朝鮮総督府
800		朝鮮総督府編(1916)、『最近朝鮮事情要覧 大正五年』、朝鮮総督府
801		朝鮮総督府編(1916)、『朝鮮漁業歴』、朝鮮総督府
802		朝鮮水産組合編(1916)、『朝鮮水産一斑』、朝鮮水産組合(釜山)
803		朝鮮水産組合編(1916)、『大正四年中朝鮮沿海漁業概況』(『朝鮮水産組合報』附録)、朝鮮水産組合(釜山)
804		岡山県編(1916)、『朝鮮岡山村事績書』、岡山県
805		長崎県水産試験場編(1916)、『大正三年度 長崎県水産試験場事業報告』、長崎県水産試験場
806		高知県水産試験場編(1916)『高知県水産試験場事業報告 第拾参巻』、高知県水産試験場
807		長崎県編(1916)、『大正五年 長崎県事業要覧』、長崎県
808		香川県朝鮮海出漁団編(1916)、『香川県朝鮮海出漁団報告』第4輯、香川県朝鮮海出漁団(高松)
809		遠藤千尋(1916)、「江原道三陟水産一斑 補遺」、『朝鮮彙報』大正5年2月号、朝鮮総督府
810		山崎信行(1916)、「多島海の水産」、『朝鮮彙報』大正5年2月号、朝鮮総督府
811		庵原文一(1916)、「朝鮮の重要水産物」、『朝鮮彙報』大正5年4月号、朝鮮総督府
812		遠藤千尋(1916)、「江原道三陟郡の水産 大正四年」、『朝鮮彙報』大正5年9月号、朝鮮総督府
813		小金丸汎愛(1916)、「海藻生産調査」、『朝鮮彙報』大正5年12月号、朝鮮総督府

1916年	814	小田信一(1916)、「無尽蔵なる朝鮮の魚族と内地漁民の活動」、『朝鮮及満洲』114、朝鮮雑誌社
	815	朝鮮水産組合(1916)、「朝鮮海の漁業」、『水産』4-5、水産書院
	816	筆者不明(1916)、「朝鮮漁業界最近情報」、『水産界』400、大日本水産会
	817	筆者不明(1916)、「最近の朝鮮漁業界」、『水産界』402、大日本水産会
	818	筆者不明(1916)、「最近の朝鮮漁業界(朝鮮捕鯨業の盛況。輸出罐詰製造試験)」、『水産界』403、大日本水産会
	819	筆者不明(1916)、「両県の朝鮮出稼漁民」、『水産界』404、大日本水産会
	820	筆者不明(1916)、「東拓と漁業移民」、『水産界』404、大日本水産会
	821	筆者不明(1916)、「前途多望なる朝鮮蠶業」、『水産界』408、大日本水産会
	822	筆者不明(1916)、「朝鮮水産業近況」、『水産界』408、大日本水産会
	823	筆者不明(1916)、「朝鮮漁業法改正」、『水産界』408、大日本水産会
	1917年	824
825		朝鮮総督府編(1917)、『朝鮮総督府施政年報 大正四年』、朝鮮総督府
826		朝鮮総督府編(1917)、『最近朝鮮事情要覧 大正六年』、朝鮮総督府
827		朝鮮水産組合編(1917)、『水産統計要覧』、朝鮮水産組合
828		京城商業会議所編(1917)、『大正六年 朝鮮経済年鑑』、京城商業会議所
829		愛知県水産試験場編(1917)、『大正四年度 愛知県水産試験場事業報告』、愛知県水産試験場
830		水産試験場編(1917)、『大正五年度 愛知県水産試験場事業報告』、愛知県水産試験場
831		長崎県水産試験場編(1917)、『大正四年度 長崎県水産試験場事業報告』、長崎県水産試験場
832		長崎県水産試験場編(1917)、『大正五年度 長崎県水産試験場事業報告』、長崎県水産試験場
833		筆者不明(1917)、「鬱陵島通信(鬱陵島庁報告抄)」、『朝鮮彙報』大正6年4月号、朝鮮総督府
834		遠藤千尋(1917)、「江原道三陟郡の水産」、『朝鮮彙報』大正6年12月号、朝鮮総督府
835		筆者不明(1917)、「朝鮮の捕鯨事業」、『東洋時報』222、東洋協会
836		庵原文一(1917)、「朝鮮に於ける漁業の発達」、『朝鮮及満洲』119、朝鮮雑誌社
837		水野三四郎(1917)、「朝鮮産水産貿易品の価値」、『朝鮮及満洲』120、朝鮮雑誌社
838		筆者不明(1917)、「第二回全国水産大会議題」、『水産界』413、大日本水産会
839		筆者不明(1917)、「朝鮮の捕鯨事業」、『水産界』414、大日本水産会
840		生田清三郎(1917)、「朝鮮水産業の概観と移住問題」、『水産界』416、大日本水産会
841		台湾総督府技師 榎谷政鶴☆(1917)、「大正六年度(台湾)総督府の水産施設」、『水産界』416、大日本水産会 ☆榎谷政鶴は台湾の漁業行政にも関わり、手腕を発揮した(小岩信行<2013>、「近代における台湾漁業の展開と榎谷政鶴の漁業権論」、『神奈川大学国際常民文化研究機構年報』、神奈川大学国際常民文化研究機構<横浜>)。No.948、1055 参照
842		伊谷以知二郎(1917)、「朝鮮漁業発達の跡」、『水産界』417、大日本水産会
843		筆者不明(1917)、「朝鮮漁業令施行規則改正」、『水産界』423、大日本水産会
844	筆者不明(1917)、「朝鮮船舶職員試験」、『水産界』423、大日本水産会	
1918年	845	朝鮮総督府編(1918)、『朝鮮総督府統計年報 大正五年』、朝鮮総督府

1918年	846	朝鮮総督府編(1918)、『朝鮮総督府施政年報 大正五年』、朝鮮総督府
	847	朝鮮総督府編(1918)、『最近朝鮮事情要覧 大正七年』、朝鮮総督府
	848	佐賀県藤津郡役所編(1918)、『第三回 藤津郡勢一斑』、佐賀県藤津郡役所
	849	水産新報社編(1918)、『全国水産市場取引案内』、水産新報社出版部
	850	三枝拳一郎編(1918)、『対岸五百哩』、榊原文盛
	851	青柳幸太郎(1918)、『総督政治』、朝鮮研究会
	852	菖蒲治太郎(1918)、「江原咸南両道沿岸の鮑、海鼠、貽貝、牡蠣に関する調査及試験」、『朝鮮彙報』大正7年1月号、朝鮮総督府
	853	菖蒲治太郎(1918)、「魚油に就て」、『朝鮮彙報』大正7年6月号、朝鮮総督府
	854	筆者不明(1918)、「羅老島水産業状況」、『朝鮮彙報』大正7年10月号、朝鮮総督府
	855	谷多喜麿(1918)、「朝鮮に於ける水産業の発達」、『朝鮮公論』6-12、朝鮮公論社
	856	筆者不明(1918)、「記鴨緑江漁業(漢文東洋報)」、『東洋時報』232、東洋協会
	857	小原新三(1918)、「朝鮮に於ける水産業の前途」、『朝鮮及満洲』130、朝鮮及満洲社☆ ☆№127(1918)以降、出版元が朝鮮雑誌社から朝鮮及満洲社に変更
	858	群山公立水産学校(1918)、「漁民移住地としての朝鮮群山」、『水産』6-2、水産書院
	859	記者(1918)、「朝鮮鯖漁業界の革命児 近く開始せられんとする機船巾着網」、『水産』6-16、水産書院
	860	筆者不明(1918)、「上海の朝鮮海産物」、『水産界』427、大日本水産会
	861	筆者不明(1918)、「朝鮮總督府二府令」、『水産界』430、大日本水産会
	1919年	862
863		朝鮮総督府編(1919)、『朝鮮総督府施政年報 大正六年』、朝鮮総督府
864		朝鮮総督府編(1919)、『最近朝鮮事情要覧 大正八年』、朝鮮総督府
865		愛知県水産組合聯合会編(1919)、『愛知県水産要覧』、愛知県水産組合聯合会
866		長崎県水産試験場編(1919)、『長崎県水産試験場事業報告 大正六年度』、長崎県水産試験場
867		岡山県水産試験場編(1919)、『大正六年度業務報告 岡山県水産試験場』、岡山県水産試験場
868		愛知県水産組合聯合会編(1919)、『愛知県水産要覧』、愛知県水産組合聯合会
869		野元俊一(1919)、『朝鮮天日製塩調査報告書』、水産講習所
870		大喜多筆一著(1919)、『帝国之殖民地 上巻』、東亜評論社
871		遠藤千尋(1919)、「江原道三涉郡の水産 大正六年」、『朝鮮彙報』大正8年1月号、朝鮮総督府
872		平田徳太郎(1919)、「朝鮮近海の海流」、『朝鮮彙報』大正8年3月号、朝鮮総督府
873		粕谷春之助(1919)、「江原道の和布採取沿革」、『朝鮮彙報』大正8年7月号、朝鮮総督府
874		江原道庁(1919)、「鯖焚寄釣漁撈試験の成績」、『朝鮮彙報』大正8年8月号、朝鮮総督府
875		筆者不明(1919)、「統営の鱺漁業」、『金融と経済』6-1、朝鮮経済協会
876		筆者不明(1919)、「北鮮水産計画」、『平壤商業会議所月報』33、平壤商業会議所
877		田子勝彌(1919)、「朝鮮水産界の概況」、『水産界』440、大日本水産会

1919年	878	鈴木謙吉(1919)、「對馬東岸に於ける鯖漁業に就て」、『水産界』441、大日本水産会
	879	筆者不明(1919)、「朝鮮採塩減収」、『水産界』447、大日本水産会
1920年	880	朝鮮総督府編(1920)、『朝鮮総督府統計年報 大正七年』、朝鮮総督府
	881	朝鮮総督府編(1920)、『朝鮮総督府統計年報 大正八年』、朝鮮総督府
	882	朝鮮総督府編(1920)、『最近朝鮮事情要覧 大正九年』、朝鮮総督府
	883	農商務省水産局編(1920)、『大正七年 水産統計年鑑』、農商務省水産局
	884	拓殖局編(1920)、『殖民地要覧』、拓殖局
	885	福岡県水産試験場編(1920)、『福岡県水産要覧』、福岡県水産試験場
	886	長崎県水産試験場(1920)、『長崎県水産試験場事業報告 大正七年度』、長崎県水産試験場
	887	岡山県水産試験場編(1920)、『大正七年度業務報告 岡山県水産試験場』、岡山県水産試験場
	888	広島県編(1920)、『広島県産業概覧 大正九年十二月』、広島県内務部農務課
	889	粕谷春之助(1920)、「珍らしき慣習ある漁業」、『朝鮮』67、大正9年8月号、朝鮮総督府
	890	岡崎水産課長(1920)、「朝鮮の水産業」、『朝鮮』70、大正9年11月号、朝鮮総督府
	891	筆者不明(1920)、「塩田拡張(朝鮮)自給自足方針」、『水産界』448、大日本水産会
	892	筆者不明(1920)、「朝鮮沿岸漁業の成績」、『水産界』453、大日本水産会
	893	筆者不明(1920)、「朝鮮水産製品検査規則改正」、『水産界』454、大日本水産会
	894	筆者不明(1920)、「朝鮮移入関税の撤廃」、『水産界』456、大日本水産会
	895	筆者不明(1920)、「朝鮮総督府部内水産関係臨時職員設置」、『水産界』459、大日本水産会
	1921年	896
897		朝鮮総督府編(1921)、『朝鮮総督府統計年報 大正九年 第二編』、朝鮮総督府
898		朝鮮総督府編(1921)、『最近朝鮮事情要覧 大正十年』、朝鮮総督府
899		朝鮮総督府編(1921)、『朝鮮の産業』、朝鮮総督府
900		朝鮮総督府殖産局編(1921)、『朝鮮の水産業』、朝鮮総督府殖産局
901		朝鮮総督府殖産局編(1921)、『朝鮮の十大漁業』、朝鮮総督府殖産局
902		朝鮮総督府殖産局編(1921)、『朝鮮水産養殖業の将来』、朝鮮総督府殖産局
903		朝鮮総督府専売局編(1921)、『塩ニ関スル調査』、朝鮮総督府専売局
904		朝鮮銀行調査部編(1921)、『朝鮮会社調』、朝鮮銀行調査部
905		慶尚南道編(1921)、『慶尚南道に於ける移住漁村』、慶尚南道
906		岡山県水産試験場編(1921)、『大正八年度業務報告 岡山県水産試験場』、岡山県水産試験場
907		藤田定市編(1921)、『海事参考年鑑 大正十年版』、有終会
908		西村保吉(1921)、「朝鮮の水産に就て」、『朝鮮』72、大正10年1月号、朝鮮総督府
909		田子勝彌(1921)、「朝鮮の水産」、『地学雑誌』33—11、東京地学協会
910		寺田雄資(1921)、「極東露領沿岸の本邦出漁状況と鮮支貿易の将来」、『金融と経済』26、朝鮮経済協会

1921年	911	高橋周平(1921)、「日本近海に於ける鯨属の分布」、『水産学雑誌』23、北水会
	912	筆者不明(1921)、「朝鮮の水産主任会議」、『水産界』460、大日本水産会
	913	大庭弘雅(1921)、「朝鮮海に於ける発動機船鯖巾着網漁業」、『水産界』465、大日本水産会
	914	筆者不明(1921)、「朝鮮総督府水産試験場官制公布」、『水産界』465、大日本水産会
	915	片山漁政課長談(1921)、「機船底曳網漁業取締規則の制定に就て」、『水産界』469、大日本水産会
	916	大庭生(1921)、「朝鮮より仙台湾まで出漁」、『水産界』469、大日本水産会
	917	筆者不明(1921)、「朝鮮天然氷株式會社の合併」、『水産界』472、大日本水産会
	918	筆者不明(1921)、「朝鮮の水産試験場開始」、『水産界』474、大日本水産会
1922年	919	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正九年 第三編』、朝鮮総督府
	920	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正九年 第四編』、朝鮮総督府
	921	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正九年 第五編』、朝鮮総督府
	922	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正九年 第六編』、朝鮮総督府
	923	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正九年 第七編』、朝鮮総督府
	924	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正九年 第八編』、朝鮮総督府
	925	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正十年 第一編』、朝鮮総督府
	926	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正十年 第二編』、朝鮮総督府
	927	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正十年 第三編』、朝鮮総督府
	928	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正十年 第四編』、朝鮮総督府
	929	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正十年 第五編』、朝鮮総督府
	930	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正十年 第六編』、朝鮮総督府
	931	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正十年 第七編』、朝鮮総督府
	932	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府統計年報 大正十年 第八編』、朝鮮総督府
	933	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府施政年報 自大正七年至大正九年』、朝鮮総督府
	934	朝鮮総督府編(1922)、『朝鮮総督府施政年報 大正十年』、朝鮮総督府
	935	朝鮮総督府編(1922)、『最近朝鮮事情要覧 大正十一年』、朝鮮総督府
	936	朝鮮総督府編(1922)、『大正十二年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	937	朝鮮総督府殖産局編(1922)、『朝鮮の水産業』、朝鮮総督府殖産局・東亜出版株式会社
	938	慶尚南道編(1922)、『道勢一斑』、慶尚南道

1922年	939	広島県編(1922)、『広島県産業概覧 大正十一年二月』、広島県内務部
	940	岡山県水産試験場編(1922)、『大正九年度業務報告 岡山県水産試験場』、岡山県水産試験場
	941	猪原萬作(1922)、「咸鏡難道明太漁業の概況」、『朝鮮』83、大正11年1月号、朝鮮総督府
	942	有賀光豊(1922)、「水産業と金融との関係」、『朝鮮』87、大正11年6月号、朝鮮総督府
	943	田島勝太郎(1922)、「朝鮮水産業の将来」、『朝鮮』87、大正11年6月号、朝鮮総督府
	944	牧 朴真(1922)、「朝鮮漁業史」、『朝鮮』87、大正11年6月号、朝鮮総督府
	945	筆者不明(1922)、「元山水産品評会概況」、『朝鮮』90、大正11年8月号、朝鮮総督府
	946	郡 茂徳(1922)、「朝鮮と水産業 ☆」、『朝鮮』91、大正11年10月号、朝鮮総督府 ☆目次のタイトルは「朝鮮の水産業」
	947	岸上謙吉(1922)、「朝鮮水産業に関し思ひつきたるまま ☆」、『朝鮮』91、大正11年10月号、朝鮮総督府 ☆目次のタイトルは「朝鮮の水産業に関して」
	948	樅谷政鶴☆(1922)、「朝鮮に於ける漁業の将来」、『朝鮮』91、大正11年10月号、朝鮮総督府 ☆No.841、1055 参照
	949	富樫 恒(1922)、「朝鮮に於ける内地人漁業の沿革 ☆」、『朝鮮』91、大正11年10月号、朝鮮総督府 ☆目次のタイトルは「内地人の朝鮮漁業の沿革」
	950	長友 寛(1922)、「水産試験場の事業に就て」、『朝鮮』91、大正11年10月号、朝鮮総督府
	951	西村保吉(1922)、「尹相弼氏と其の改良漁船 ☆」、『朝鮮』91、大正11年10月号、朝鮮総督府 ☆目次には無い
	952	筆者不明(1922)、「木浦海藻水産組合」、『朝鮮』91、大正11年10月号、朝鮮総督府
	953	筆者不明(1922)、「上海に於ける水産物」、『月報 朝鮮経済雑誌』76、京城商業会議所
	954	筆者不明(1922)、「朝鮮の水産業」、『月報 朝鮮経済雑誌』83、京城商業会議所
	955	大木盛三郎(1922)、「朝鮮館を飾る朝鮮の十大漁業」、『水産』10-10、水産社 ☆ ☆7-2(1919)以降、出版元は水産書院から水産社に変更
	956	筆者不明(1922)、「朝鮮水産開発費の増額運動」、『水産界』475、大日本水産会
957	筆者不明(1922)、「朝鮮水産協会発会式」、『水産界』477、大日本水産会	
1923年	958	朝鮮総督府編(1923)、『朝鮮法令輯覧追録』、帝国地方行政学会
	959	朝鮮総督府編(1923)、『朝鮮総督府統計年報 大正十一年 第一編』、朝鮮総督府
	960	朝鮮総督府編(1923)、『朝鮮総督府統計年報 大正十一年 第三編 其ノ二』、朝鮮総督府
	961	朝鮮総督府編(1923)、『朝鮮総督府統計年報 大正十一年 第四編』、朝鮮総督府
	962	朝鮮総督府編(1923)、『朝鮮総督府統計年報 大正十一年 第七編』、朝鮮総督府
	963	朝鮮総督府編(1923)、『大正十二年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	964	朝鮮総督府殖産局編(1923)、『朝鮮の水産業』、朝鮮総督府殖産局
	965	朝鮮総督府殖産局編(1923)、『朝鮮之塩業』、朝鮮総督府殖産局
	966	朝鮮総督府殖産局編(1923)、『朝鮮の重要漁業』、朝鮮総督府殖産局

1923年	967	朝鮮総督府編(1923)、『朝鮮に於ける内地人』、朝鮮総督府
	968	農商務大臣官房統計課(1923)、『農商務統計表 第三十八次 第一編』、東京統計協会
	969	岡山県水産試験場編(1923)、『大正十年度業務報告 岡山県水産試験場』、岡山県水産試験場
	970	石川県水産試験場編(1923)、『北鮮海漁業試験調査報告』、石川県水産試験場(金沢)
	971	青柳南冥(1923)、『朝鮮統治論』、朝鮮研究会
	972	西村保吉(1923)、「朝鮮水産会令の発布に就て」、『朝鮮』95、大正12年2月号、朝鮮総督府
	973	富樫 恒(1923)、「慶尚北道水産試験場の開始に方りて」、『朝鮮』96、大正12年3月号、朝鮮総督府
	974	筆者不明(1923)、「全南名産『鱸子』」、『朝鮮』100、大正12年7月号、朝鮮総督府
	975	小金丸汎愛(1923)、「朝鮮に於ける海苔養殖業」、『朝鮮』100、大正12年7月号、朝鮮総督府
	976	筆者不明(1923)、「激増せる鎮海の煎子」、『朝鮮』101、大正12年9月号、朝鮮総督府
	977	富樫 恒(1923)、「朝鮮と鯨の移輸出入」、『朝鮮』103、大正12年11月号、朝鮮総督府
	978	松野二平(1923)、「有望なる朝鮮の海苔及鯉の養殖」、『朝鮮』104、大正12年12月号、朝鮮総督府議所
	979	桑原一郎(1923)、「朝鮮に於ける漁業資金に就て」、『金融と経済』48、朝鮮経済協会
	980	桑原一郎(1923)、「朝鮮水産一斑」、『朝鮮公論』11-8、朝鮮公論社
	981	豊島佐太郎(1923)、「半島水産界の緊急問題」、『朝鮮公論』11-8、朝鮮公論社
	982	桑原一郎(1923)、「多望なる朝鮮漁業の将来」、『朝鮮地方行政』2-7、朝鮮地方行政学会
	983	中野太三郎(1923)、「咸北水産の現勢」、『朝鮮地方行政』2-8、朝鮮地方行政学会
	984	和田純(1923)、「朝鮮水産行政と本道の水産」、『朝鮮地方行政』2-9、朝鮮地方行政学会
	985	矢島音次(1923)、「釜山水産共進会開催に就て」、『朝鮮地方行政』2-11、朝鮮地方行政学会
	986	一記者(1923)、「水産上より見たる咸南」、『朝鮮及満洲』192、朝鮮及満洲社
	987	相澤 毅(1923)、「上海に於ける水産貿易(上)」、『月報 朝鮮経済雑誌』90、京城商業会議所
	988	桑原一郎(1923)、「朝鮮の貿易より見たる水産」、『月報 朝鮮経済雑誌』96、京城商業会
	989	筆者不明(1923)、「釜山の水産減少」、『水産界』485、大日本水産会
	990	KH生(1923)、「朝鮮海の漁業と税關制度」、『水産界』487、大日本水産会
	991	筆者不明(1923)、「朝鮮水産会令公布」、『水産界』487、大日本水産会
	992	筆者不明(1923)、「朝鮮水産会令認可」、『水産界』488、大日本水産会
	993	筆者不明(1923)、「第一回玄海水産集談会開催」、『水産界』489、大日本水産会
	994	木下佳山(1923)、「機船底曳網漁業の現在及将来」、『水産界』492、大日本水産会

1923年	995	筆者不明(1923)、「(主張) 大正十二年に於ける水産会の概況」、『水産界』494、大日本水産会
1924年	996	朝鮮総督府編(1924)、『朝鮮総督府統計年報 大正十一年 第二編』、朝鮮総督府
	997	朝鮮総督府編(1924)、『朝鮮総督府統計年報 大正十一年 第三編 其ノ一』、朝鮮総督府
	998	朝鮮総督府編(1924)、『朝鮮総督府統計年報 大正十一年 第五編』、朝鮮総督府
	999	朝鮮総督府編(1924)、『朝鮮総督府統計年報 大正十一年 第六編』、朝鮮総督府
	1000	朝鮮総督府編(1924)、『朝鮮総督府統計年報 大正十一年 第八編』、朝鮮総督府
	1001	朝鮮総督府編(1924)、『朝鮮総督府統計年報 大正十二年 第一編』、朝鮮総督府
	1002	朝鮮総督府編(1924)、『朝鮮総督府施政年報 大正十一年』、朝鮮総督府
	1003	朝鮮総督府編(1924)、『大正十三年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	1004	朝鮮総督府殖産局編(1924)、『朝鮮の水産業』、朝鮮総督府殖産局
	1005	朝鮮総督府殖産局編(1924)、『大正十一年 水産製品検査成績要覧』、朝鮮総督府殖産局
	1006	朝鮮総督府水産試験場編(1924)、『漁船調査報告 第一冊』、朝鮮総督府水産試験場
	1007	朝鮮総督府庶務部調査課編(1924)、『朝鮮に於ける内地人』、朝鮮総督府
	1008	朝鮮総督府庶務部調査課編(1924)、『朝鮮の市場』、朝鮮総督府
	1009	慶尚南道編(1924)、『慶尚南道統計年報 大正十二年』、慶尚南道
	1010	農商務大臣官房統計課(1924)、『農商務統計表 第三十九次 第一編』、東京統計協会
	1011	富山県水産講習所編(1924)、『富山県水産講習所試験調査報告』、富山県水産講習所
	1012	広島県水産試験場編(1924)、『広島県水産試験場報告 第一巻』、広島県水産試験場
	1013	岡山県水産試験場編(1924)、『大正十一年度業務報告 岡山県水産試験場』、岡山県水産試験場
	1014	朝鮮殖産銀行編(1924)、『朝鮮殖産銀行と朝鮮の産業』、朝鮮殖産銀行
	1015	渋江桂蔵編(1924)、『新編朝鮮地誌』、朝鮮弘文社
	1016	佐々木正太(1924)、『朝鮮の実情』、帝国地方行政学会
	1017	日高友四郎(1924)、『新編朝鮮地誌』、朝鮮弘文社
	1018	筆者不明(1924)、「朝鮮に於ける水産養殖業」、『朝鮮総督府調査彙報』7、大正13年6月号、朝鮮総督府
	1019	筆者不明(1924)、「内地より朝鮮への通漁者調」、『朝鮮総督府調査彙報』8、大正13年7月号、朝鮮総督府
	1020	筆者不明(1924)、「朝鮮水産製造物類別表」、『朝鮮総督府調査彙報』11、大正13年10月号、朝鮮総督府
1021	桑原一郎(1924)、「朝鮮水産業の現在及将来」、『帝水』3-10、帝国水産会	
1022	石川齊四郎(1924)、「朝鮮の漁業組合」、『朝鮮之水産』1、朝鮮水産会	
1023	關戸義雄(1924)、「朝鮮型改良漁船に就て」、『水産学雑誌』27、オコック会	
1024	筆者不明(1924)、「朝鮮に於ける機船底曳網漁業の許可に関する制限」、『水産界』498、大日本水産会	
1025	筆者不明(1924)、「元山に於ける水産施設」、『水産界』503、大日本水産会	

1924年	1026	筆者不明(1924)、「福岡、長崎、山口、島根各県機船底曳網漁業許可運動」、『水産界』505、大日本水産会
	1027	筆者不明(1924)、「朝鮮で漂流鯖放流」、『水産界』505、大日本水産会
1925年	1028	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府統計年報 大正十二年 第二編』、朝鮮総督府
	1029	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府統計年報 大正十二年 第三編 其ノ一』、朝鮮総督府
	1030	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府統計年報 大正十二年 第三編 其ノ二』、朝鮮総督府
	1031	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府統計年報 大正十二年 第四編』、朝鮮総督府
	1032	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府統計年報 大正十二年 第五編』、朝鮮総督府
	1033	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府統計年報 大正十二年 第六編』、朝鮮総督府
	1034	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府統計年報 大正十二年 第七編』、朝鮮総督府
	1035	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府統計年報 大正十二年 第八編』、朝鮮総督府
	1036	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府統計年報 大正十三年 第三編 其ノ二』、朝鮮総督府
	1037	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮総督府施政年報 大正十二年』、朝鮮総督府
	1038	朝鮮総督府編(1925)、『大正十三年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1039	朝鮮総督府編(1925)、『大正十四年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	1040	朝鮮総督府編(1925)、『朝鮮ノ産業』、朝鮮総督府
	1041	農商務大臣官房統計課(1925)、『農商務統計表 第四十次 第一編』、東京統計協会
	1042	朝鮮殖産銀行調査課編(1925)、『朝鮮ノ明太』、朝鮮殖産銀行調査課
	1043	岡山県水産試験場編(1925)、『大正十二年度業務報告 岡山県水産試験場』、岡山県水産試験場
	1044	南満洲鉄道株式会社庶務部調査課(1925)、『黄渤海の漁業 調査報告書 第二十三巻』、南満洲鉄道株式会社
	1045	朝鮮水産共進会同協賛会編(1925)、『朝鮮水産共進会事務報告』、朝鮮水産共進会同協賛会
	1046	帝国水産会編(1925)、『大正十四年 水産年鑑』、帝国水産会
	1047	山根倬三(1925)、『亜東指要 支那満洲朝鮮案内』、東洋協会
	1048	善生永助(1925)、「朝鮮に於ける魚類の集散状況」、『朝鮮』118、大正14年2月号、朝鮮総督府
1049	朝鮮総督府水産課(1925)、「朝鮮に於ける漁業状況」、『朝鮮』119、大正14年3月号、朝鮮総督府	
1050	咸鏡北道(1925)、「咸北の水産と鉱業」、『朝鮮』125、大正14年10月号、朝鮮総督府	
1051	筆者不明(1925)、「咸南の水産と機業」、『朝鮮』126 大正14年11月号、朝鮮総督府	
1052	筆者不明(1925)、「慶北の鯖及鯰漁業」、『朝鮮』127 大正14年12月号、朝鮮総督府	
1053	萩原彦三(1925)、「指導を要する漁業組合」、『朝鮮地方行政』4-9、朝鮮地方行政学会	

1925年	1054	筆者不明(1925)、「釜山の水産状況に就て一小西釜山府尹談」、『朝鮮及満洲』212、朝鮮及満洲社
	1055	樫谷政鶴☆(1925)、「講究を要する朝鮮水産問題の二、三」、『朝鮮之水産』11、朝鮮水産会 ☆No.841、948 参照
	1056	筆者不明(1925)、「機船底曳網漁業問題 制限論者と発展論者の各主張」、『水産界』512、大日本水産会
	1057	筆者不明(1925)、「朝鮮水産学校昇格問題」、『水産界』513、大日本水産会
	1058	筆者不明(1925)、「水産専門学校を朝鮮に設けよ」、『水産界』514、大日本水産会
	1059	金子政之助(1925)、「朝鮮型海苔簀を奨む」、『水産界』515、大日本水産会
	1060	筆者不明(1925)、「朝鮮に養殖保護政策の必要あり」、『水産界』515、大日本水産会
1926年	1061	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮総督府統計年報 大正十三年 第一編』、朝鮮総督府
	1062	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮総督府統計年報 大正十三年 第二編』、朝鮮総督府
	1063	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮総督府統計年報 大正十三年 第三編 其ノ一』、朝鮮総督府
	1064	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮総督府統計年報 大正十三年 第四編』、朝鮮総督府
	1065	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮総督府統計年報 大正十三年 第五編』、朝鮮総督府
	1066	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮総督府統計年報 大正十三年 第六編』、朝鮮総督府
	1067	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮総督府統計年報 大正十三年 第七編』、朝鮮総督府
	1068	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮総督府統計年報 大正十三年 第八編』、朝鮮総督府
	1069	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮総督府施政年報 大正十三年』、朝鮮総督府
	1070	朝鮮総督府編(1926)、『大正十五年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	1071	朝鮮総督府編(1926)、『朝鮮の経済事情』、朝鮮総督府
	1072	朝鮮総督府殖産局編(1926)、『朝鮮の水産業』、朝鮮総督府殖産局
	1073	朝鮮総督府殖産局編(1926)、『大正十三年 水産製品検査成績要覧』、朝鮮総督府殖産局
	1074	農林大臣官房統計課編(1926)、『大正十三年 第二次農林省統計摘要』、東京統計協会
	1075	農林大臣官房統計課編(1926)、『大正十四年 第二次農林省統計摘要』、東京統計協会
	1076	朝鮮水産会編(1926)、『朝鮮水産大要』、朝鮮水産会(京城)
	1077	日本水産新報社編(1926)、『日本水産商総覧』、日本水産新報社出版部
	1078	筆者不明(1926)、「対支朝鮮水産物の輸出概況」、『朝鮮』131、大正15年4月号、朝鮮総督府
	1079	朝鮮総督府水産課(1926)、「有望なる朝鮮海苔の養殖」、『朝鮮』131、大正15年4月号、朝鮮総督府
	1080	筆者不明(1926)、「全羅北道の水産概況」、『朝鮮』132、大正15年5月号、朝鮮総督府
	1081	筆者不明(1926)、「北海道産明太の移入に就て」、『朝鮮』134、大正15年7月号、朝鮮総督府

1926年	1082	水産課(1926)、「漁業取締規則の改良に就て」、『朝鮮』134、大正15年7月号、朝鮮総督府
	1083	池田秀雄(1926)、「帝國保健食料問題より見たる朝鮮水産業の使命」、『朝鮮』135、大正15年8月号、朝鮮総督府
	1084	奥田 讓(1926)、「食料問題より見たる水産の価値」、『朝鮮』135、大正15年8月号、朝鮮総督府
	1085	筆者不明(1926)、「朝鮮に於ける水産業」、『地学雑誌』38—2、東京地学協会
	1086	筆者不明(1926)、「朝鮮の水産業 (上)」、『月報 朝鮮経済雑誌』124、京城商業会議所
	1087	筆者不明(1926)、「朝鮮の水産業 (下)」、『月報 朝鮮経済雑誌』125、京城商業会議所
	1088	前田生(1926)、「済州島と海女の生活」、『文教の朝鮮』12(8月号)、朝鮮教育会
	1089	高橋昭文(1926)、「北鮮漁業余談」、『防長之水産』121、山口県水産会(山口県山口町)
	1090	高橋昭文(1926)、「北鮮漁業余談(二)」、『防長之水産』122、山口県水産会
	1091	高橋昭文(1926)、「北鮮漁業余談(三)」、『防長之水産』123、山口県水産会
	1092	高橋昭文(1926)、「北鮮漁業余談(四)」、『防長之水産』124、山口県水産会
	1093	高橋昭文(1926)、「北鮮漁業余談」、『防長之水産』126、山口県水産会
	1094	高橋昭文(1926)、「北鮮漁業余談」、『防長之水産』130、山口県水産会
	1095	筆者不明(1926)、「朝鮮金融行政と市場規制」、『水産界』522、大日本水産会
1927年	1096	朝鮮総督府編(1927)、『朝鮮総督府統計年報 大正十四年』、朝鮮総督府
	1097	朝鮮総督府編(1927)、『朝鮮総督府施政年報 大正十四年』、朝鮮総督府
	1098	朝鮮総督府編(1927)、『朝鮮総督府調査資料 第十九輯 朝鮮の物産』、朝鮮総督府
	1099	朝鮮総督府編(1927)、『大正十四年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1100	朝鮮総督府編(1927)、『昭和二年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	1101	朝鮮総督府編(1927)、『朝鮮の産業』、朝鮮総督府
	1102	朝鮮総督府殖産局編(1927)、『朝鮮の水産業』、朝鮮総督府殖産局
	1103	朝鮮総督府殖産局編(1927)、『大正十四年 水産製品検査成績要覧』、朝鮮総督府殖産局
	1104	朝鮮総督府編(1927)、『朝鮮の物産』、朝鮮総督府
	1105	農林省水産局編(1927)、『国際水産統計要覧』、農林省水産局
	1106	農林大臣官房統計課編(1927)、『大正十五年・昭和元年 第三次農林省統計摘要』、東京統計協会
	1107	全羅北道編(1927)、『昭和二年五月編纂 全羅北道要覧』、全羅北道
	1108	平壤商業会議所編(1927)、『平壤全誌』、平壤商業会議所
	1109	愛媛県水産試験場編(1927)、『大正十四年度 愛媛県水産試験場業務報告』、愛媛県水産試験場
	1110	愛媛県水産試験場編(1927)、『大正十五年・昭和元年 愛媛県水産試験場業務報告』、愛媛県水産試験場
	1111	廣瀬豊作(1927)、『朝鮮出張報告 第一巻 朝鮮産業開発問題』、大蔵省
	1112	梶川半三郎(1927)、『東亜之大富源 現代の朝鮮』、六合館(東京)
1113	井上蘇人(1927)、『朝鮮現勢の考察』、朝鮮経世時報社	
1114	津田勇三(1927)、『朝鮮時論』2—1、朝鮮時論社(京城)	
1115	著者不明(1927)、『大分県水産誌』、世界之九州社	

1927年	1116	池田秀雄(1927)、「水産製品検査規則の改正に就て」、『朝鮮』144、昭和2年5月号、朝鮮総督府(京城)
	1117	筆者不明(1927)、「海州郡漁業暦」、『朝鮮』147、昭和2年8月号、朝鮮総督府
	1118	筆者不明(1927)、「黄海道に於ける模範部落漁化島」、『朝鮮』148、昭和2年9月号、朝鮮総督府
	1119	慶尚南道水産会(1927)、「朝鮮海まいわし巾着網漁業願に関する件」、『防長之水産』140、山口県水産会
	1120	筆者不明(1927)、「朝鮮海機船漁業許可願書添付書類に関する通知」、『防長之水産』141、山口県水産会
	1121	筆者不明(1927)、「(新刊紹介) 朝鮮農林畜蠶大鑑(大正十五年版)」、『水産界』530、大日本水産会
	1122	筆者不明(1927)、「朝鮮に於ける漁業資金」、『水産界』530、大日本水産会
	1123	筆者不明(1927)、「朝鮮漁業取締について 齋藤朝鮮総督談片」、『水産界』533、大日本水産会
	1124	筆者不明(1927)、「朝鮮に於ける漁業権附与問題」、『水産界』533、大日本水産会
	1125	筆者不明(1927)、「支那東海黄海漁業協議会」、『水産界』534、大日本水産会
	1126	筆者不明(1927)、「朝鮮水産当業者視察団来会」、『水産界』534、大日本水産会
	1127	筆者不明(1927)、「朝鮮漁業移民の理想村」、『水産界』535、大日本水産会
	1128	筆者不明(1927)、「朝鮮発動機機関士講習会」、『水産界』537、大日本水産会
	1129	筆者不明(1927)、「釜山よりの輸移出」、『水産界』538、大日本水産会
1130	筆者不明(1927)、「朝鮮発動機々関士講習会」、『水産界』538、大日本水産会	
1131	小金丸汎愛(1927)、「朝鮮産鼈」、『水産界』540、大日本水産会	
1132	今岡源一(1927)、「朝鮮の事ども」、『水産界』540、大日本水産会	
1928年	1133	朝鮮総督府編(1928)、『朝鮮総督府統計年報 昭和元年』、朝鮮総督府
	1134	朝鮮総督府編(1928)、『朝鮮総督府施政年報 昭和元年』、朝鮮総督府
	1135	朝鮮総督府編(1928)、『昭和三年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	1136	朝鮮総督府編(1928)、『朝鮮の産業』、朝鮮総督府
	1137	朝鮮総督府殖産局編(1928)、『朝鮮の水産業』、朝鮮総督府殖産局
	1138	朝鮮総督府殖産局編(1928)、『大正十五年 水産製品検査成績要覧』、朝鮮総督府殖産局
	1139	朝鮮総督府水産試験場編(1928)、『漁船調査報告 第二冊』、朝鮮総督府水産試験場
	1140	朝鮮総督府水産試験場編(1928)、『朝鮮近海海洋図 昭和三年』、朝鮮総督府水産試験場
	1141	朝鮮総督府水産試験場編(1928)、『海洋観測成績 大正十五年(昭和元年)』、朝鮮総督府水産試験場
	1142	朝鮮総督府水産試験場編(1928)、『朝鮮近海海洋図 昭和二年』、朝鮮総督府水産試験場
	1143	農林大臣官房統計課編(1928)、『昭和二年 第四次農林省統計表』、東京統計協会
	1144	農林省水産講習所編(1928)、『水産講習所一覽 昭和三年』、朝鮮総督府
	1145	新潟県水産試験場編(1928)、『新潟県水産試験場事業概要 昭和二年度』、新潟県水産試験場
	1146	帝国水産会編(1928)、『昭和三年版第二次 水産年鑑』、帝国水産会
	1147	全羅北道編(1928)、『昭和三年七月編纂 全羅北道要覧』、全羅北道

1928年	1148	清津商業會議所編(1928)、『清津』、清津商業會議所
	1149	朝鮮殖産銀行編(1928)、『朝鮮殖産銀行十年志』、朝鮮殖産銀行
	1150	筆者不明(1928)、「水産製品検査委員会同」、『朝鮮』152、昭和3年1月号、朝鮮総督府
	1151	筆者不明(1928)、「漁業令施行規則の改正」、『朝鮮』153、昭和3年2月号、朝鮮総督府
	1152	筆者不明(1928)、「漁業取締船朝風丸」、『朝鮮』156、昭和3年5月号、朝鮮総督府
	1153	今村武志(1928)、「漁業組合規則改正に就て」、『朝鮮』160、昭和3年9月号、朝鮮総督府
	1154	松本伊織(1928)、「朝鮮水産の勃興と其の将来(上)」、『朝鮮研究』第1巻第1号、朝鮮研究社
	1155	松本伊織(1928)、「朝鮮水産の勃興と其の将来(下)」、『朝鮮研究』第1巻第4号、朝鮮研究社
	1156	松本伊織(1928)、「北鮮の水産」、『朝鮮鉄道協会会誌』第7巻第10号、朝鮮鉄道協会
	1157	朝鮮総督府水産試験場(1928)、「朝鮮近海の海洋状況と漁況」、『防長之水産』145、山口県水産会
	1158	筆者不明(1928)、「朝鮮総督府漁業令」、『水産界』544、大日本水産会
	1159	筆者不明(1928)、「支那東海黄海漁業協議会」、『水産界』545、大日本水産会
	1160	筆者不明(1928)、「下関の遠洋漁業と漁獲高」、『水産界』549、大日本水産会
	1161	筆者不明(1928)、「西部日本水産大会」、『水産界』551、大日本水産会
	1162	筆者不明(1928)、「朝鮮殖産の水産金融」、『水産界』552、大日本水産会
	1163	筆者不明(1928)、「朝鮮の漁業資金」、『水産界』553、大日本水産会
1929年	1164	朝鮮総督府編(1929)、『朝鮮総督府統計年報 昭和二年』、朝鮮総督府
	1165	朝鮮総督府編(1929)、『朝鮮総督府施政年報 昭和二年』、朝鮮総督府
	1166	朝鮮総督府編(1929)、『朝鮮の市場経済』、朝鮮総督府
	1167	朝鮮総督府編(1929)、『昭和二年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1168	朝鮮総督府編(1929)、『昭和四年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	1169	朝鮮総督府編(1929)、『朝鮮の産業』、朝鮮総督府
	1170	朝鮮総督府殖産局編(1929)、『朝鮮の水産業』、朝鮮総督府殖産局
	1171	朝鮮総督府殖産局編(1929)、『昭和二年 水産製品検査成績要覧』、朝鮮総督府殖産局
	1172	朝鮮総督府編(1929)、『朝鮮総督府 調査資料 第二十七輯 朝鮮の市場経済』、朝鮮総督府
	1173	善生永助(1929)、『生活状態調査 其ノ2 濟州島』、朝鮮総督府
	1174	朝鮮総督府水産試験場編(1929)、『漁船調査報告 第三冊』、朝鮮総督府水産試験場
	1175	朝鮮総督府水産試験場編(1929)、『水産試験場事業成績 昭和二年』、朝鮮総督府水産試験場
	1176	朝鮮総督府水産試験場編(1929)、『朝鮮近海海洋図 昭和四年』、朝鮮総督府水産試験場
	1177	朝鮮総督府水産試験場編(1929)、『水産ニ関スル試験調査項目総覧』、朝鮮総督府
	1178	朝鮮総督府編(1929)、『新興の朝鮮』、朝鮮総督府
	1179	咸鏡南道(?) (1929)、『昭和三年九月編 水産要覧』、咸鏡南道
1180	全羅北道編(1929)、『昭和四年八月編纂 全羅北道要覧』、全羅北道	

1929年	1181	工業界社編(1929)、『朝鮮之金属商工録』、工業界社
	1182	萩森 茂(1929)、『京城と仁川』、大陸情報社
	1183	日本統計普及会編(1929)、『時事統計図集 第二巻 第九輯 殖民地事情上』、日本統計普及会
	1184	水産試験場編(1929)、『水産ニ関スル試験調査項目総覧 昭和四年九月調』、農林省水産試験場
	1185	農林大臣官房統計課編(1929)、『昭和三年 第五次農林省統計表』、東京統計協会
	1186	長崎県水産試験場編(1929)、『昭和三年度 長崎県水産試験場事業報告』、長崎県水産試験場
	1187	今村武志(1929)、「新漁業令の發布に就て ☆」、『朝鮮』166、昭和4年3月号、朝鮮総督府 ☆末尾に「朝鮮漁業令」、政令第1号(1929年1月26日)を掲載
	1188	今村武志(1929)、「水産製品検査規則の改正に就て」、『朝鮮』169、昭和4年6月号、朝鮮総督府
	1189	河野宗一(1929)、「水産業と水産科につきて」、『朝鮮の教育研究』第2巻第7号、朝鮮初等教育研究会
	1190	三須英雄(1929)、「朝鮮に於ける水産物の農業的利用法の現在」、『土壤肥料學雜誌』第3巻2号、土壤肥料学会
	1191	筆者不明(1929)、「朝鮮漁業令」、『水産界』556、大日本水産会
	1192	野口莊次(1929)、「朝鮮の鹽業並に鹽政に対する私見」、『水産界』565、大日本水産会
1930年	1193	朝鮮総督府編(1930)、『朝鮮総督府統計年報 昭和三年』、朝鮮総督府
	1194	朝鮮総督府編(1930)、『朝鮮総督府施政年報 昭和三年』、朝鮮総督府
	1195	朝鮮総督府編(1930)、『昭和三年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1196	朝鮮総督府編(1930)、『昭和五年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	1197	朝鮮総督府殖産局編(1930)、『朝鮮の水産業 昭和五年』、朝鮮総督府殖産局
	1198	朝鮮総督府殖産局編(1930)、『昭和三年 水産製品検査成績要覧』、朝鮮総督府殖産局
	1199	朝鮮総督府水産試験場編(1930)、『朝鮮近海海洋図 昭和五年』、朝鮮総督府水産試験場
	1200	平安南道編(1930)、『昭和五年 平安南道要覧』、平安南道
	1201	慶尚南道水産試験場編(1930)、『水産試験報告 昭和四年度』、慶尚南道水産試験場
	1202	農林大臣官房統計課編(1930)、『昭和四年 第六次農林省統計表』、東京統計協会
	1203	愛知県水産試験場編(1930)、『愛知県水産試験場業務概報』、愛知県
	1204	木浦府編(1930)、『木浦府史』、木浦府
	1205	内外經濟調査會編(1930)、『拓殖總覽 統計圖表』、内外經濟調査会
	1206	仲摩熙久編(1930)、『日本地理風俗大系 第16巻 朝鮮』、新光社
	1207	仲摩熙久編(1930)、『日本地理風俗大系 第17巻 朝鮮』、新光社
	1208	山本三生編(1930)、『日本地理大系 第12巻 朝鮮』、改造社
	1209	松村松盛(1930)、「新漁業令附属法規の發布に就て」、『朝鮮』177、昭和5年2月号、朝鮮総督府
	1210	筆者不明(1930)、「朝鮮産海苔奨励」、『朝鮮』178、昭和5年3月号、朝鮮総督府
	1211	西岡芳次郎(1930)、「朝鮮水産行政の一斑 ☆」、『朝鮮』183、昭和5年8月号、朝鮮総督府 ☆後にNo.1281に収める。

1930年	1212	松野二平(1930)、「半島水産業の概勢 ☆」、『朝鮮』183、昭和5年8月号、朝鮮総督府 ☆後にNo.1281に収める。
	1213	秋山実(1930)、「朝鮮漁業界の近勢 ☆」、『朝鮮』183、昭和5年8月号、朝鮮総督府 ☆後にNo.1281に収める。
	1214	内田鯤五郎(1930)、「朝鮮の農業及び水産業と無煙炭」、『朝鮮』183、昭和5年8月号、朝鮮総督府
	1215	鄭文基(1930)、「朝鮮の水産養殖業」、『朝鮮』183、昭和5年8月号、朝鮮総督府
	1216	筆者不明(1930)、「道水産の概況 忠清南道、黄海道、全羅北道、平安南道、咸鏡北道」、『朝鮮』183、昭和5年8月号、朝鮮総督府
	1217	林省三(1930)、「覚め行く安眠島」、『朝鮮』183、昭和5年8月号、朝鮮総督府
	1218	松村松盛(1930)、「朝鮮水産物缶詰製造営業取締規則の発布に就て」、『朝鮮』185、昭和5年10月号、朝鮮総督府
	1219	松村松盛(1930)、「新漁業令附属法規の発布に就て」、『朝鮮地方行政』9—1、朝鮮地方行政学会
	1220	朝鮮総督府水産課(1930)、「朝鮮の水産界」、『朝鮮及満洲』274、朝鮮及満洲社
	1221	下村正夫(1930)、「満州水産業界の将来」、『朝鮮研究』3-7、朝鮮研究社
	1222	中谷熊楠(1930)、「水産業の開発に関する行政上の希望 日頃考えている一端を陳べよう」、『水産界』566、大日本水産会
	1931年	1223
1224		朝鮮総督府編(1931)、『朝鮮総督府施政年報 昭和四年』、朝鮮総督府
1225		朝鮮総督府殖産局編(1931)、『水産製品検査成績要覧 昭和五年』、朝鮮総督府殖産局
1226		朝鮮総督府編(1931)、『昭和四年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
1227		朝鮮総督府編(1931)、『昭和六年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
1228		朝鮮総督府編(1931)、『朝鮮の経済事情』、朝鮮総督府
1229		朝鮮総督府編(1931)、『朝鮮の産業』、朝鮮総督府
1230		朝鮮総督府殖産局編(1931)、『朝鮮の水産業 昭和六年』、朝鮮総督府殖産局
1231		朝鮮総督府殖産局編(1931)、『昭和四年 水産製品検査成績要覧』、朝鮮総督府殖産局
1232		朝鮮総督府水産試験場編(1931)、『朝鮮近海海洋図 昭和六年』、朝鮮総督府水産試験場
1233		慶尚南道水産試験場編(1931)、『水産試験報告 昭和五年度』、慶尚南道水産試験場
1234		朝鮮総督府殖産局水産課編(1931)、『朝鮮水産例規集』、朝鮮水産会(京城)
1235		江原道編(1931)、『江原道水産統計 昭和五年』、江原道
1236		京城商工会議所編(1931)、『昭和六年一月一日現在 朝鮮会社表』、京城商工会議所
1237		全羅北道編(1931)、『昭和六年八月編纂 全羅北道要覧』、全羅北道
1238		拓務大臣官房文書課編(1931)、『朝鮮、台湾、樺太、関東州及南洋群島ニ行ハルル法律調 昭和六年十一月十日現在調』、拓務大臣官房文書課
1239		拓務大臣官房文書課編(1931)、『拓務要覧 昭和五年版』、拓務大臣官房文書課
1240		広島県水産試験場編(1931)、『広島県水産試験場報告 第六巻』、広島県水産試験場

1931年	1241	愛知県水産試験場編(1931)、『昭和五年度 愛知県水産試験場業務概報』、愛知県
	1242	山本熊太郎(1931)、『概観日本地誌 下』、古今書院
	1243	西田敬三(1931)、「朝鮮近海の海潮流と漁業 ☆」、『朝鮮』193、昭和6年6月号、朝鮮総督府 ☆後にNo.1281に収める。
	1244	筆者不明(1931)、「水産製品の検査規則改正」、『朝鮮』194、昭和6年7月号、朝鮮総督府
	1245	筆者不明(1931)、「水産から眺めた半島の各道」、『朝鮮研究』第4巻第5号、朝鮮研究社
	1246	筆者不明(1931)、「水産無電協会通常総会」、『水産界』584、大日本水産会
1932年	1247	朝鮮総督府編(1932)、『朝鮮総督府統計年報 昭和五年』、朝鮮総督府
	1248	朝鮮総督府編(1932)、『昭和五年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1249	朝鮮総督府編(1932)、『昭和七年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	1250	朝鮮総督府編(1932)、『昭和七年六月末現在 朝鮮総督府及所属官署主要刊行図書目録』、朝鮮総督府
	1251	朝鮮総督府水産試験場編(1932)、『水産試験場事業報告 昭和五年』、朝鮮総督府水産試験場
	1252	朝鮮総督府水産試験場編(1932)、『朝鮮近海海洋図 昭和七年』、朝鮮総督府水産試験場
	1253	慶尚南道水産試験場編(1932)、『水産試験報告 昭和六年度』、慶尚南道水産試験場
	1254	平安北道編(1932)、『平安北道統計年報 昭和五年』、平安北道
	1255	慶尚北道編(1932)、『慶北の商工水産』、慶尚北道
	1256	慶尚南道編(1932)、『慶尚南道統計年報 昭和五年』、慶尚南道
	1257	農林大臣官房統計課編(1932)、『昭和六年 第八次農林省統計表』、東京統計協会
	1258	農林大臣官房統計課編(1932)、『昭和五年 第七次農林省統計表』、東京統計協会
	1259	農林省水産局編(1932)、『冷凍資料 第六輯』、農林省水産局
	1260	拓務大臣官房文書課編(1932)、『拓務要覧 昭和六年版』、拓務大臣官房文書課
	1261	佐賀県編(1932)、『水産要覧』、佐賀県内務部
	1262	鳥取県水産試験場編(1932)、『鳥取県水産試験場事業報告 昭和五年度』、鳥取県水産試験場
	1263	全羅北道編(1932)、『昭和七年八月編纂 全羅北道要覧』、全羅北道
	1264	慶尚南道編(1932)、『慶南の水産』、慶尚南道(釜山)
	1265	岩倉守男(1932)、『朝鮮水産業の現況と将来』、民衆時論社出版部
	1266	小林房太郎(1932)、『大日本地理精義 下』、南光社
	1267	下 啓助(1932)、『明治大正水産回顧録』、水産新聞社(東京)
	1268	加藤眞孝(1932)、『朝鮮漁業制度要論』、朝鮮水産会
1269	善生永助(1932)、「朝鮮の漁村部落」、『朝鮮』205、昭和7年6月号、朝鮮総督府	
1270	碓井忠平(1932)、「朝鮮の塩業」、『朝鮮』209、昭和7年10月号、朝鮮総督府	
1271	天野壽之助(1932)、「水産教育」、『朝鮮の教育研究』第5巻第10号、朝鮮初等教育研究会	
1272	兵頭 儁(1932)、「北鮮の鯛水産業」、『朝鮮鉄道協会会誌』第11巻11号、朝鮮鉄道協会	

1932年	1273	高山伊太郎(1932)、「日本海の開發」、『水産界』595、大日本水産会
	1274	筆者不明(1932)、「全国水産主任官會議概要(一)」、『水産界』597、大日本水産会
	1275	筆者不明(1932)、「全国水産主任官會議概要(二)」、『水産界』598、大日本水産会
1933年	1276	朝鮮総督府編(1933)、『朝鮮総督府統計年報 昭和六年』、朝鮮総督府
	1277	朝鮮総督府編(1933)、『朝鮮総督府施政年報 昭和五年』、朝鮮総督府
	1278	朝鮮総督府編(1933)、『昭和六年 朝鮮統計要覧』、朝鮮総督府
	1279	朝鮮総督府編(1933)、『昭和六年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1280	朝鮮総督府編(1933)、『昭和八年 朝鮮要覧』、朝鮮総督府
	1281	朝鮮総督府編(1933)、『朝鮮総攬 ☆』、朝鮮総督府 ☆No.1211、1212、1213、1243 参照
	1282	朝鮮総督府編(1933)、『朝鮮の産業』、朝鮮総督府
	1283	朝鮮総督府編(1933)、『朝鮮の経済事情』、朝鮮総督府
	1284	朝鮮総督府殖産局編(1933)、『朝鮮の水産業 昭和七年』、朝鮮総督府殖産局
	1285	朝鮮総督府水産試験場編(1933)、『水産試験場事業報告 昭和六年』、朝鮮総督府水産試験場
	1286	朝鮮総督府水産試験場編(1933)、『朝鮮近海海洋図 昭和八年』、朝鮮総督府水産試験場
	1287	朝鮮総督府編(1933)、『朝鮮の聚落 前編』、朝鮮総督府
	1288	慶尚南道編(1933)、『慶尚南道統計年報 昭和六年』、慶尚南道
	1289	平安北道編(1933)、『平安北道統計年報 昭和七年』、平安北道
	1290	全羅北道編(1933)、『昭和八年八月編纂 全羅北道要覧』、全羅北道
	1291	全羅南道編(1932)、『全南の水産』、全羅南道
	1292	仁川府編(1933)、『仁川府史』、仁川府
	1293	岩谷 斌他(1933)、『朝鮮慶尚南北両道各種漁業調査報告』、水産講習所
	1294	農林省水産局編(1933)、『冷凍資料 第七輯』、農林省水産局
	1295	農林大臣官房統計課編(1933)、『昭和六年 第八次農林省統計表』、東京統計協会
	1296	拓務大臣官房文書課編(1933)、『昭和七年版 拓務要覧』、拓務大臣官房文書課
	1297	農林大臣官房統計課編(1933)、『昭和七年 第九次農林省統計表』、東京統計協会
	1298	商工省貿易局編(1933)、『昭和七年 本邦外国貿易状況』、内外調査資料協会
	1299	文部省実業学務局編(1933)、『昭和八年四月現在 実業学校一覧』、文部省実業学務局
	1300	広島県内務部商工水産課編(1933)、『広島県商工水産要覧』、広島県内務部商工水産課
	1301	鎌田沢一郎(1933)、『朝鮮は起ち上る』、千倉書房
	1302	モータシツプ雑誌社編(1933)、『漁船建造必携 昭和八年版』、モータシツプ雑誌社
	1303	藤本政男(1933)、「鎮海養漁場の淡水養殖施設」、『朝鮮』218、昭和8年7月号、朝鮮総督府
	1304	田口禎熹(1933)、「済州島の海女」、『朝鮮』218、昭和8年7月号、朝鮮総督府
	1305	北野退蔵(1933)、「朝鮮に於ける潜水器漁業」、『朝鮮』218、昭和8年7月号、朝鮮総督府

1933年	1306	筆者不明(1933)、「全南の海苔豊産」、『朝鮮』218、昭和8年7月号、朝鮮総督府
	1307	筆者不明(1933)、「水産夏季大学と朝鮮水産大会」、『朝鮮』219、昭和8年8月号、朝鮮総督府
	1308	上田常一(1933)、「新浦の明太魚」、『文教の朝鮮』89、朝鮮教育会
	1309	筆者不明(1933)、「朝鮮咸鏡道水産団体状況」、『水産』21-11、水産社
	1310	筆者不明(1933)、「全国水産主任官会議概要」、『水産界』613、大日本水産会
1934年	1311	朝鮮総督府編(1934)、『朝鮮総督府統計年報 昭和七年』、朝鮮総督府
	1312	朝鮮総督府編(1934)、『朝鮮総督府施政年報 昭和六年・昭和七年』、朝鮮総督府
	1313	朝鮮総督府編(1934)、『昭和七年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1314	朝鮮総督府編(1934)、『朝鮮の産業』、朝鮮総督府
	1315	朝鮮総督府編(1934)、『朝鮮の経済事情』、朝鮮総督府
	1316	朝鮮総督府殖産局水産課編(1934)、『朝鮮水産例規集』、帝国地方行政学会朝鮮本部(京城)
	1317	朝鮮総督府水産試験場編(1934)、『朝鮮近海海洋図 昭和九年』、朝鮮総督府水産
	1318	咸鏡北道編(1934)、『咸鏡北道水産統計 昭和九年』、咸鏡北道
	1319	平安北道編(1934)、『平安北道統計年報 昭和八年』、平安北道
	1320	全羅北道編(1934)、『昭和九年八月編纂 全羅北道要覧』、全羅北道
	1321	農林大臣官房統計課編(1934)、『昭和八年 第十次農林省統計表』、東京統計協会
	1322	農林大臣官房統計課(1934)、『農・林・水産統計摘要』、東京統計協会
	1323	拓務大臣官房文書課編(1934)、『外地ニ行ハルル法律調 昭和九年一月一日現在』、拓務大臣官房文書課
	1324	帝国地方行政学会編(1934)、『現行朝鮮法規輯覧 第一巻』、帝国地方行政学会
	1325	帝国地方行政学会編(1934)、『現行朝鮮法規輯覧 第五巻』、帝国地方行政学会
	1326	文部省実業学務局編(1934)、『昭和九年四月現在 実業学校一覧』、文部省実業学務局
	1327	広島県水産試験場編(1934)、『広島県水産試験場報告 第十一巻』、広島県水産試験場
	1328	三浦悦郎(1934)、『生气躍動する産業朝鮮』、日本評論社(東京)
	1329	山本三生編(1934)、『地理講座 日本篇 朝鮮・関東州』、改造社(東京)
	1330	穂積眞六郎(1934)、「機船巾着網漁業の処分に就て」、『朝鮮』231、昭和9年8月号、朝鮮総督府
	1331	田保橋 潔(1934)、「ロシア沿海州漁業権の史的考察」、『朝鮮』232、昭和9年9月号、朝鮮総督府
	1332	穂積眞六郎(1934)、「水産に関する諸会合」、『朝鮮』233、昭和9年10月号、朝鮮総督府
	1333	枅田一二(1934)、「済州島海女の地誌学的研究」、大塚地理学会編『大塚地理学会論文集 第二輯 (下)』、古今書院(東京)
1935年	1334	朝鮮総督府編(1935)、『朝鮮総督府統計年報 昭和八年』、朝鮮総督府
	1335	朝鮮総督府編(1935)、『朝鮮総督府施政年報 昭和八年』、朝鮮総督府
	1336	朝鮮総督府編(1935)、『昭和八年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1337	朝鮮総督府(1935)、『施政二十五年史』、朝鮮総督府(京城)

1935年	1338	朝鮮総督府編(1935)、『朝鮮事情 昭和十年版』、朝鮮総督府
	1339	朝鮮総督府編(1935)、『朝鮮現勢便覧 昭和十年版』、朝鮮総督府
	1340	朝鮮総督府編(1935)、『朝鮮の産業』、朝鮮総督府
	1341	朝鮮総督府商工奨励館編(1935)、『朝鮮の物産』、朝鮮総督府
	1342	朝鮮総督府殖産局編(1935)、『朝鮮の水産業 昭和九年』、朝鮮総督府殖産局
	1343	朝鮮総督府水産試験場編(1935)、『朝鮮総督府水産試験場要覧 昭和十年』、朝鮮総督府水産試験場
	1344	朝鮮総督府水産試験場編(1935)、『朝鮮近海海洋図 昭和十年』、朝鮮総督府水産試験場
	1345	朝鮮総督府水産試験場(1935)、『朝鮮近海の地形海況と水産生物概観』(パンフレット 1)、朝鮮総督府水産試験場
	1346	朝鮮総督府水産試験場(1935)、『朝鮮のメンタイ漁業に就て』(パンフレット 2)、朝鮮総督府水産試験場
	1347	朝鮮総督府水産試験場(1935)、『朝鮮産マイワシの特性(特に缶詰原料として)に就て』(パンフレット 3)、朝鮮総督府水産試験場
	1348	朝鮮総督府水産試験場(1935)、『朝鮮産マイワシを原料とする「フィッシュミール」の性状に就て』(パンフレット 4)、朝鮮総督府水産試験場
	1349	朝鮮総督府商工奨励館編(1935)、『朝鮮商品取引便覧』、朝鮮総督府商工奨励館
	1350	慶尚北道編(1935)、『慶北の商工水産』、慶尚北道
	1351	全羅南道水産会(加藤眞徳)編(1935)、『全南の産業 水産』、全羅南道水産会(光州)
	1352	群山府編(1935)、『群山府史』、群山府
	1353	農林大臣官房統計課編(1935)、『昭和九年 第十一次農林省統計表』、東京統計協会
	1354	農林省水産局編(1935)、『輸出水産物ノ輸出入並生産統計』、農業と水産社
	1355	農林省水産局編(1935)、『世界水産統計』、大日本水産会
	1356	農林省水産局編(1935)、『水産調査資料 第四輯』、農業と水産社
	1357	農林大臣官房統計課編(1935)、『昭和九年 第十一次農林省統計表』、東京統計協会
	1358	農林大臣官房統計課編(1935)、『昭和九年 第十一次農林省統計表 水産業編』、東京統計協会
	1359	拓務大臣官房文書課編(1935)、『昭和九年版 拓務要覧』、拓務大臣官房文書課
	1360	文部省実業学務局編(1935)、『昭和十年四月現在 実業学校一覧』、文部省実業学務局
	1361	市立下関商業学校編(1935)、『関門地方経済調査 第九輯 下関産業誌』、市立下関商業学校
	1362	橋本文吉編(1935)、『朝鮮を語る』、実業之日本社(東京)
	1363	阿部 薫編(1935)、『朝鮮功勞者銘鑑』、民衆時論社・朝鮮功勞者銘鑑刊行会
	1364	筆者不明(1935)、「昭和八年の漁獲高」、『朝鮮』237、昭和10年2月号、朝鮮総督府
	1365	西本計三(1935)、「朝鮮水産業の将来」、『東洋』38-2、東洋協会
1366	江口早苗(1935)、「漁村更生への中心人物養成」、『文教の朝鮮』116、朝鮮教育会	
1367	朝鮮総督府殖産局水産課(1935)、「朝鮮の水産事情」、『水産公論』23-1、新水産社 ☆22-2(1934)以降、誌名を『水産』から『水産公論』に、出版元を「水産社」から「新水産社」にそれぞれ変更。	

1935年	1368	内田恵太郎(1935)、「水産物概観」、『水産公論』23-1、新水産社
	1369	田口新治(1935)、「朝鮮に於ける鱈油肥統制の沿革と現状」、『水産公論』23-1、新水産社
	1370	朝鮮総督府殖産局水産課(1935)、「朝鮮の水産事情(二)」、『水産公論』23-2、新水産社
	1371	田口新治(1935)、「朝鮮に於ける鱈油肥統制の沿革と現状(二)」、『水産公論』23-2、新水産社
	1372	田口新治(1935)、「北鮮の鱈産業を觀る」、『水産公論』23-11、新水産社
	1373	一戸正武(1935)、「朝鮮の海岸と冷凍事情」、『水産公論』23-11、新水産社
	1374	筆者不明(1935)、「咸鏡北道水産會議員決定」、『水産界』630、大日本水産会
	1375	筆者不明(1935)、「朝鮮に於ける水産振興會」、『水産界』633、大日本水産会
1936年	1376	朝鮮総督府編(1936)、『朝鮮総督府統計年報 昭和九年』、朝鮮総督府
	1377	朝鮮総督府編(1936)、『朝鮮総督府施政年報 昭和九年』、朝鮮総督府
	1378	朝鮮総督府編(1936)、『昭和九年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1379	朝鮮総督府編(1936)、『朝鮮事情』、朝鮮総督府
	1380	朝鮮総督府編(1936)、『朝鮮現勢便覧 昭和十一年版』、朝鮮総督府
	1381	朝鮮総督府編(1936)、『朝鮮の經濟事情』、朝鮮総督府
	1382	朝鮮総督府編(1936)、『朝鮮の産業經濟事情』、朝鮮総督府
	1383	朝鮮総督府編(1936)、『朝鮮産業經濟調査会諮問答申書』、朝鮮総督府
	1384	朝鮮総督府殖産局編(1936)、『朝鮮の水産業 昭和十年』、朝鮮総督府殖産局
	1385	朝鮮総督府水産試験場編(1936)、『朝鮮総督府水産試験場要覧 昭和十一年』、朝鮮総督府水産試験場
	1386	朝鮮総督府水産試験場編(1936)、『水産試験場事業報告 昭和七年』、朝鮮総督府水産試験場
	1387	朝鮮総督府水産試験場(1936)、『朝鮮の水産と水産教育』(パンフレット 5)、朝鮮総督府水産試験場
	1388	朝鮮総督府水産試験場編(1936)、『朝鮮沿岸のニシンの生態及蕃殖保護に就て』(パンフレット 6)、朝鮮総督府水産試験場
	1389	朝鮮総督府水産試験場(1936)、『朝鮮のメンタイ漁業に就て 増補版』、朝鮮総督府水産試験場
	1390	朝鮮総督府専売局編(1936)、『朝鮮の塩業 昭和十年度』、朝鮮総督府専売局
	1391	咸鏡南道水産会編(1936)、『咸南の水産』、咸鏡南道水産会
	1392	朝鮮殖産助成財団編(1936)、『朝鮮の鱈』、朝鮮殖産助成財団
	1393	農林大臣官房統計課編(1936)、『ポケット農林統計 昭和十二年版』、農林大臣官房統計課
	1394	農林大臣官房統計課編(1936)、『昭和十年 第十二次農林省統計表』、東京統計協会
	1395	拓務大臣官房文書課編(1936)、『昭和十年版 拓務要覧』、拓務大臣官房文書課
	1396	拓務大臣官房文書課編(1936)、『拓務統計便覧 昭和十年版』、拓務大臣官房文書課
	1397	文部省実業学務局編(1936)、『昭和十一年四月現在 実業学校一覽』、文部省実業学務局
	1398	文部省実業学務局編(1936)、『実業教育五十年史 続篇』、実業教育五十周年記念会
	1399	京城日報社編(1936)、『25年！ 朝鮮は何を得たか？』、京城日報社
1400	清水淳三(1936)、『鱈事業に関する朝鮮出張報告』、発行元不明	

1936年	1401	水産新報社編(1936)、『日本水産現勢(上)』、水産新報社
	1402	西田敬三(1936)、「朝鮮の水産資源に就て」、『朝鮮』248、昭和11年1月号、朝鮮総督府
	1403	崔萬熙(1936)、「朝鮮の水産業と其の金融状況(一)」、『金融組合』88、朝鮮金融組合聯合会
	1404	崔萬熙(1936)、「朝鮮の水産業と其の金融状況(二)」、『金融組合』89、朝鮮金融組合聯合会
	1405	山浦友吉(1936)、「朝鮮漁業組合会計の特殊問題(一)」、『金融組合』89、朝鮮金融組合聯合会
	1406	山浦友吉(1936)、「朝鮮漁業組合会計の特殊問題(二)」、『金融組合』90、朝鮮金融組合聯合会
	1407	上田常一(1936)、「朝鮮で獲れる鯨に就いて」、『文教の朝鮮』126、朝鮮教育会
	1408	柳澤藤策(1936)、「郷土漁村に立てる水産教育」、『文教の朝鮮』133、朝鮮教育会
	1409	田口新治(1936)、「北鮮の鱈産業を觀る」、『水産公論』24-11、新水産社
	1410	溪流生(1936)、「内地油肥生産者の朝鮮に学ぶべき諸点」、『水産公論』24-11、新水産社
	1411	一記者(1936)、「朝鮮の水産缶詰と朝鮮缶詰業水産組合」、『水産公論』24-11、新水産社
	1412	筆者不明(1936)、「朝鮮水産製品検査所新設と決定」、『水産界』648、大日本水産会
1937年	1413	朝鮮総督府編(1937)、『朝鮮総督府統計年報 昭和十年』、朝鮮総督府
	1414	朝鮮総督府編(1937)、『朝鮮総督府施政年報 昭和十年』、朝鮮総督府
	1415	朝鮮総督府編(1937)、『朝鮮総督府施政年報 昭和十一年』、朝鮮総督府
	1416	朝鮮総督府編(1937)、『朝鮮総督府施政年報 昭和十一年度』、朝鮮総督府
	1417	朝鮮総督府編(1937)、『昭和十年 朝鮮総督府統計要覧』、朝鮮総督府
	1418	朝鮮総督府編(1937)、『昭和十年 朝鮮統計要覧』、朝鮮総督府
	1419	朝鮮総督府編(1937)、『朝鮮事情』、朝鮮総督府
	1420	朝鮮総督府編(1937)、『昭和十一年六月末現在 朝鮮総督府及所属官署主要刊行図書目録』、朝鮮総督府
	1421	朝鮮総督府殖産局編(1937)、『朝鮮の水産業 昭和十一年』、朝鮮総督府殖産局
	1422	朝鮮総督府水産試験場編(1937)、『朝鮮総督府水産試験場要覧 昭和十二年』、朝鮮総督府水産試験場
	1423	朝鮮総督府水産試験場編(1937)、『水産試験場年報 第八卷第一冊 昭和八年度事業報告並附録・漁撈並漁船』、朝鮮総督府水産試験場(釜山)
	1424	朝鮮総督府水産試験場編(1937)、『水産試験場年報 第八卷第二冊 昭和八年度事業報告・処理加工並生物生理』、朝鮮総督府水産試験場
	1425	朝鮮総督府水産試験場編(1937)、『水産試験場年報 第八卷第三冊 昭和八年度事業報告・養殖並生物調査』、朝鮮総督府水産試験場
	1426	朝鮮総督府編(1937)、『昭和十年 朝鮮水産統計』、朝鮮総督府
	1427	朝鮮総督府水産試験場編(1937)、『水産試験場要覧 昭和十二年』、朝鮮総督府水産試験場
	1428	朝鮮総督府専売局編(1937)、『朝鮮の塩業 昭和十二年度』、朝鮮総督府専売局
	1429	朝鮮総督府水産試験場編(1937)、『朝鮮近海海洋図 昭和十二年』、朝鮮総督府水産試験場

1937年	1430	朝鮮銀行調査課編(1937)、『調査報告 第十八號 朝鮮對滿洲貿易の推移と其の將來』、朝鮮銀行調査課	
	1431	朝鮮總督府編(1937)、『第七十回帝國議會用 昭和十二年度朝鮮總督府參考書』、朝鮮總督府	
	1432	平安北道編(1937)、『平安北道統計年報 昭和十年』、平安北道	
	1433	黃海道教育會(1937)、『黃海道郷土誌』、帝國地方行政學會朝鮮本部(京城)	
	1434	慶尙北道編(1937)、『朝鮮の商工水産』、慶尙北道	
	1435	全羅北道編(1937)、『昭和十二年八月編纂 全羅北道要覽』、全羅北道	
	1436	拓務省大臣官房文書課編(1937)、『昭和十一年版 拓務要覽、拓務省大臣官房文書課』	
	1437	拓務大臣官房文書課編(1937)、『外地ニ行ハルル法律調 昭和十二年三月末現在』、拓務大臣官房文書課	
	1438	文部省実業学務局編(1937)、『昭和十二年四月現在 実業学校一覽』、文部省実業学務局	
	1439	下関商工会議所調査課編(1937)、『下関經濟事情』、下関商工会議所	
	1440	朝鮮潜水器漁業水産組合編(1937)、『朝鮮潜水器漁業沿革史』、朝鮮潜水器漁業水産組合(京城)	
	1441	大島幸吉(1937)、『朝鮮の鱈漁業と其加工業』、新水産社出版部	
	1442	田口新治編(1937)、『日本水産年報(第一輯) 躍進水産業の全展望』、水産社(東京)	
	1443	京城商工会議所編(1937)、『朝鮮会社表』、京城商工会議所	
	1444	本誌記者(1937)、「咸北の水産と鱈」、『朝鮮及滿洲』361、朝鮮及滿洲社	
	1445	筆者不明(1937)、「咸北鱈漁業に関する調査」、『清津經濟月報』23、清津商工会議所	
	1446	山田鉄雄(1937)、「朝鮮東岸に於けるホタルイカの産卵に関する一考察」、『日本水産学会誌』6-2、日本水産学会	
	1447	豊田正謙(1937)、「朝鮮に於ける鯖巾着網漁業」、『楽水』32-6、楽水会	
	1448	豊田正謙(1937)、「朝鮮に於ける鯖巾着網漁業(二)」、『楽水』32-11、楽水会	
	1449	表 一二(1937)、「朝鮮漁業の将来性に就て」、『水産学雑誌』41、北水会	
	1450	片山房吉(1937)、『大日本水産史』、農業と水産社(東京)	
	1451	筆者不明(1937)、「朝鮮に漁民訓練所開設」、『水産界』655、大日本水産会	
	1452	清水淳三(1937)、「昭和十二年水産業回顧 4. フィッシュミール事業」、『水産界』661、大日本水産会	
	1453	筆者不明(1937)、「朝鮮の漁業経営費軽減補助規則」、『水産界』661、大日本水産会	
	1938年	1454	朝鮮總督府編(1938)、『朝鮮總督府統計年報 昭和十一年』、朝鮮總督府
		1455	朝鮮總督府編(1938)、『昭和十一年 朝鮮總督府統計要覽』、朝鮮總督府
1456		朝鮮總督府編(1938)、『朝鮮の經濟事情』、朝鮮總督府	
1457		朝鮮總督府編(1938)、『朝鮮事情 昭和十四年版』、朝鮮總督府	
1458		朝鮮總督府殖産局編(1938)、『朝鮮の水産業 昭和十二年』、朝鮮總督府殖産局	
1459		朝鮮總督府編(1938)、『昭和十一年 朝鮮水産統計』、朝鮮總督府	
1460		朝鮮總督府水産試験場(1938)、『朝鮮の水産資源に就て』、朝鮮總督府水産試験場	
1461		朝鮮總督府水産試験場編(1938)、『海洋調査要報 第八号』、朝鮮總督府水産試験場	

1938年	1462	朝鮮總督府水産試験場編(1938)、『朝鮮近海海洋図 昭和十三年』、朝鮮總督府水産試験場
	1463	朝鮮總督府水産試験場編(1938)、『水産試験場事業報告 昭和九年』、朝鮮總督府水産試験場
	1464	朝鮮總督府水産試験場編(1938)、『水産試験場年報 第九卷第一冊 昭和九年度事業報告・漁撈並漁船』、朝鮮總督府水産試験場(釜山)
	1465	朝鮮總督府時局対策調査会編(1938)、『朝鮮總督府時局対策調査会諮問案参考書』、朝鮮總督府
	1466	時局研究会編(1938)、『朝鮮産業の動向と資源』、時局研究会
	1467	朝鮮總督府編(1938)、『昭和十三年六月末現在 朝鮮總督府及所属官署主要刊行図書目録』、朝鮮總督府
	1468	咸鏡南道編(1938)、『咸鏡南道水産統計 昭和十二年』、咸鏡南道
	1469	咸鏡北道編(1938)、『職員録 昭和十二年七月一日現在～昭和十三年九月一日現在』、咸鏡北道
	1470	農林大臣官房統計課編(1938)、『ポケット農林統計 昭和十三年版』、農林大臣官房統計課
	1471	農林大臣官房統計課編(1938)、『昭和十一年 第十三次農林省統計表』、東京統計協会
	1472	拓務大臣官房文書課編(1938)、『昭和十二年版 拓務要覧』、務省大臣官房文書課
	1473	拓務大臣官房文書課編(1938)、『拓務省図書総目録 和漢書ノ部 昭和十二年十二月末現在』、拓務大臣官房文書課
	1474	朝鮮殖産銀行編(1938)、『朝鮮殖産銀行二十年志』、朝鮮殖産銀行
	1475	田口新治編(1938)、『日本水産年報(第二輯) 戦時体制下の水産業』、水産社(東京)
	1476	日本フィッシュミール水産組合編(1938)、『各国に於ける魚粉魚粕に関する統計』、日本フィッシュミール水産組合
	1477	大島幸吉(1938)、『魚粉と魚粕』、丸善株式会社
	1478	梶川裕(1938)、「朝鮮水産の花形、躍進の鰯漁業」、『民衆時論』15-1、民衆時論社(広島)
	1479	梶川裕(1938)、「朝鮮の水産行政概観」、『朝鮮行政 ☆』2-1、帝国地方行政学会(東京) ☆No. 1053『朝鮮地方行政』の後継誌
	1480	鄭文基(1938)、「朝鮮北魚明太」、『朝鮮』273、昭和13年2月号、朝鮮總督府
	1481	筆者不明(1938)、「北鮮の水産業界」、『朝鮮及滿洲』373、朝鮮及滿洲社
	1482	筆者不明(1938)、「海の宝庫北鮮の水産資源鰯漁業の現況」、『朝鮮及滿洲』373、朝鮮及滿洲社
	1483	蜷川虎三(1938)、「朝鮮の水産業」、『經濟論叢』47-5、京都帝国大学經濟学会
	1484	宮城雄太郎(1938)、「鰯を中心に朝鮮の水産業を観る」、『水産公論』26-2、新水産社
	1485	齊藤陽二(1938)、「朝鮮鰯漁の将来」、『水産公論』26-10、新水産社
	1486	筆者不明(1938)、「朝鮮水産振興補助額」、『水産界』664、大日本水産会
	1487	筆者不明(1938)、「支那沿岸底曳網漁業現地側統制方針決定」、『水産界』667、大日本水産会
1939年	1488	朝鮮總督府編(1939)、『朝鮮總督府統計年報 昭和十二年』、朝鮮總督府
	1489	朝鮮總督府編(1939)、『朝鮮總督府施政年報 昭和十二年』、朝鮮總督府
	1490	朝鮮總督府編(1939)、『昭和十二年 朝鮮總督府統計要覧』、朝鮮總督府
	1491	朝鮮總督府編(1939)、『朝鮮事情』、朝鮮總督府

1939年	1492	朝鮮総督府殖産局編(1939)、『朝鮮の水産業 昭和十三年』、朝鮮総督府殖産局
	1493	朝鮮総督府編(1939)、『昭和十二年 朝鮮水産統計』、朝鮮総督府
	1494	朝鮮総督府水産試験場編(1939)、『朝鮮総督府水産試験場報告 第六卷 朝鮮魚類誌』、朝鮮総督府水産試験場
	1495	朝鮮総督府水産試験場編(1939)、『水産試験場年報 第九卷 第三冊 昭和九年度事業報告・養殖並生物調査』、朝鮮総督府水産試験場
	1496	朝鮮総督府学務局編(1939)、『朝鮮諸学校一覧 昭和十三年』、朝鮮総督府学務局
	1497	筆者不明(1939)、『水産統計 昭和十三年』、咸鏡南道・咸鏡南道漁業組合聯合会(咸興)
	1498	咸鏡南道編(1939)、『咸鏡南道水産統計 昭和十三年』、咸鏡南道
	1499	平安北道編(1939)、『平安北道水産統計 昭和十三年』、平安北道
	1500	慶尚北道・慶尚北道漁業組合聯合会編(1939)、『慶尚北道水産統計 昭和十三年』、慶尚北道漁業組合聯合会
	1501	慶尚南道水産試験場編(1939)、『水産試験報告 昭和十二年度』、慶尚南道水産試験場
	1502	農林大臣官房統計課編(1939)、『ポケット農林統計 昭和十四年版』、農林大臣官房統計課
	1503	拓務大臣官房文書課編(1939)、『昭和十三年版 拓務要覧』、拓務大臣官房文書課
	1504	全国経済調査機関聯合会朝鮮支部編(1939)、『朝鮮経済年報 昭和十四年版』、改造社
	1505	田口新治編(1939)、『日本水産年報(第三輯) 戦時水産統制の発展』、水産社
	1506	海洋漁業協会編(1939)、『本邦海洋漁業の現勢』、水産社
	1507	京城日報社編(1939)、『昭和十五年度 朝鮮年鑑』、京城日報社
	1508	吉田三芳・佐藤仙二(1939)、『咸北の水産』、北鮮日日新聞社(羅南)
	1509	高橋三七(1939)、『事業と郷人』、実業タイムズ社・大陸研究社(京城)
	1510	筆者不明(1939)、『昭和十四年版 鱈揚繰網漁業従事者便覧』、東海区揚繰網漁業水産組合(東京)
	1511	岡本正一編(1939)、『水産銘鑑』、水産通信社(東京)
	1512	李錫申(1939)、「乾明太魚肉の栄養価」、『朝鮮化学会会報』10-1、朝鮮化学会事務所(京城帝国大学医学部医化学教室内)
	1513	国司浩助(1939)、「朝鮮産業経済調査会列席の為め渡鮮せる私の朝鮮水産界瞥見記」、桑田透一編『国司浩助氏論叢』、丸善
	1514	青野寿郎(1939)、「朝鮮半島の水産業」、『地理』2-1、大塚地理学会
	1515	松野二平(1939)、「朝鮮鰯油肥事業統制に就て」、『朝鮮経済新報』15-7、昭和14年7月号、朝鮮経済新報社
	1516	神宮(1939)、「朝鮮水産業の概況と鰯油肥魚粉販売制度」、『殖銀調査月報』19、朝鮮殖産銀行調査部
	1517	本誌記者(1939)、「躍動する北鮮の水産界」、『朝鮮及満洲』384、朝鮮及満洲社
	1518	百瀬和夫(1939)、「咸北鰯漁業に就て」、『会心』222、昭和14年9月号、出版元不明
	1519	伊東静人(1939)、「平安北道の水産業に就て」、『会心』223、昭和14年10月号、出版元不明
1520	高橋勝一(1939)、「半島半漁家族に関する生活管見」、『金融組合』132、朝鮮金融組合	

1939年	1521	筆者不明(1939)、「朝鮮の水産事情」、『日本水産年報』3、昭和14年6月、水産社
1940年	1522	朝鮮総督府編(1940)、『朝鮮総督府統計年報 昭和十三年』、朝鮮総督府
	1523	朝鮮総督府編(1940)、『朝鮮総督府施政年報 昭和十三年』、朝鮮総督府
	1524	朝鮮総督府(1940)、『施政三十年史』、朝鮮総督府
	1525	朝鮮総督府編(1940)、『昭和十三年 朝鮮統計要覧』、朝鮮総督府
	1526	朝鮮総督府編(1940)、『朝鮮事情 昭和十六年版』、朝鮮総督府
	1527	朝鮮総督府殖産局編(1940)、『朝鮮の水産業 昭和十四年』、朝鮮総督府殖産局
	1528	朝鮮総督府編(1940)、『昭和十三年 朝鮮水産統計』、朝鮮総督府
	1529	朝鮮総督府総督官房文書課編(1940)、『水産王国朝鮮』、朝鮮総督府
	1530	朝鮮総督府水産試験場編(1940)、『昭和十二年 朝鮮近海の海況並漁況』、朝鮮総督府水産試験場
	1531	朝鮮総督府水産試験場編(1940)、『朝鮮東岸サバ漁業連絡試験成績』、朝鮮総督府水産試験場
	1532	朝鮮総督府水産試験場編(1940)、『朝鮮近海海洋図 昭和十四年』、朝鮮総督府水産試験場
	1533	朝鮮総督府水産試験場(1940)、『鴨緑江の魚』(パンフレット 7)、朝鮮総督府水産試験場
	1534	朝鮮総督府水産製品検査所編(1940)、『水産製品検査所事業成績報告 第一回 昭和十二年』、朝鮮総督府水産製品検査所
	1535	朝鮮総督府学務局編(1940)、『朝鮮諸学校一覧(昭和十四年五月末現在)』、朝鮮総督府学務局
	1536	朝鮮総督府編(1940)、『昭和十五年七月一日現在 朝鮮総督府及所属官署職員録』、朝鮮総督府
	1537	咸鏡南道編(1940)、『咸鏡南道水産統計 昭和十四年』、咸鏡南道
	1538	平安北道編(1940)、『平安北道水産統計 昭和十四年』、平安北道
	1539	慶尚北道・慶尚北道漁業組合聯合会編(1940)、『慶尚北道水産統計 昭和十四年』、慶尚北道漁業組合聯合会
	1540	慶尚南道水産試験場編(1940)、『水産試験報告 昭和十三年度』、慶尚南道水産試験場
	1541	釜山府編(1940)、『釜山の産業 昭和十五年』、釜山府
	1542	文部省実業学務局編(1940)、『昭和十五年四月現在 実業学校一覧』、文部省実業学務局
	1543	農林大臣官房統計課編(1940)、『ポケット農林統計 昭和十五年版』、農林大臣官房統計課
	1544	農林大臣官房統計課編(1940)、『ポケット農林統計 昭和十六年版』、農林大臣官房統計課
	1545	拓務大臣官房文書課編(1940)、『昭和十四年版 拓務要覧』、日本拓殖協会
	1546	全国経済調査機関聯合会朝鮮支部編(1940)、『朝鮮経済年報 昭和十五年版』、改造社
	1547	田口新治編(1940)、『日本水産年報(第四輯) 水産新秩序の諸問題』、水産社
1548	京城日報社編(1940)、『昭和十六年度 朝鮮年鑑』、京城日報社	
1549	松野二平(1940)、『朝鮮の鯛』、朝鮮鯛油肥製造業水産組合聯合会(京城)	
1550	中村元春編(1940)、『時局下に於ける本邦水産業に就て』、日本工業倶楽部(東京)	
1551	鳥山進(1940)、「済州島の現地調査」、『朝鮮』303、昭和15年8月号、朝鮮総督府	

1940年	1552	岡信侠助(1940)、「躍進途上の朝鮮水産業」、『朝鮮』305、昭和15年10月号、朝鮮総督府
	1553	筆者不明(1940)、「朝鮮海苔販売会社の現況」、『朝鮮及満洲』393、朝鮮及満洲社
	1554	秋田藤太郎(1940)、「朝鮮に於ける鰯油事情」、『朝鮮鉄道協会会誌』19-3、朝鮮鉄道協会
	1555	朝鮮第二区機船底曳網漁業水産組合編(1940)、『朝鮮第二区機船底曳網漁業水産組合十年史』、朝鮮第二区機船底曳網漁業水産組合(元山)
	1556	筆者不明(1940)、「日本海水産資源開発打合会」、『水産界』696、大日本水産会
	1557	Y・H生(1940)、「日本海水産連絡試験打合会を覗く」、『水産界』697、大日本水産会
1941年	1558	朝鮮総督府編(1941)、『朝鮮総督府統計年報 昭和十四年』、朝鮮総督府
	1559	朝鮮総督府編(1941)、『朝鮮総督府施政年報 昭和十四年』、朝鮮総督府
	1560	朝鮮総督府編(1941)、『昭和十四年 朝鮮水産統計』、朝鮮総督府
	1561	朝鮮総督府編(1941)、『昭和十四年 朝鮮統計要覧』、朝鮮総督府
	1562	朝鮮総督府編(1941)、『昭和十四年 統計摘要』、朝鮮総督府
	1563	朝鮮総督府編(1941)、『朝鮮事情 昭和十七年版』、朝鮮総督府
	1564	朝鮮総督府殖産局編(1941)、『朝鮮の水産業 昭和十五年』、朝鮮総督府殖産局
	1565	朝鮮総督府水産試験場編(1941)、『朝鮮総督府水産試験場報告 第七号』、朝鮮総督府水産試験場
	1566	朝鮮総督府水産試験場編(1941)、『朝鮮近海海洋図 昭和十五年』、朝鮮総督府水産試験場
	1567	朝鮮総督府水産試験場編(1941)、『朝鮮近海に於けるサバ漁場の性状』(パンフレット 8)、朝鮮総督府水産試験場
	1568	朝鮮総督府水産製品検査所編(1941)、『水産製品検査所事業成績報告 第二回 昭和十三年』、朝鮮総督府水産製品検査所
	1569	平安北道編(1941)、『平安北道水産統計 昭和十五年』、平安北道
	1570	朝鮮総督府編(1941)、『昭和十六年七月一日現在 朝鮮総督府及所属官署職員録』、朝鮮総督府
	1571	拓務大臣官房文書課編(1941)、『昭和十五年版 拓務要覧』、日本拓殖協会
	1572	文部省実業学務局編(1941)、『昭和十六年四月現在 実業学校一覧』、文部省実業学務局
	1573	水産食糧問題協議会編(1941)、『水産食糧問題参考資料 中巻 漁業・漁船』、水産食糧問題協議会
	1574	田口新治編(1941)、『日本水産年報(第五輯) 水産業新体制の展開』、水産社
	1575	明石市教育委員会編(1941)、『中部翁略伝』、明石市教育委員会
	1576	東洋経済新報社編(1941)、『大陸会社便覧 昭和十七年版』、東洋経済新報社
	1577	有機肥糧配給株式会社調査課編(1941)、『有機肥糧関係資料』、有機肥糧研究会朝鮮総督府
	1578	化学工業時報社編集部編(1941)、『化学工業年鑑 昭和17年版』、化学工業時報社編集部
	1579	日本商工興信所編(1941)、『日本商工興信要録』、日本商工興信所
	1580	本社廉正(1941)、「前途洋洋たる江原道の水産界を視る」、『朝鮮及満洲』398、朝鮮及満洲社
1581	木村金太郎(1941)、「南鮮群島に於ける食料問題と鯉鮪の利用」、『海を越えて』、拓殖奨励館	

1941年	1582	筆者不明(1941)、「躍進半島の水産」、『朝鮮公論』29-345、朝鮮公論社
	1583	筆者不明(1941)、「一億七千万円を突破する半島鰯漁業」、『朝鮮公論』29-345、朝鮮公論社
	1584	岡信侠助(1941)、「朝鮮鰯油肥統制十周年を顧みて」、『朝鮮公論』29-345、朝鮮公論社
	1585	筆者不明(1941)、「年産三千四百万円を突破する国民保健食料としての朝鮮の明太漁業、朝鮮公論』29-345、朝鮮公論社
	1586	筆者不明(1941)、「半島水産の雄 鯖漁業」、『朝鮮公論』29-345、朝鮮公論社
	1587	筆者不明(1941)、「全漁業組合の総力を以て増産必死の努力を望む」、『朝鮮公論』29-345、朝鮮公論社
	1588	筆者不明(1941)、「国策第一線に活躍する諸工場の雄姿」、『朝鮮公論』29-345、朝鮮公論社
	1589	筆者不明(1941)、「鰯漁業とその工業化、朝鮮の新興産業」、『東洋経済新報』1996、東洋経済新報社
	1590	筆者不明(1941)、「水産日本の六十年 歴史篇」、『水産界』700、大日本水産会
	1591	筆者不明(1941)、「朝鮮高等水産学校開設」、『水産界』702、大日本水産会
	1592	筆者不明(1941)、「釜山高等水産学校開校」、『水産界』704、大日本水産会
1942年	1593	朝鮮総督府編(1942)、『朝鮮総督府統計年報 昭和十五年』、朝鮮総督府
	1594	朝鮮総督府編(1942)、『朝鮮総督府施政年報 昭和十五年』、朝鮮総督府
	1595	朝鮮総督府編(1942)、『昭和十五年 朝鮮統計要覧』、朝鮮総督府
	1596	朝鮮総督府編(1942)、『朝鮮事情 昭和十八年版』、朝鮮総督府
	1597	朝鮮総督府情報課編(1942)、『前進する朝鮮』、朝鮮総督府情報課
	1598	朝鮮総督府殖産局編(1942)、『朝鮮の水産業 昭和十六年』、朝鮮総督府殖産局
	1599	朝鮮総督府水産試験場編(1942)、『朝鮮総督府水産試験場要覧 昭和十七年』、朝鮮総督府水産試験場
	1600	朝鮮総督府編(1942)、『昭和十五年 朝鮮水産統計』、朝鮮総督府
	1601	咸鏡南道編(1942)、『咸鏡南道水産統計 昭和十五年』、咸鏡南道
	1602	咸鏡南道編(1942)、『咸鏡南道水産統計 昭和十六年』、咸鏡南道
	1603	朝鮮総督府水産試験場編(1942)、『魚の生活』、朝鮮総督府水産試験場
	1604	朝鮮総督府水産試験場編(1942)、『朝鮮近海のタラに就て』(パンフレット 9)、朝鮮総督府水産試験場
	1605	朝鮮総督府水産試験場編(1942)、『朝鮮の海と魚』(パンフレット 10)、朝鮮総督府水産試験場
	1606	朝鮮総督府水産試験場編(1942)、『啼く魚の話』(パンフレット 11)、朝鮮総督府水産試験場
	1607	朝鮮総督府水産試験場編(1942)、『深海魚の話』(パンフレット 12)、朝鮮総督府水産試験場
	1608	朝鮮漁業組合中央会編(1942)、『朝鮮漁業組合要覧』、朝鮮漁業組合中央会
	1609	慶尚北道・慶尚北道漁業組合聯合会編(1942)、『慶尚北道水産統計 昭和十六年』、慶尚北道漁業組合聯合会
	1610	慶尚南道水産試験場編(1942)、『水産試験報告 昭和十五年度』、慶尚南道水産試験場
	1611	田口新治編(1942)、『日本水産年報(第六輯) 大東亜戦と水産統制』、水産社
	1612	文部省実業学務局編(1942)、『昭和十七年四月現在 実業学校一覧』、文部省実業学務局

1942年	1613	国勢グラフ編集部編(1942)、『日本地理年鑑 昭和十七年』、国勢社
	1614	国勢社編集部編(1942)、『大東亜資源統計』、国勢社
	1615	全国経済調査機関聯合会編(1942)、『昭和十七年版 日本経済年誌』、全国経済調査機関聯合会
	1616	井出正孝(1942)、『漁業法』、日本評論社(東京)
	1617	朝鮮銀行調査部編(1942)、『朝鮮の鰯漁業』、発行元不明
	1618	筆者不明(1942)、「北鮮の鰯漁業を再検討する」、『清津経済月報』85、清津商工会議所
	1619	金子政之助(1942)、「朝鮮に於ける海苔養殖の現状より見たる内地海苔養殖業」、『帝水』21-8、帝国水産会
	1620	田中正四(1942)、「岡山村と欲知島」、『朝鮮行政』21-12、朝鮮行政学会(京城)
	1621	青山正一(1942)、「(資料) 下関市に於ける鮮魚介出荷状況の概要」、『水産界』716、大日本水産会
1943-1945年	1622	朝鮮総督府編(1943)、『朝鮮総督府施政年報 昭和十六年』、朝鮮総督府
	1623	朝鮮総督府編(1943)、『昭和十六年 朝鮮統計要覧』、朝鮮総督府
	1624	朝鮮総督府編(1943)、『朝鮮事情 昭和十九年版』、朝鮮総督府
	1625	朝鮮総督府農林局編(1943)、『朝鮮の水産業 昭和十七年』、朝鮮総督府農林局
	1626	朝鮮総督府編(1943)、『昭和十六年 朝鮮水産統計』、朝鮮総督府
	1627	朝鮮総督府編(1943)、『昭和十七年七月一日現在 朝鮮総督府及所属官署職員録』、朝鮮総督府
	1628	朝鮮総督府水産試験場編(1943)、『朝鮮近海半年海況図』、朝鮮総督府水産試験場
	1629	朝鮮総督府水産試験場編(1943)、『朝鮮総督府水産試験場報告 第八号』、朝鮮総督府水産試験場
	1630	咸鏡南道編(1943)、『咸鏡南道水産統計 昭和十七年』、咸鏡南道
	1631	帝国図書館編(1943)、『学芸技術ニ関スル逐次刊行物一覽 前篇(学校・官衙ノ部)』、帝国図書館
	1632	里内 晋(1943)、『底曳漁業と其の資源』、水産社(東京)
	1633	有機肥糧配給株式会社調査課編(1943)、『有機肥糧関係資料』、有機肥糧研究会
	1634	全国経済調査機関聯合会朝鮮支部編(1943)、『朝鮮経済年報 昭和十六・七年版』、改造社
	1635	全国経済調査機関聯合会編(1943)、『昭和十八年版 日本経済年誌』、全国経済調査機関聯合会
	1636	国勢グラフ編集部編(1943)、『日本地理年鑑 昭和十八年』、国勢社
	1637	銀行問題研究会編(1943)、『第八十議会第八十一議会新法律 昭和十七年度昭和十八年度解説付』、銀行問題研究会
	1638	編者不明(1943)、『朝鮮鰯油肥統制拾年史』、朝鮮鰯油肥製造業水産組合連合会
	1639	岡信侠助(1943)、「鰻漁業を中心とする朝鮮水産業の指導体制」、『朝鮮』337、昭和18年6月号、朝鮮総督府
	1640	寺本覚(1943)、「海苔の莞島」、『朝鮮行政』22-5、朝鮮行政学会
	1641	妹尾莊二(1943)、「漁村振興」、『朝鮮行政』22-11・12(合併号)、朝鮮行政学会
	1642	北野退蔵(1943)、「戦時下朝鮮水産界の諸問題」、『朝鮮』337、昭和18年6月号、朝鮮総督府

1943- 1945 年	1643	辻 董重(1943)、「漁民と錬成」、『朝鮮』337、昭和18年6月号、朝鮮総督府
	1644	瀬野周治(1943)、「朝鮮海苔生産の経済的研究」、『朝鮮総督府調査彙報』14-10、昭和18年10月号、朝鮮総督府
	1645	筆者不明(1943)、「朝鮮鰯漁業の全面的転換」、『清津経済月報』95、清津商工会議所
	1646	相川広秋(1943)、「真鱈と其資源に就いて」、『海洋漁業』8-4(通巻80)、海洋漁業協会(東京)
	1647	吉田敬市(1943)、「通漁による朝鮮水産の開発」、『東亜人文学報』第3巻第4号、京都帝国大学人文科学研究所
	1648	吉田敬市(1943)、「朝鮮の水産開発変遷—南方水産の教訓として見たる—」、小牧實繁編『大東亜地政学新論』、星野書店(京都)
	1649	関 壮一(1943)、「朝鮮沿岸漁業と内地消費市場との関係」、『水産界』732、大日本水産会
	1650	朝鮮総督府編(1944)、『朝鮮総督府施政年報 昭和十七年』、朝鮮総督府
	1651	朝鮮総督府編(1944)、『昭和十七年 朝鮮水産統計』、朝鮮総督府
	1652	朝鮮総督府水産試験場編(1944)、『貝の棲む干潟』、朝鮮総督府水産試験場
	1653	清津商工会議所編(1944)、『清津商工会議所史』、清津商工会議所
	1654	京城日報社編(1944)、『昭和二十年度 朝鮮年鑑』、京城日報社
	1655	勝村長平(1944)、『清津商工会議所史』、清津商工会議所(清津)
	1656	有吉京吉(1945)、「有吉京吉小論文」、加子浦歴史文化館・資料館(岡山県備前市)
	1946- 1964 年	1657
1658		笠原 昊(1948)、『日本水産株式会社研究所報告 第3号 支那東海の底曳網漁業とその資源』、日本水産株式会社研究所(小田原)
1659		大蔵省管理局編(1949?)、『日本人の海外活動に関する歴史的調査 朝鮮篇』、大蔵省管理局
1660		日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会編(1951)、『漁業制度資料目録 第4集 全国編Ⅲ [世界漁業]』、日本常民文化研究所・水産庁資料整備委員会
1661		吉田敬市(1951)、「朝鮮水産業の開発過程」、『東方学報』20、京都大学人文科学研究所
1662		吉田敬市(1951)、「李朝初期に於ける朝鮮の漁業と塩業」、『人文地理』第3巻第4号、人文地理学会
1663		吉田敬市(1952)、「波市坪考」、『人文地理』第4巻第5号、人文地理学会
1664		著者不明(1952)、『韓国の漁業』、日本海洋漁業協議会(東京)
1665		日韓漁業対策本部編(1953)、『李ライン問題と日本の立場』、日韓漁業対策本部
1666		李壬道(1953.)、「水産業当面問題」、『首都評論』1、首都文化社 ※
1667		韓重健(1953)、『韓国漁業の概観(1952年) ☆』、日本水産庁 ☆韓国本の日本語訳
1668		鄭文基(1954)、『韓国魚譜』、(韓国)商工部 ※
1669		吉田敬市(1954)、『朝鮮水産業開発過程の地理学的研究 ☆』、〔学位論文：博士(文学)、京都大学〕 ☆附属論文「朝鮮古来の漁塩業と明治以前に於ける日鮮漁業関係の研究」とともにNo.1670に収める。
1670		吉田敬市(1954)、『朝鮮水産開発史』、朝水会(下関) ☆No.1744 参照

1946- 1964年	1671	吉田敬市(1954)、「朝鮮の水産業」、『みなと新聞(水産速報)』1月6、7、8、9日付(下関)
	1672	松本広助(1954)、『朝鮮の林兼』、大洋漁業株式会社新大洋編集部
	1673	李壬道(1954)、『韓国遠洋漁場の 水産資源』、文化印刷社(韓国) ※
	1674	横山富夫(1954)、「差入船韓国に行く」、『水産時報』6巻56号、水産庁
	1675	木下辰雄(1955)、『波瀾の生涯』、鳳映社(東京)
	1676	別府 実編(1956)、『串木野市水産業史』、串木野市
	1677	韓重健(1956)、「乱獲防止를 위한 노트」、『海務』1-4、韓国海務庁(서울) ※
	1678	羽原又吉(1957)、『日本近代漁業経済史 下巻』、岩波書店、1982復刻(第2版)
	1679	新川伝助(1957)、「西日本漁業に於ける資本制経営発達の文献的考証」、『農林省水産講習所研究報告 人文科学篇 (3)』
	1680	大佛次郎(1958)、『中部幾次郎』、中部幾次郎翁伝記編纂刊行会(東京)
	1681	中川 恣(1958)、『底曳網漁業制度沿革史』、日本機船底曳漁業協会(東京)
	1682	編者不明(1958)、『日本遠洋底曳網漁業協会 創立拾周年記念誌』、日本遠洋底曳網漁業協会(東京)
	1683	編者不明(1958)、『日本機船底曳漁業協会 十年の歩み』、日本機船底曳漁業協会(東京)
	1684	中谷熊楠(1959)、『朝鮮の林兼事業要覧』、出版元不明
	1685	田中 宏(1959)、『新編日本主要産業体系 水産篇 大洋漁業』、展望社(東京)
	1686	(株)大洋漁業(1960)、『大洋漁業 80年史』、大洋漁業
	1687	김덕호(1962)、「1932년 제주도 해녀들의 반일투쟁」、『력사과학』1962년4호、과학원출판사 ※
	1688	朴九秉(1962)、「日本資本主義 勢力의 韓国水産業侵入過程」、『白鯨』、釜山水産大学学生会 ※
	1689	朴九秉(1963)、『韓国水産漁業史』、大韓出版社 ※
	1690	山口和雄(1964)、『日本漁業史』、東京大学出版会
1691	西海区水産研究所底魚グループ(1964)、『東シナ海・黄海の底魚資源』、日本水産資源保護協会	
1692	玄季順(1964)、『韓末韓日漁採問題의 一考察 — 濟州漁採問題를 中心으로 —』、ソウル大学校大学院修士論文 ※	
1965- 2004年	1693	岡本信男(1965)、『近代漁業発達史』、水産社
	1694	志村賢男(1965)、『日本漁業の資本蓄積』、東京大学出版会
	1695	辻田時美(1965)、『東シナ海の浮魚資源』、日本水産資源保護協会
	1696	元容奭(1965)、『韓日会談十四年』、三和出版社 ※
	1697	和田正明(1965)、『日韓漁業の新発足』、水産経済新聞社(東京)
	1698	田村清三郎(1965)、『島根県竹島の新研究』、島根県総務部総務課(松江)
	1699	川上健三(1966)、『竹島の歴史地理学的研究』、古今書院
	1700	みなと新聞社(1967)、『漁業で結ぶ日本と韓国(現状と将来の展望) 附主要関係法令』、みなと新聞社(下関)
	1701	朴九秉(1966)、『韓国水産業史』、太和出版社 ※
	1702	水協中央会漁村指導課編(1966)、『韓国水産開発史』、水産業協同組合中央会 ※
	1703	金振九(1966)、『韓国漁業史・捕鯨史』、国際連合食料農業機構韓国協会 ※
	1704	韓国水産庁(1966)、『韓国の水産』、韓国水産庁 ※

1965- 2004年	1705	韓国経済開発研究所編(1966)、『韓国水産業의 現況』、韓国経済開発研究所 ※
	1706	みなと新聞社編(1966)、『有吉京吉氏を偲ぶ』、みなと新聞社(下関)
	1707	(日本)水産庁韓国漁業研究グループ編(1967)、『海外水産叢書 12-1 韓国の漁業Ⅰ 総説』、日本水産資源保護協会
	1708	(日本)水産庁韓国漁業研究グループ編(1967)、『海外水産叢書 12-2 韓国の漁業Ⅱ 生産』、日本水産資源保護協会
	1709	(日本)水産庁韓国漁業研究グループ編(1967)、『海外水産叢書 12-3 韓国の漁業Ⅲ 漁業経済・水産教育』、日本水産資源保護協会
	1710	中井 昭(1967)、『香川県海外出漁史』、香川県・香川県海外漁業協力会
	1711	梶村秀樹・樋口雄一(1967)、『調査研究資料2 朝鮮民主主義人民共和国の水産業』、日本朝鮮研究所(東京)
	1712	李元淳(1967)、「韓末 濟州島通漁問題一攷」、『歴史教育』10、歴史教育研究会 ※
	1713	朴九秉(1967 a)、「韓・日近代漁業関係研究(1876~1910)」、『釜山水産大学研究報告』7-1 ※
	1714	朴九秉(1967 b)、「開港以後의 釜山水産業」、『港都釜山』6、釜山市編纂委員会 ※
	1715	朴九秉(1968)、「韓国漁業技術史」、『韓国文化史大系 3』、高麗大学校民族文化研究所出版部 ※
	1716	穂積真六郎(1968)、『朝鮮水産の発達と日本』、財団法人友邦協会(東京)
	1717	島 繁雄編(1968)、『日韓漁業対策運動史』、日韓漁業協議会(東京)
	1718	編者不明(1968)、『二十年史』、日本遠洋底曳網漁業協会(東京)
	1719	水産史編纂委員会(1968)、『韓国水産史』、韓国水産庁 ※
	1720	編者不明(1968)、『島汕鄭文基博士古希記念』、韓国水産技術協会 ※
	1721	岡本信男(1969)、『水産人物百年史』、水産社
	1722	水産大学校二十五年史編集委員会(1970)、『水産大学校二十五年史』、水産大学校(下関)
	1723	佐賀関町史編集委員会編(1970)、『佐賀関町史』、佐賀関町
	1724	末松保和編(1970)、『朝鮮研究文献目録 単行書篇☆』(上、中、下、索引 全4冊)、東京大学東洋文化研究所付属東洋学文献センター ☆1980年に汲古書院から『朝鮮学研究文献目録 単行書篇』として再刊
	1725	高峻石(1970)、『南朝鮮経済史』、刀江書院(東京)
	1726	朴九秉(1970)、「韓末東海捕鯨漁業을 둘러싼 露日의 角逐」、『亜細亜研究』13-2 高麗大学校亜細亜問題研究所 ※
	1727	崔泰鎬(1971)、「日帝下의 韓国水産業에 관한研究」、『日帝의 經濟侵奪史』、高麗大学校亜細亜問題研究所 ※
	1728	한우근(1971)、「開港後 日本漁民의 浸透(1860~1894)」、『東洋学』1、檀国大学校東洋学研究所(서울) ※
	1729	末松保和編(1972)、『朝鮮研究文献目録 1868~1945 論文・記事篇☆』(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 全3冊)、東京大学東洋文化研究所付属東洋学文献センター ☆1980年に汲古書院から『朝鮮学研究文献目録 論文・記事篇』として再刊
	1730	吉形士郎編(1972)、『日生町誌』、 ^{ヒナセ} 日生町役場(岡山)
1731	朴九秉(1972)、「19世紀末、韓・日間の 漁業에 適用된 領海3海里原則에 関하여」、『韓日関係』1、韓国日本問題研究所 ※	
1732	川上健三(1973)、『戦後の国際漁業制度』、大日本水産会(東京)	

1965- 2004年	1733	강대원(1973)、『海女研究』、韓進文化社(서울) ※
	1734	堀 麗子(1974)、『おやじさん—靈前に捧ぐ』、出版元不明
	1735	アジア経済研究所図書資料部編(1974)、『旧植民地関係機関刊行物総合目録朝鮮編』、アジア経済研究所(東京)
	1736	朴九秉(1974 a)、 「뺨앗긴生活圈(Ⅱ)=水産業」、 『韓国現代史2』、新丘文化社 ※
	1737	朴九秉(1974 b)、 「바다 잃는 漁夫들 =水産業」、 『韓国現代史4』、新丘文化社 ※
	1738	朴九秉(1975)、 『韓国漁業史』 (正音文庫 73)、正音社 ※
	1739	李炫熙(1975 a)、 「日帝侵略下 韓國漁民의 守護運動—社会運動의 一例」、 『研究論文集』 8、誠信女子師範大学人文科学研究所 ※
	1740	李炫熙(1975 b)、 「일제하한국어민의 어권수호운동」 (하)、 『새어민』 89、수산업협동조합중앙회 ※
	1741	宮本常一(1975)、 『宮本常一著作集 20 海の民』、未来社(東京)
	1742	原 暉三(1977)、 『日本漁業権制度史論』、国書刊行会(東京)
	1743	柿崎京一(1978)、 『近代漁村落の研究』、御茶の水書房(東京)
	1744	吉田敬市(1978)、 「朝鮮をめぐる日本漁業」、岡本達明編 『近代民衆の記録7—漁民 ☆』、新人物往来社 ☆No.1670の『朝鮮水産開発史』第5章と第6章および「主要移住漁村年表」を抜粋所収
	1745	朴九秉(1978)、 「韓国鱈漁業史」、 『釜山水産大学論文集(人文・社会科学編)』 21、釜山水産大学 (釜山) ※
	1746	田中豊治(1979)、 『隠岐島の歴史地理学的研究』、古今書院
	1747	池鐵根(1979)、 『平和線』、汎友社 ※
	1748	李炫熙(1979)、 「日帝被占下 韓國의 漁權守護運動」、 『韓国近代史의 模索』、二友出版社 ※
	1749	楠美一陽(1980)、 『山口県豊浦郡水産史』 (復刻版)、マツノ書店(周南)
	1750	吉木武一(1980)、 『以西底曳漁業経営史論』九州大学出版会
	1751	加藤晴子(1979、1980)、 「戦後日韓関係史への一考察—李ライン問題をめぐって— (上)(下)」、 『日本女子大学紀要 文学部』 28、29、(東京)
	1752	具良根(1980)、 「近代日本の 對韓通漁政策과 朝鮮漁村과의 關係」、 『人文科学研究 1980』、朝鮮大学校人文科学研究所 ※
	1753	大海原宏(1980)、 「まき網漁業概史」、 『全国まき網漁業協会拾年史』、社団法人全国まき網漁業協会(東京)
	1754	筆者不明(1981)、 『日本水産の70年』、日本水産株式会社(東京)
	1755	二野瓶徳夫(1981)、 『明治漁業開拓史』、平凡社(東京)
	1756	大日本水産会編(1982)、 『大日本水産会百年史』、水産新聞協会(東京)
	1757	崔泰鎬(1982)、 「일제하의 한국수산업에 관한 연구」、金文植他 『일제의 경제 침탈사』、高麗大学校亞細亞文化研究所、玄音社 ※
	1758	宮本常一(1983)、 『宮本常一著作集 28 対馬漁業史』、未来社(東京)
1759	石橋雅威編(1983)、 『朝鮮の塩業』、友邦協会(東京)	
1760	朴九秉(1983)、 「漁業権制度와 沿岸漁場所有利用形態의 變遷에 관한 研究—韓末부터 日帝까지— ☆」、 『釜山水産大学論文集』 30 釜山水産大学 ※ ☆日本語訳したものが No.1789	
1761	島根県水産試験場編(1983)、 『島根県水産試験場八十年史』、島根県水産試験場(浜田)	
1762	岡本信男(1984)、 『日本漁業通史』、水産社	

1965- 2004年	1763	国立国会図書館編(1984)、『国立国会図書館所蔵朝鮮関係資料目録(複製版)』、国立国会図書館
	1764	海外漁業協力財団編(1985)、『海外漁業発展史年表』、海外漁業協力財団(東京)
	1765	藤永 壮(1985)、「韓国における近代漁業史研究の現況—朴九秉氏の近業をめぐって—」、『朝鮮史研究会会報』82、朝鮮史研究会(東京)
	1766	高林直樹(1985)、「朝鮮における千葉村」、『千葉県の歴史』30
	1767	金玉卿(1986)、「開国後 漁業에 관한 一研究」、『大韓帝国研究』5、梨花女子大学校韓国文化研究院(서울) ※
	1768	李光麟(1986)「金玉均의 『東南諸島開拓使 兼管捕鯨事』 任命 에 대하여」、『韓国開化史의 諸問題』、一潮閣(서울) ※
	1769	朴九秉(1987 a)、『韓半島沿海捕鯨史』、太和出版社 ※
	1770	朴九秉(1987 b)、『韓国捕鯨史』、水産業協同組合中央会 ※
	1771	藤永 壮(1987)、「植民地下日本人漁業資本家の存在形態—李瑯家漁場をめぐる朝鮮漁民との葛藤—」、『朝鮮史研究会論文集』24、朝鮮史研究会(東京)
	1772	堀 和生(1987)、「一九〇五年日本の竹島領土編入」、『朝鮮史研究会論文集』24、朝鮮史研究会(東京)
	1773	水友会編(1987)、『現代韓国水産史』、水友会(韓国) ※
	1774	金子厚男編(1987)、『金子岩三伝』、財団法人・金子岩三奨学財団(長崎)
	1775	金榮・李澄子(1988)、『海をわたった朝鮮人海女』、新宿書房(東京)
	1776	崔泰鎬(1988)「開化期韓國漁民의 漁權守護運動」、『경상논총』10、国民大学校経済研究所 ※
	1777	小沼 勇(1988)、『漁業政策百年』、農村漁村文化協会(東京)
	1778	児島俊平(1988)、「隠岐漁民の竹島(鬱陵島)行」、『郷土石見』21、石見郷土研究懇話会(浜田)
	1779	金子厚男編(1989)、『日本遠洋旋網漁業協同組合三〇年史』、日本遠洋旋網漁業協同組合(福岡)
	1780	大喜多甫文(1989)、『潜水漁業と資源管理』、古今書院
	1781	藤永 壮(1989)、「一九三二年濟州島海女のたたかい」、『朝鮮民族運動史研究』6、青丘文庫(神戸)
	1782	沈相俊(1989)、『遠洋漁業開拓史』、私家本 ※
	1783	池鐵根(1989)、『韓日漁業紛争史』、韓国水産新報社 ※
	1784	池鐵根(1989)、『試練期의 水産業史』、韓国水産新報社 ※
	1785	編者不明(1990)、『韓国遠洋漁業 30年史』、社団法人韓国遠洋漁業協会(韓国) ※
	1786	박근순(1991)、『조선수산사(2) 현대편-1』、공업종합출판사(평양) ※
	1787	中村 均(1991)、「韓国・巨文島を拓いた日本人」、『亜細亜大学国際関係紀要』1-1、亜細亜大学国際関係研究所(東京)
	1788	内藤正中(1991)、「島根県人の鬱陵島進出」、『山陰地域研究』7、島根大学山陰地域研究総合センター(松江)
	1789	朴九秉(1991)、「漁業権制度と沿岸漁場所有利用形態 ☆」、益田庄三編『日韓漁村の比較研究』、行路社(京都) ☆No.1760の日本語訳
	1790	内藤正中(1992)、「明治期島根漁民の朝鮮海進出」、『経済科学論集』18<島根大学法文学部紀要>、(松江)
1791	崔吉城(1992)、『日帝時代一漁村の文化変容 ☆』、亜細亜文化社(서울) ※ ☆日本語訳は、No.1798	
1792	金秀姫(1992)、『近代韓国漁業に関する研究—日本漁民の進出過程を中心にして—』、東京学芸大学大学院修士論文	
1793	池鐵根(1992)、『水産富國의 野望』、韓国水産新報社 ※	

1965- 2004年	1794	内藤正中(1993)、『山陰の日朝関係史』、報光社(平田)
	1795	高秉雲(1993)、「日本の朝鮮漁業利権収奪と『移住漁村』建設について ☆」、『アジア研究所年報』5、大阪経済法科大学アジア研究所 ☆後に、『略奪された祖国』(雄山閣、東京、1995)第2章に収める
	1796	編者不明(1993)、『韓国旋網漁業史』、大型旋網水産協同組合(韓国) ※
	1797	海外漁業協力財団編(1994)、『東アジア関係国の漁業事情：韓国・中国・台湾・北朝鮮・香港・極東ロシア』、海外漁業協力財団(東京)
	1798	崔吉城(1994)、『日本植民地と文化変容 ☆』、御茶の水書房(東京) ☆No.17 91の日本語訳
	1799	益田庄三(1994)、『島根県の水産翁 佐々木準三郎伝』、行路社(京都)
	1800	山本 忠(1994)、「韓国の漁業と漁業管理」、『世界の漁業管理 下』、海外漁業協力財団
	1801	中村 均(1994)、『韓国巨文島につぼん村』、中央公論社(東京)
	1802	朴光淳(1994)、「日本の 韓国漁場 침탈과 漁민의 対応 - 19세기 말 ~ 20세기 초를 중심으로」、『경제사학』18、経済史学会 ※
	1803	金秀姫(1994)、「朝鮮開港以後に於ける日本漁民の朝鮮近海漁業の展開」、『朝鮮学報』153、朝鮮学会(天理)
	1804	김수희(金秀姫)(1994)、「韓国近海の 植民地的漁業構造의 創出過程」、『水産業史研究』1、水産業史研究所 ※
	1805	呂博東(1994 a)、「日帝 統營・巨濟地域의 日本人移住漁村 形成과 漁業組合」、『日本学誌』14、啓明大學校日本文化研究所 ※
	1806	呂博東(1994 b)、「日本人移住漁村 形成과 漁業組合」、『日本学誌』14、啓明大學校日本文化研究所 ※
	1807	一橋大学経済研究所日本経済統計情報センター編(1994)、『日本帝国外地関係統計資料目録—朝鮮編』、一橋大学経済研究所日本経済統計情報センター(国立)
	1808	朝鮮史研究会編(1994)、『戦後日本における朝鮮史文献目録 1945~1991』、緑陰書房(東京)
	1809	徳山宣也(1995)、『大洋漁業 長崎支社の歴史』、私家本
	1810	呂博東(1995)、「日帝時代 巨濟島 이리사무라(入佐村)의 形成」、『日本学誌』15、啓明大學校日本文化研究所 ※
	1811	呂博東(1996)、「植民地時期統營오가야마촌(岡山村)의 形成」、『日本学誌』16、啓明大學校国際学研究所日本研究室 ※
	1812	徳島県漁業史編纂協議会編(1996)、『徳島県漁業史』、徳島県漁業史編纂協議会(徳島)
	1813	古田悦造(1996)、『近世魚肥流通の地域的展開』、古今書院(東京)
1814	筆者不明(1996)、『韓国漁港史』、特殊法人韓国漁港協会(韓国) ※	
1815	水産庁三十年史発刊委員会(1996)、『水産庁三十年史』、水産庁(서울) ※	
1816	김수희(1996)、「일제시대 어업사연구의 성과와 과제」『水産業史研究』3、水産業史研究所	
1817	韓国史研究会編(1996)、『光復 50周年記念韓国史研究論著総目録』、景仁文化社(서울) ※	
1818	内藤正中(1997)、「鳥取県人の朝鮮海漁業進出」、『北東アジア文化研究』6、鳥取女子短期大学北東アジア文化総合研究所(倉吉)	
1819	김수희(1997)、「일제시대의 일본인 이주어촌—경남 통영군 도남리의 岡山村을 중심으로—」、『水産業史研究』4、水産業史研究所 ※	

1965- 2004年	1820	時村宗春・大滝英男・金大永(1998)、『韓国の漁業』、海外漁業協力財団
	1821	김수희(1998)、「일제시대 경남 삼천포에 이주한 일본인 어민에 대해서—愛媛県南宇和郡西海内泊어촌 어민을 중심으로—」、『水産業史研究』5、水産業史研究所 ※
	1822	神谷丹路(1998)、「日本漁民の朝鮮への植民過程をたどる—岡山県和気郡日生漁民を中心にして」、『青丘学術論集』13、韓国文化研究振興財団(東京)
	1823	清水満幸(1999)、「鱻延縄漁と萩地方漁船の朝鮮半島近海への出漁」、『萩市郷土博物館研究報告』9、萩市郷土博物館
	1824	呂博東(1999)、「近代広島県漁民の朝鮮海漁業関係研究」、『日本学誌』19、啓明大学校国際学研究所日本研究室 ※
	1825	呂博東(1999)、「일제시기 히로시마현 에다지마초(江田島町)어민의 조선헬 어업관계 연구」、『日本学報』43、韓国日本学会 ※
	1826	金榮敦(1999)、『한국의 해녀』、民俗苑(서울) ※
	1827	김수희(2000)、「일제시대 이주어촌<小魚島村>과 거제도 구조라」、『水産業史研究』7、水産業史研究所 ※
	1828	崔宗和(2000)、『現代韓日漁業關係史研究』、(韓国)海洋水産部 ※
	1829	李鐘学編(2000)、『領土資料叢書IV 韓日漁業關係調査資料』、史芸研究所(韓国水原市) ※
	1830	窪田和美(2000)、「瀬戸内沿岸漁村の社会構造—明治から大正期の岡山県和気郡日生村—」、『龍谷大学社会学部紀要』16、龍谷大学社会学部(京都)
	1831	金柄徹(2000、2002)「帝国主義と漁民の移動—広島県豊島漁民の『朝鮮海』出漁に関する歴史人類学的考察(1)(2) ☆」、『亜細亜大学国際関係紀要』9-1/2、10-1、亜細亜大学国際関係研究所(武蔵野) ☆後に、『家船の民族誌』(東京大学出版会、2003)第3章に収める。
	1832	内藤正中(2000)、「 ^{カクワ} 角輪組の朝鮮江原道漁業の進出」、『北東アジア文化研究』12、鳥取女子短期大学北東アジア文化総合研究所(倉吉)
	1833	이영학(2000)、「조선후기 어업에 대한 연구」、『역사와현실』35、한국역사연구회 (서울) ※
	1834	河原典史(2001 a)、「植民地期の韓国濟州島における日本人経営の缶詰製造業—竹中缶詰製造所の濟州分工場を中心に—」、高木正朗編『地域情報研究シリーズ3 空間と移動の歴史地理』、立命館大学(京都)
	1835	河原典史(2001 b)、「植民地期の濟州島における日本人漁民の活動」(藤田明良他「島嶼から見た朝鮮半島と他地域の交流」の第三部)、『青丘学術論集』19、韓国文化研究振興財団(東京)
	1836	窪田和美(2001)、「日本からの移住漁民にみられる職業倫理—韓国方魚津の場合—」、『龍谷大学社会学部紀要』18、龍谷大学(京都)
	1837	内藤正中(2001)、「角輪組の朝鮮江原道漁業の進出(II)」、『北東アジア文化研究』13、鳥取女子短期大学北東アジア文化総合研究所(倉吉)
	1838	木 ^{キキョウ} 京睦人(2001)、「山口県の朝鮮沿海漁業調査」、『山口県地方史研究』86、山口県地方史学会
	1839	呂博東(2001)、「근대가가와현(香川県)어민의 조선헬어업관계」、『日本学報』47、韓国日本学会 ※
1840	한규설(2001)、『漁業經濟史를 통해 본 韓國漁業制度 變遷의 100年』、선학사 ※	
1841	李善愛(2001)、『海を越える濟州島の海女』、明石書店(東京)	

1965- 2004年	1842	窪田和美(2002)、「移住漁民の宗教倫理—朝鮮半島沿岸の方魚津本願寺」、『龍谷大学社会学部紀要』22、龍谷大学(京都)
	1843	藤井賢二(2002)、「日韓漁業問題の歴史的背景—旧植民地行政機関の漁業政策比較の視点から」、『東アジア近代史』5、東アジア近代史学会
	1844	有菌真琴(2002)、『山口県漁業の歴史』、社団法人・日本水産資源保護協会(東京)
	1845	(韓国)国史編纂委員会 編(2002)、『韓日漁業関係』、国史編纂委員会(果川) ※
	1846	呂博東(2002)、『일제의 조선어업지배와 이주어촌 형성』、韓国日本学協会 ※
	1847	朱剛玄(黒澤真爾訳)(2002)、『黄金の海・イシモチの海』、法政大学出版局(東京)
	1848	大西俊輝(2003)、『日本海と竹島』、東洋出版(東京)
	1849	北脇義友(2003)、「岡山県における朝鮮漁業について」、『岡山地方史研究』100、岡山地方史研究会
	1850	中山富弘(2003)、「広島県深沼漁業組合の朝鮮海出漁—明治三十年の伝習操業の一事例」、岸田裕之編『中国地域と対外関係』、山川出版社(東京)
	1851	中野 泰(2003)、「植民地漁業の社会的求心力—朝鮮半島近海における日本人漁民を例として」、『立命館言語文化研究』14-1
	1852	김수희(2003)、「러·일전쟁기 마산에서의 『干葉村』 형성과 그 해체 과정」、『水産業史研究』10、水産業史研究所 ※
	1853	宮下 章(2004)、『海苔の歴史 下』、海路社(東京)
	1854	朴重信・布野修司(2004)、「日本植民地期における韓国の日本人移住漁の形成に関する研究—巨文島・巨文港を対象として」、『日本建築学会計画系論文集』577、日本建築学会
	1855	김수희(2004)、「개항기 한국내의 일본인 어민의 조직화과정」、『수산연구』20、한국수산경영기술연구원 ※
	1856	장수호(2004 a)、「조선왕조말기에 있어서 일본포경업의 입어」、『수산연구』20、한국수산경영기술연구원 ※
	1857	장수호(2004 b)、「조선왕조말기 일본인에 허용한 입어와 어업합병」、『수산연구』21、한국수산경영기술연구원 ※
	2005- 2014年	1858
1859		朴重信・金泰永・布野修司(2005)、「韓国・九龍浦の日本人移住漁村の居住空間構成とその変容」、『日本建築学会計画系論文集』595、日本建築学会
1860		朴重信・金泰永・布野修司他(2005)、「韓国・外羅老島の日本人移住漁村の居住空間構成とその変容」、『日本建築学会計画系論文集』595、日本建築学会
1861		三井田恒博(2006)、『近代福岡県漁業史』、海鳥社
1862		堀 和生編(2006)、『京都大学東アジア関連文献目録 上・下』、京都大学経済学研究科上海センター
1863		片岡千賀之(2006)、「あんこう網漁業の発達—有明海での生成と朝鮮海出漁☆」、『長崎大学水産学部研究報告』87 ☆後に No.1895 に収める
1864		玄大松(2006)、『領土ナショナリズムの誕生』、ミネルヴァ書房(京都)
1865		좌혜경 외 9인(2006)、『제주해녀와 일본의 아마』、민속원(서울) ※
1866		김수희(2007)、「일제시대 남해안어장에서 제주해녀의 어장이용과 그 갈등 양상」、『지역과 역사』21 부경역사연구소 ※
1867		河原典史(2007)、「植民地期の朝鮮における水産加工業—缶詰製造業を中心に—」、山根拓・中西僚太郎編『近代日本の地域形成 歴史地理学からのアプローチ』、海青社

2005- 2014年	1868	藤井賢二(2007)、「朝鮮引揚者と韓国—朝水会の活動を中心—」、崔吉城・原田環編『植民地の朝鮮と台湾』、第一書房(東京)
	1869	藤井賢二(2007)、「水産統計から見た日本統治期の朝鮮・台湾の漁業」、『東洋史訪』13、兵庫教育大学東洋史研究会(兵庫県加東)
	1870	今西 一・中谷三男 (2008)、『明太子開発史』、成山堂書店(東京)
	1871	伊藤康宏(2008)、「島根漁民の朝鮮近海出漁」、(島根県)竹島問題を学ぶ講座第6回講義記録(松江)
	1872	藤井賢二(2008)、「日本統治期の朝鮮漁業の評価をめぐって」、『東洋史訪』14、兵庫教育大学東洋史研究会
	1873	磯本宏紀(2008)、「潜水器漁業の導入と朝鮮海出漁—伊島漁民の植民地漁業経営と技術伝播をめぐって—」、『徳島県立博物館研究報告』18、徳島県立博物館
	1874	宮本和宏(2008)、「海から見直す阿波の歴史(中) 伊島の潜水器漁業」、『徳島新聞』2008年2月1日付、徳島新聞社(徳島)
	1875	이근우외(2008)、『19세기 동북아4개국의 도서분쟁과 해양경계』、동북아역사재단(서울) ※
	1876	小岩信竹(2009)、「日韓併合前後の大韓帝国・朝鮮における漁業法の制定と施行—明治漁業法の性格に寄せて—」、『東京海洋大学研究報告』5、東京海洋大学
	1877	朴炳涉(2009)、「山陰地方民の鬱陵島侵入の始まり」、『北東アジア文化研究』30、鳥取短期大学北東アジア文化総合研究所(倉吉)
	1878	済州道特別自治道海女博物館編(2009)、『済州海女史料集』、済州道特別自治道海女博物館(済州道) ※
	1879	済州道特別自治道海女博物館編(2009)、『제주 해녀의 생업과 문화』、済州道特別自治道海女博物館(済州道) ※
	1880	金文基(2009)、「気候、바다、漁業紛争」、『中国史研究』63、中国史学会(大邱) ※
	1881	杉原 隆(2010)、『山陰地方の歴史が語る「竹島問題」』、私家版(松江)
	1882	石垣幸子(2010)、『朝鮮の千葉村物語』、崙書房
	1883	朴炳涉(2010)、「明治時代の鬱陵島漁業と竹島=独島問題(1)(2)」、『北東アジア文化研究』31、32、鳥取短期大学北東アジア文化総合研究所
	1884	伊東雅之・道面雅量(2010)、「刻まれた記憶 韓国併合100年 第1部『移住村統営』①~⑦」、『中国新聞』2010年1月3、5、6、7、8、9、12日付、中国新聞社(広島)
	1885	大宮 誠(2010)、「朝鮮東海岸主要港における移出入貨物の検討—1931~1941年の元山港、興南港、西湖津港、城津港—」、『現代社会文化研究』48、新潟大学大学院現代社会文化研究科(新潟)
	1886	장국중(2010)、『조선수산사』、사회과학출판사(평양) ※
	1887	김수희(2010)、『근대 일본어민의 한국진출과 어업경영』、景仁文化社 ※
1888	장수호(2010)、「동양척식주식회사의 수산업 경영」、『수산연구』30、한국수산경영기술연구원(부산) ※	
1889	안미정(2010)、『제주 잠수의 바다』、제주대학교출판부(제주) ※	
1890	伊地知紀子(2011)、「国外出稼海女」、朴贊植他編『済州女性史Ⅱ 日帝強占期』、済州発展研究院 ※	
1891	上原征彦・宇田川勝監修(2011)、『日本水産百年史』、日本水産株式会社(東京)	
1892	伊藤康広(2011)、『山陰の魚漁図解』、今井印刷株式会社(米子)	

2005- 2014年	1893	藤井賢二(2011)、「韓国の海洋認識—李承晩ライン問題を中心に—」、『韓国研究センター年報』11、九州大学韓国研究センター(福岡)
	1894	山内康英・藤井賢二(2011)、「日韓漁業問題」、『歴史としての日韓国交正常化Ⅱ』、法政大学出版局(東京)
	1895	片岡千賀之(2011)、『長崎県漁業の近現代史』、長崎文献社(長崎)
	1896	児島俊平(2011)、『山陰地方漁業史話』、石見郷土研究懇話会(浜田)
	1897	小岩信竹(2011)、「近代朝鮮の漁業制度展開と日本人の韓海出漁」、『東京国際大学論叢 経済学部編』45、東京国際大学経済学部
	1898	福原裕二(2011)、「20世紀初頭の鬱陵島社会」、『北東アジア研究』21、島根県立大学東アジア地域研究センター(浜田)
	1899	福原裕二(2011)、「20世紀前半の鬱陵島各種統計(第1版)」、『北東アジア研究』21、島根県立大学東アジア地域研究センター
	1900	장수호(2011)、『조선시대말 일본의 어업 침탈사』、블루&노트 ※
	1901	朴炳涉(2011)、「竹島=独島漁業の歴史と誤解(1)(2)」、『北東アジア文化研究』33、34、鳥取短期大学北東アジア文化総合研究所
	1902	김수희(2011)、「개항기 일본 어민의 조선어장 침탈과 러일간의 각축」、『大邱史学』102、大邱史学会(韓国大邱市) ※
	1903	李根雨(2011)、「『韓国水産誌』의 編纂과 그 目的에 대하여」、『동북아시아문화연구』27、동북아시아문화학회 ※
	1904	杉原 隆(2012)、「江戸時代から昭和期にかけて竹島問題に関わった隠岐の人々の軌跡」、『竹島問題に関する調査研究最終報告書 第2期島根県竹島問題研究会』、島根県総務課(松江)
	1905	福原裕二(2012)、「鬱陵島友会と『鬱陵島友会報』」、『竹島問題に関する調査研究最終報告書 第2期島根県竹島問題研究会』、島根県総務課(松江)
	1906	池内 敏(2012)、『竹島問題とは何か』、名古屋大学出版会
	1907	朴炳涉(2012)、「江戸時代の竹島=独島での漁業と領有権問題」、『北東アジア文化研究』35、鳥取短期大学北東アジア文化総合研究所
	1908	小岩信竹(2012)、「日韓併合下の朝鮮における水産物の流通について—統営及び釜山における日本人の活動—」、『市場史研究』31、市場史研究会(大阪)
	1909	小岩信竹(2012)、「朝鮮漁業令公布以後の朝鮮における漁業組合の展開—日本人関係漁業組合の事例—」、『人間科学研究』9、日本大学生物資源科学部(藤沢)
	1910	清水満幸(2012)、「萩再発見№104 海を拓いた萩の人々Ⅰ ~ 鱈延縄漁業 ~」、『はぎ時事新聞』2012年7月13日付、長門時事新聞社(長門)
1911	原田 環(2012)、「朝鮮半島への日本人の漁業進出史に関する文献リスト(1893~2010)」、『県立広島大学人間文化学部紀要』7、県立広島大学人間文化学部(広島)	
1912	윤소영(2012)、「1900년대초 일본측 조선어업 조사자료에 보이는 독도」、『한국독립운동사연구』41、독립기념관 한국독립운동사연구소(천안) ※	
1913	杉原 隆(2013)、「明治16年鬱陵島から退去させられた島根県人について」、『竹島問題に関する調査研究報告書 平成23年度』、島根県総務課(松江)	
1914	杉原 隆(2013)、「明治十六年鬱陵島を退去させられた石見の人達」、『郷土石見』92、石見郷土研究懇話会(浜田)	
1915	福原裕二(2013)、「植民地朝鮮期の鬱陵島日本人社会」、『総合政策論叢』25、島根県立大学総合政策学会(浜田)	
1916	竹国友康(2013)、『ハモの旅、メンタイの夢—日韓さかな交流史—』、岩波書店(東京)	
1917	福原裕二(2013)、『たけしまに暮らした日本人たち』、風響社	

2005- 2014年	1918	조세현(2014)、「19세기 후반 해운과 어업을 통해 본 한중관계」、『역사와경계』90、부산경남사학회 ※
	1919	森須和男(2014)、「近代における鬱陵島の鰺(スルメ)産業と隠岐島」、『北東アジア研究』25、島根県立大学東アジア地域研究センター

注)

1. 日本の県史・市史・町史・村史、韓国の道史・市史・面史・里史に掲載された朝鮮の水産開発に関するものは、ここでは基本的に取り上げていない。
2. ※は韓国語(朝鮮語)、他は日本語を示す。
3. ☆印は補注を示す。
4. 筆者または編者が明記されていないものは「筆者不明」「编者不明」と表記し、出版元が明記されていないものは「出版元不明」と表記した。
5. 平安北道の昭和十三、十四、十五各年版の『水産統計』のように、奥付(刊行年等)がはっきりしないものは、このリストから省いた。